

余市町

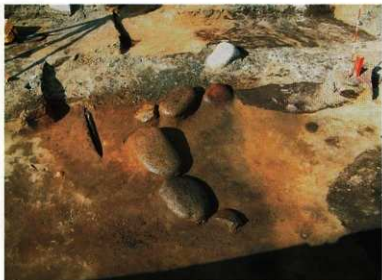
大川遺跡

(2005年度)

余市都市計画道路事業(3・4・13河口港線)に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2006. 3

北海道余市町



左) P-96 上面配石 (南→北)



右) P-96 遺体・木槨出土状況 (南東→北西)



左) P-96 遺体拡大

口絵1 配石・木槨出土墓坑



P-93 全景 (東→西)



P-93 木槨・漆製品出土状況



P-107 全景 (南東→北西)



P-107 漆製棺輪出土状況



P-108 全景 (南東→北西)



P-65 木槨出土状況 (南東→北西)

口絵 2 木槨出土墓坑



P-61 全景 (南東→北西)



P-61 漆製輪出土状況



P-111 全景 (南東→北西)



P-111 漆製輪出土状況



P-63 首飾り出土状況 (南東→北西)



P-63 首飾り拡大



P-20 凝灰岩粗粒出土状況 (南→北)



P-20 首飾り出土状況 1 (南東→北西)



P-20 首飾り出土状況 2 (南→北)



P-20 首飾り拡大



P-84 全景 (東→西)



P-84 首飾り・腕輪出土状況



P-52 全景 (北→南)



P-52 首跡り出土状況



P-55 全景 (南→北)



P-55 首跡の出土状況



P-50 全景 (南東→北西)



包含層(154b 目層) 朱土器出土状況



SM-7 南側全景 (東→西)



SM-7 北側全景 (南東→北西)



H-1 南側全景 (東→西)



H-1 北側全景 (南東→北西)



MO-27 全景 (北→南)



MO-28 全景 (西→東)

口絵6 貝塚・住居跡・壕状遺構



左) P-84

中央) P-85

右) P-20



上段 左) P-83 右) P-43

下段 左) P-7 中央) P-24 右) P-62



P-50

P-52

P-63

P-31

P-77



P-22 P-111

P-51

P-93

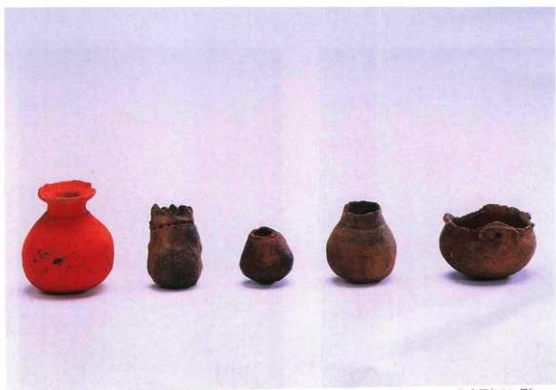
P-96

口絵7 墓坑出土の玉類



包含層(154bⅢ)出土

P-2 覆土出土



P-50

包含層(m31dⅢ)

包含層(152aⅢ)

包含層(152aⅢ)

包含層(154cⅢ)

口絵8 出土遺物

序

余市町は江戸時代よりニシンの千石場所として、戦後はリンゴやサクランボなどのフルーツの町としても知られ、海の幸・山の幸が豊富な自然環境にあります。また文化財に目を向けると国指定史跡フゴッベ洞窟、国指定史跡大谷地貝塚、国指定史跡重要文化財旧下ヨイチ運上家、国指定史跡旧福原漁場、有形登録文化財ニッカウキスキー工場をはじめ、道指定文化財2件、町指定文化財33件、埋蔵文化財64件を数えます。1989年以降、町内では多くの遺跡の発掘調査を実施しており、古代における人々の生活が次第に明らかになってきました。

このたびの大川遺跡の調査ではおよそ2000年前の縄文時代晩期のお墓が多数確認され、首飾り、勾玉、漆器などの副葬品が発見され、当時の埋葬方法や生活の道具が明らかになりました。今後は発掘の成果を広く地域の方々に紹介し、文化財保護活動の一助とする所存です。

今回の調査にあたり、発掘調査と整理作業に従事された方々、工事関係者のご理解や地域の皆様のご協力によって成果をあげることができました。ここに衷心より厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

余市町長 上野 盛

例 言

1. 本書は、平成17年度に実施された余市町による余市都市計画道路事業（3・4・13河口港線）に伴う記録保存を目的とした大川遺跡の発掘調査報告書である。

2. 本書は乾芳宏が執筆編集をした。

なお、第Ⅰ章・第Ⅲ章・第Ⅳ章は乾、第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅳ章は原、第Ⅴ章は名古屋大学新美倫子が執筆担当をした。

3. 発掘調査及び整理体制

●調査体制

町	長	上野 盛
	建設水道部部長	土門 仁
	都市建設課課長	池田 徹
	都市建設課主任技師	柳田義孝
	都市建設課係長	千葉雅樹
	都市建設課技師	井上健男

●調査担当者

町教育委員会文化財課主幹	乾 芳宏
調査補助員	原 靖寿
事務補助員	木下絵美子

●発掘作業員 阿部栄子・内田豊子・菊池則子・北川千登世・久保照代・古田千穂
渡部優喜子・奥寺武男・善部善明・安本幹雄

●整理作業（分担）

遺物実測・トレース	阿部栄子・北川千登世・久保照代
拓	本 内田豊子
撮	影 原 靖寿
遺構実測・トレース	菊池則子

●遺跡の調査内容

遺 跡 名	大川遺跡（登載番号D-19-6）
所 在 地	北海道余市郡余市町大川町2丁目74番地
調査期間	平成17年6月1日～平成17年12月6日
整理期間	平成17年12月7日～平成18年2月28日
事業主体	余市町
発掘主体	余市町
調査面積	1, 520㎡

4. 遺物の保管

遺跡から出土した遺物については、余市町教育委員会が保管管理する。

5. 発掘調査及び整理事業には次の方々の指導、助言、協力を得た。

北海道教育委員会 越田賢一郎・田才雅彦・青柳文吉、札幌市教育委員会 上野 秀一
石狩市教育委員会 石橋孝夫・工藤義術・志賀健司、小樽市教育委員会 石川直章
仁木町教育委員会 嶋井康夫、伊達市教育委員会 大島直行・青野友哉
函館市教育委員会 佐藤智雄、常呂町教育委員会 武田 修、
厚真町教育委員会 乾 哲也・小野哲也・奈良智法、青森市教育委員会 稲垣 森太
(財)北海道埋蔵文化財センター 西田 茂・三浦正人・田口 尚・遠藤香澄・鈴木 信
土肥研晶・芝田直人・立田 理、道立アイヌ文化研究センター 古原敏弘、
アイヌ文化研究機構 秋野茂樹、国学院大学 小林達雄・鈴木靖民、東京大学 村井章介、
国立歴史民俗博物館 西本豊弘、野村 崇、仲鉢 浩、本村美和 (敬称略)

凡 例

1. 遺構の平面及び本文中で使用した略称は下記のとおりである。

竪穴住居 H (House) 土坑・墓坑 P (Pit)
貝塚 SM (Shell Mound) 焼土 FP (Fire Pit)
壕状遺構 MO (Moat)
石器集中 CS (concentration of stone tools)
剥片集中 CF (concentration of flakes and chips)
土器集中 CP (concentration of potsherds)

2. 挿図の縮尺については基本的に下記のとおりである。

遺構配置図及び全体図 1/300 メインセクション図 1/30
遺構関係 1/20 1/40 (なお、MO-27は1/80で示した)
遺構図の記載に関して大グリット及び小グリットを記載し、紙面の都合上記載できない遺構
に関しては北の方角を記載した。

遺物関係 土器・陶磁器・鉄鍋 1/4 陶磁器の染付 1/2
剥片石器 1/2 石礫器 1/3
金属製品・鉄器・骨角器・玉 1/2 (一部、玉類に関しては原寸で記載した)
なお、紙面の都合上例外的に縮尺を変えたものに関しては縮尺を示した。

3. 写真図版の縮尺は任意である。

目 次

序	i
例 言	ii
第 I 章 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 遺跡の立地と層序	9
3. 調査の方法と整理	9
第 II 章 遺 構	13
第 III 章 遺構外出土の遺物	75
第 IV 章 まとめ	97
第 V 章 付 編 2005年度大川遺跡出土の人骨	100
2005年度大川遺跡出土の動物遺存体	103

図 版 目 次

第 1 図 遺跡の位置図 (1:50000)	1
第 2 図 明治29年の余市川流域図	2
第 3 図 発掘区調査地点位置図 (1:500)	3
第 4 図 過去の大川遺跡の全体図 (1:700)	4
第 5 図 発掘区設定・遺構配置図 (折り込み・1:300)	5~6
第 6 図 土層断面図 I	7
第 7 図 土層断面図 II	8
第 8 図 漆製品・木槨出土の墓坑 1	21
第 9 図 木槨出土の墓坑 2	22
第10図 木槨出土の墓坑 3	23
第11図 木槨出土の墓坑 4	24
第12図 木槨出土の墓坑 5	25
第13図 木槨出土の墓坑 6	26
第14図 木槨出土の墓坑 7	27
第15図 木槨出土の墓坑 8	28
第16図 サメの歯出土の墓坑	29
第17図 玉製品出土の墓坑 1	30
第18図 玉製品出土の墓坑 2	31
第19図 玉製品出土の墓坑 3	32
第20図 玉製品出土の墓坑 4	33
第21図 玉製品出土の墓坑 5	34
第22図 玉製品出土の墓坑 6	35
第23図 玉製品出土の墓坑 7	36
第24図 玉製品出土の墓坑 8	37
第25図 墓坑 1	38
第26図 墓坑 2	39

第27図	墓坑 3	40
第28図	墓坑 4	41
第29図	墓坑 5	42
第30図	墓坑 6	43
第31図	墓坑 7	44
第32図	墓坑 8	45
第33図	墓坑 9	46
第34図	墓坑10	47
第35図	墓坑11	48
第36図	墓坑12	49
第37図	墓坑13	50
第38図	近世・近代の墓坑	51
第39図	住居跡	52
第40図	焼土 1	53
第41図	焼土 2	54
第42図	石器集中・剥片集中	55
第43図	土器集中 1	56
第44図	土器集中 2	57
第45図	石組炉-1・貝塚 1	58
第46図	貝塚 2	59
第47図	貝塚 3	60
第48図	貝塚 4	61
第49図	貝塚 5	62
第50図	貝塚 6	63
第51図	貝塚 7	64
第52図	壕状遺構	65
第53図	遺構外出土の遺物 1	77
第54図	遺構外出土の遺物 2	78
第55図	遺構外出土の遺物 3	79
第56図	遺構外出土の遺物 4	80
第57図	遺構外出土の遺物 5	81
第58図	遺構外出土の遺物 6	82
第59図	遺構外出土の遺物 7	83
第60図	遺構外出土の遺物 8	84
第61図	遺構外出土の遺物 9	85
第62図	遺構外出土の遺物10	86
第63図	遺構外出土の遺物11	87
第64図	遺構外出土の遺物12	88
第65図	遺構外出土の遺物13	89
第66図	遺構外出土の遺物14	90

写真目次

口絵 1	配石・木槨出土墓坑	
口絵 2	木槨出土墓坑	
口絵 3	墓坑 1	
口絵 4	墓坑 2	
口絵 5	墓坑 3	
口絵 6	貝塚・住居跡・壕状遺構	
口絵 7	墓坑出土の玉類	
口絵 8	出土遺物	
写真 1	調査前・作業風景・完掘状況	110
写真 2	墓坑 1	111
写真 3	墓坑 2	112
写真 4	墓坑 3	113
写真 5	焼土	114
写真 6	石器集中・土器集中	115
写真 7	貝塚・石組炉	116
写真 8	住居跡・壕状遺構	117
写真 9	出土遺物 1	118
写真 10	出土遺物 2	119
写真 11	出土遺物 3	120
写真 12	人骨写真 1	121
写真 13	人骨写真 2	122
写真 14	人骨写真 3	123
写真 15	動物遺体写真 1	124
写真 16	動物遺体写真 2	125

第I章 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経緯

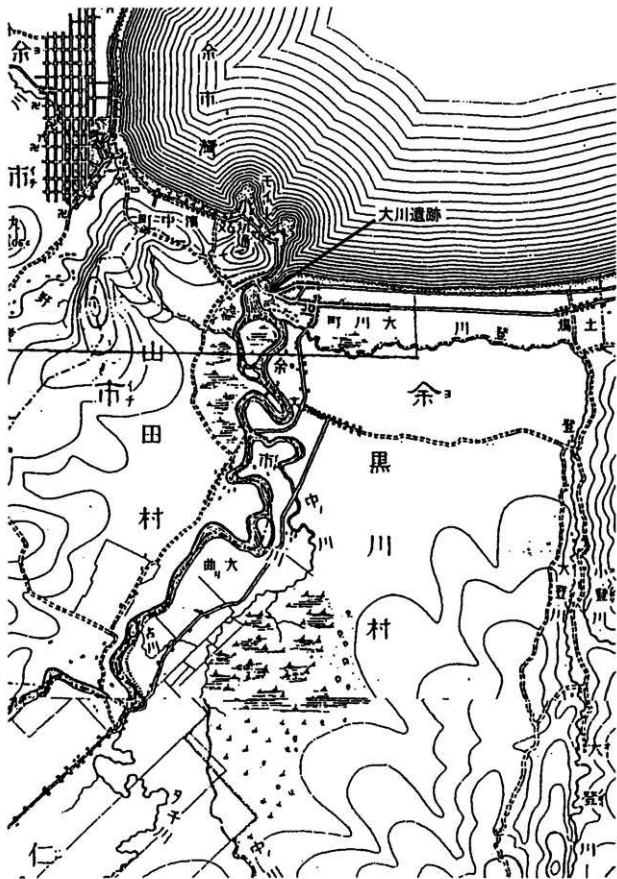
余市町は北海道の西南部、積丹半島の基部に位置する。大川遺跡は町の中央を流れる余市川右岸の標高約5mほどの砂丘上に立地している。この遺跡は大正時代から知られており、本格的な学術調査は1958年に名取武光・峰山巖氏と郷土文化研究会によるものである。この調査により、縄文時代晩期の墓坑群であることが判明し、後志地域で重要な遺跡であることが確認された。

さて、余市川は過去に度々氾濫を起こすことから治水対策が必要となり、1989年度から北海道小樽土木現業所による余市川改修工事、1998年度からは河川改修に伴う大川橋線街路事業が着手されることになった。しかし、大川遺跡が河川際にあることから、北海道教育委員会による事前の試掘調査が実施された。その結果を受け余市川左岸の入舟遺跡を含め約35,000㎡が記録保存の対象となり、1989～2003年度に町教育委員会による緊急発掘が実施された。この発掘調査により、この遺跡は縄文時代晩期にとどまらず、続縄文、擦文、中世、近世・近代に及ぶ複合遺跡であることが確認された。特に注目をされるのは、ほとんど知られていなかった中世の遺物である中国青磁・白磁、石川県の珠洲陶器などが大量に出土したことで、この地域に和人が居住していた可能性が出てきたことである。このことは文献記録である松前藩の歴史書である『新羅之記録』に記述された中世の余市について比較検討も視野に入れることにもなった。また、近世については貝塚に伴って大量の肥前陶磁器が出土し、墓坑からは金蒔絵による漆器、太刀などが副葬されていたことから、本州との交易が盛んであったことが窺われ、中世～近世における余市川河口の様相が推測されることになったことは大きな成果であり、それは北海道史にも新たな視点を付け加えることとなった。

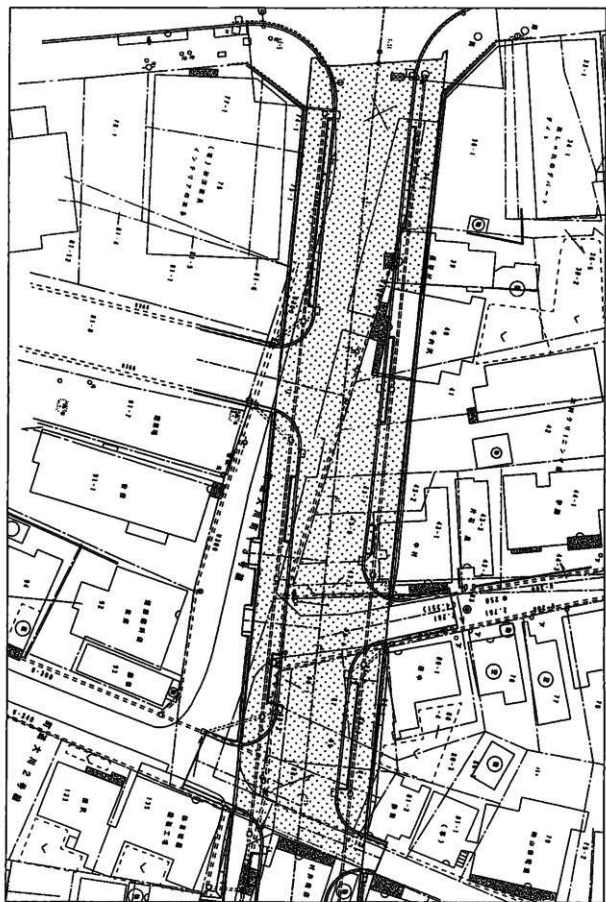
今回の発掘調査区は余市都市計画道路事業による河口港線道路改良工事に伴う緊急発掘調査であり、1998年度の発掘調査区にはほぼ直行する位置に隣接していることから事前の試掘調査を実施した。その結果、包含層が確認されたために北海道教育委員会と協議を進め、事業における道路線形の変更は困難であることから記録保存を目的に2005年6月から12月上旬にかけて発掘調査を実施した。



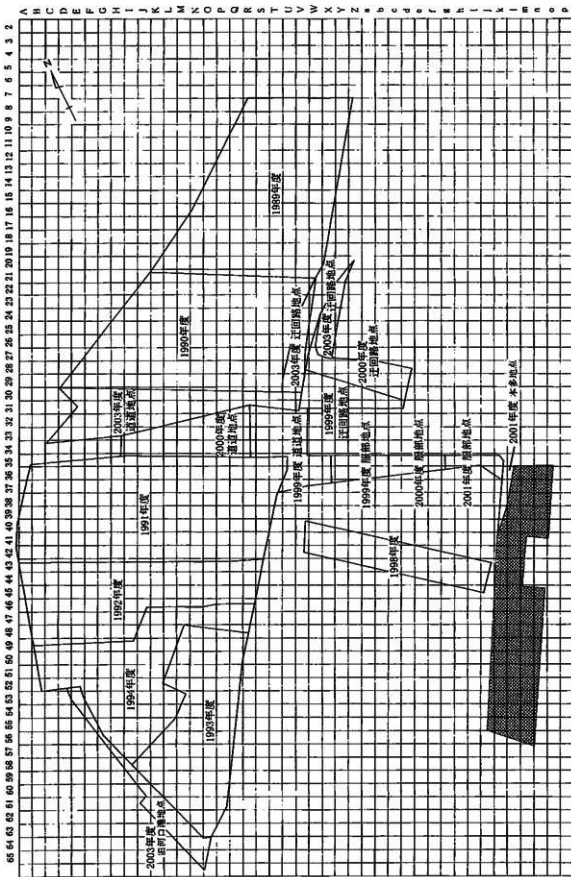
第1図 遺跡の位置図 (1:50000)



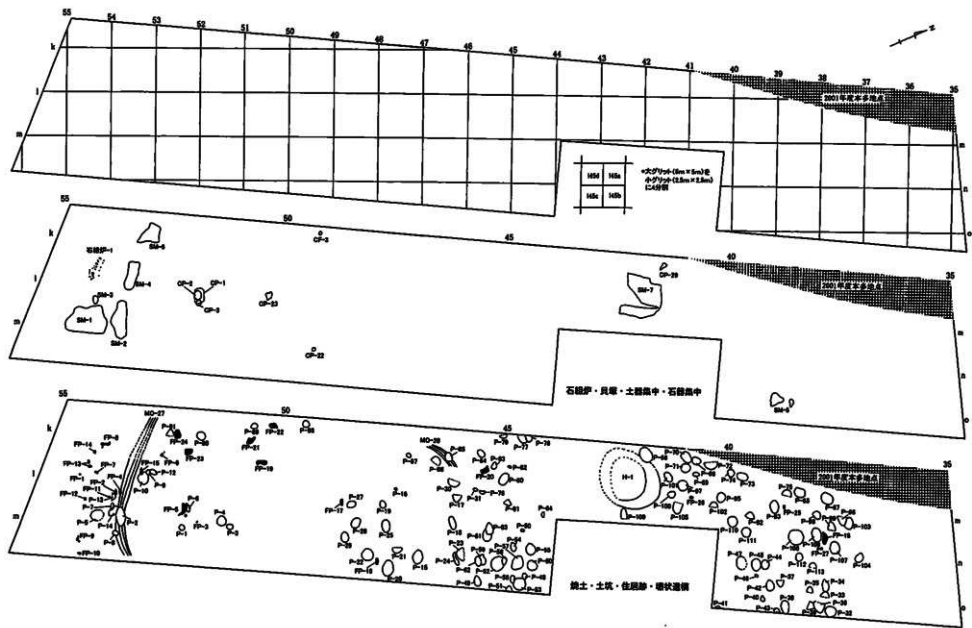
第2図 明治29年の余市川流域図



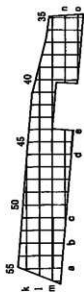
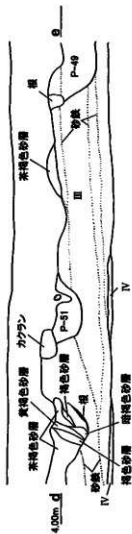
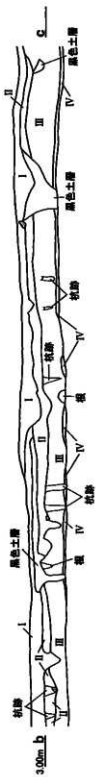
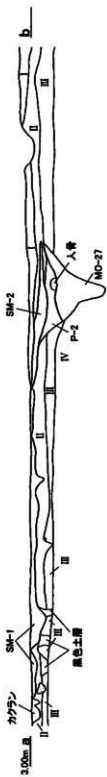
第3図 発掘調査地点位置図 (1:500)



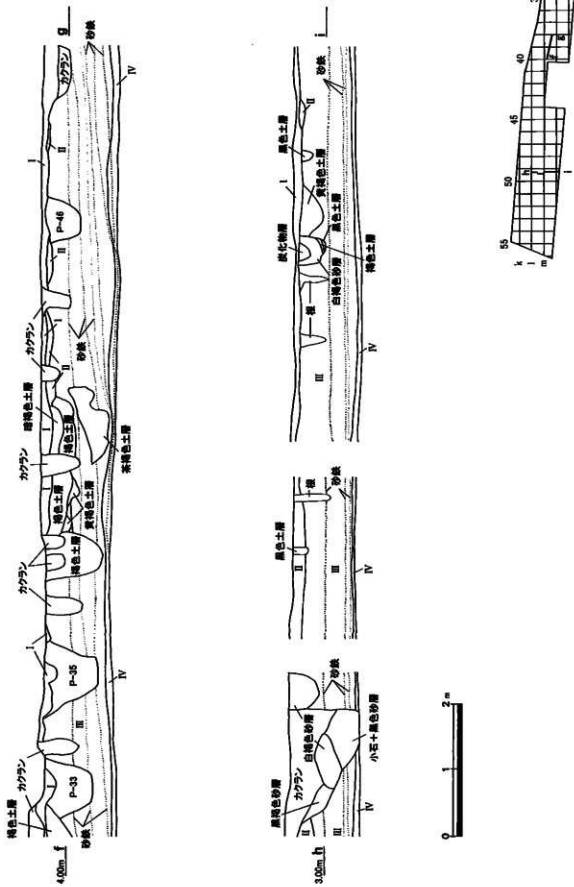
第4図 過去の大川遷跡の全体図 (1:700)



第5図 発掘区設定・遺構配置図 (1:300)



第6図 土層断面図Ⅰ



第7図 土層断面図Ⅱ

2 遺跡の立地と層序

余市川右岸の河口から約40mの位置にあり、標高約5mの大川砂丘上に立地している(第1・2図)。発掘場所はかつて町道部分及び民家跡地に当たり、道路工事のため表土はもちろん、場所によっては地下2mにも及ぶ攪乱がある。

層序は基本的に4層とし、以下のとおりである。

- I 表土 道路及び住宅地のため盛土をしており、攪乱が激しい。
厚さは0.3~1mに及んでおり、多量のコンクリートブロックが下部に含まれる。
- II 黒色土 厚さは0.1~0.4mほどあり、攪乱のため調査区全体では確認できなかった。
遺物包含層であり、主として近世・近代の遺物が多く見られ、下層には縄文・擦文土器などが出土した。
- III 茶褐色砂層 茶褐色を呈し、厚さ0.2~1.0mほどで縄文時代晩期の遺物包含層である。
砂は細かく、乾燥がはやく砂丘を構成しているものである。
- IV 暗褐色砂層 暗褐色を呈し、やや湿気をおび、固くしまっているもので無遺物層である。

松田義章氏の検討によれば縄文時代晩期以降に当時の余市川の大規模な洪水・氾濫によって形成された氾濫原堆積物の可能性を考察している。

参考文献

- 久保武夫 1996「余市海岸の砂丘」『余市高校研究紀要』
- 松田義章 1992「余市大川遺跡における氾濫原堆積物」『1991年度大川遺跡発掘調査概報』
余市町教育委員会

3 調査方法と整理

(1) 調査の方法

2003年度の調査において設定されたグリットを今回も引き続いて使用した。(グリット設定図は図5の上段に示した。)

発掘にあたり、表土および攪乱層は重機を利用して掘削し、II、III層はすべて移植で掘り下げることにした。

遺物については5mグリットを2.5mの小グリットに4分割(a・b・c・d)して遺物を取り上げることとし、遺構に関連すると思われる遺物、包含層にあって、一括遺物などは地点を実測、写真撮影をして取り上げることにした。

遺構、遺物の出土の実測については、5mグリットを基準として水糸実測とし住居跡については20分の1、墓抗については10分の1とした。

さらに墓抗の副葬品について、玉類などは1分の1、あるいは2分の1で実測してその状況を把握できるようにした。

遺構の土層断面については実測することに努めたが、砂層のため墓抗の底面に敷かれたベンガラ及び遺体層の確認しかできない場合が多く、標高のみにとどめたものもある。

また、基底の漆製品についてはそのままの状態を取り上げるように善処した。遺体はすべて取り上げ、土壌については篩で遺物のとりこぼしのないように配慮した。

貝塚については堆積状況を踏まえて必要な部分からサンプルを採取した。

発掘現場での遺構・遺物・調査風景などの写真撮影は320万画素のデジタルカメラと35mmのネガ・リバーサルフィルムを併用し、記録した。

(2) 遺物の整理

発掘と整理は並行して進めるようにし、発掘の遺物は早めに洗浄し、遺物の特徴を把握するようにつとめた。

遺物の注記は大川遺跡の発掘年度、大グリットと小グリットをすることによって後世に活用できるようにした。

遺物は実測、拓本、写真の記録保存とし、遺物の収納については報告書の図版に合わせて行うこととした。

人骨については、遺物ではあるが、人権的な配慮から名古屋大学に運搬し分析等を行った。

主要な遺物については、博物館に展示、学校での授業などの教育普及として活用を図っていく予定である。

(3) 遺物の分類

今年度に出土した遺物の中で出土量の多い土器・石器・陶磁器について便宜上、下記のように分類した。

(1) 土器・陶磁器

第Ⅰ群：縄文時代後期に属するもの (今回の調査では出土していない)
前半のニセコ式、涌元式に相当するもの

第Ⅱ群：縄文時代晩期に属するもの

- a類 前葉の大洞B～BC式に並行するもの
- b類 中葉の大洞C₁～C₂式に並行するもの
浜中大曲式・桃内式を含む
- c類 後葉の大洞A～A'式に並行するもの

第Ⅲ群：続縄文時代に属する土器群 (今回の調査では出土していない)

- a類 前葉の琴似式・港大照寺式に相当するもの
- b類 恵山式に相当するもの

- c類 弥生系土器に相当するもの
- d類 鈴谷式に相当するもの
- e類 東歌別式に相当するもの
- f類 後北式（A～D式）に相当するもの
- g類 北大式（I～Ⅲ式）に相当するもの

第Ⅳ群：撥文時代に属する土器群

- a類 撥文土器に相当するもの
- b類 土師器に相当するもの
- c類 須恵器に相当するもの

第Ⅴ群：近世に属する陶磁器類

- a類 青磁・白磁に相当するもの
- b類 珠洲焼に相当するもの
- c類 瀬戸・美濃焼に相当するもの
- d類 須恵器に相当するもの

第Ⅵ群：近代に属する陶磁器類

- a類 肥前陶磁器に相当するもの
- b類 その他の陶磁器に相当するもの

(2) 石器

・剥片石器類

石 鏃 長さ5cm未満の尖頭器で、有茎と無茎のものがある。恵山文化には前者が多く、後北文化には後者が多い。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。

石 槍 長さ5cm以上の尖頭器。厚みがあり、先端が尖るもの。石質として黒曜石、頁岩、チャート、メノウを使用する事が多い。

石 錐（ドリル） 厚みがあり、先端が尖っているもの。石質として頁岩、チャート、メノウを使用することが多い。

石製ナイフ 太い柄部をもつ定型的なもので、刃部を作出しており、縄文文化に多く使用される。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。

スクレイパー 縦長剥片の側面に刃部をもつもの（サイドスクレイパー）、比較的厚手の縦裂ぎ剥片の下方に刃部をもつもの（エンドスクレイパー）、剥片を円形に加工し、刃部をもつもの（ラウンドスクレイパー）などがある。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。

R F Retouched Flakeの略で剥片の縁辺に細かい刃部を作り出すもので器種の特定できないもの。石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。

石核（コア） 剥片石器の母岩となるもので剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。

剥片（フレイク） 石核から剥離した破片。

・礫石器類

石 斧 磨製、または局部磨製と打製があり、両刃と片刃がある。石質として泥岩、ハンレイ岩、片岩、玄武岩を使用することが多い。

魚形石器 恵山文化に伴うもので頭部、尾部などを作成し、釣りの錘に使用したと思われるもの。石質として砂岩、粘板岩、泥岩類を使用することが多い。
(今回の調査には出土していない。)

敲石・凹石類 使用による敲打痕や窪みのあるもの。石質として砂岩、安山岩、泥岩類を使用する事が多い。

擦石・砥石 使用により擦痕や研磨痕のあるもの。石質として砂岩、凝灰岩、沉岩類を使用することが多い。

石 皿 大形の自然石を利用しており、中央部が皿状にへこんでいる。石質は砂岩、安山岩などを使用することが多い。

・装身具類

有孔石製品 石を薄く磨き、中央に大きな孔がみられるもの自然に開いた穴のある石をそのまま使用、または一部に加工が施されているもの

玉 類 形態から勾玉・管玉・棗玉・白玉・平玉があり、石質として勾玉にヒスイ・蛇紋岩・土製、管玉に碧玉・鉄石英・蛇紋岩、棗玉にはヒスイ・蛇紋岩・凝灰岩・コハク、白玉や平玉にはガラス・蛇紋岩・凝灰岩のものが多い。

第Ⅱ章 遺 構

今回、検出した遺構の種類は、墓坑・住居跡・焼土・貝塚・石組炉・塚状遺構・土器集中・石器集中である。遺構の種類及び年代においても縄文時代から近代まで多岐にわたる。

(1) 墓 坑

今回出土した墓坑（晩期108基、近世・近代2基、欠番3基）の大多数は縄文晩期後半に位置するものである。近世・近代の墓坑は2基出土した。調査の過程において墓坑の半数近くは発掘調査以前にあった住居及び道路工事のため壊されていた。墓坑上面の覆土部分が壊されているものが多く、墓坑によっては遺体層のみ確認でき掘りこみは確認できないものもあった。

縄文晩期後半の墓坑においては、長軸が1.5～2m、短軸が1.0～1.7m、の楕円形のものが多い。今回の調査において特筆する点として、1)木柵の痕跡が確認された。2)墓坑覆土上面の中央部において凝灰岩粗粒の封土が確認された。3)特徴ある副葬品が上げられる。

1)木柵の痕跡においては以前（1998年度）の調査において墓坑から出土した遺体において両脇が盛り上がっているものが何基か出土した。今回もこれに似たものが出土、遺体上面から掘り下げた際に四角い枠が確認された。その下を掘り下げると遺体が四角い枠に収まる形で埋葬されていた。また断面においても四角い枠に沿う形で立ち上がり確認された。このことから木柵であると判断した。これ等木柵に関して北海道において出土した例があまり見られない。また、今回、墓坑を調査していく過程において遺体上面において植物の繊維らしきものの堆積がみられた。この様に遺体上面を覆う埋葬方法は統縄文時代において遺体全面をベンガラで覆う埋葬方法につながっていくものと思われる。

2)今回の調査において墓坑上面に凝灰岩粗粒を封土とする埋葬方法が確認された。以前からの大川遺跡の調査において凝灰岩粗粒の塊が出土していたが墓坑上面に封土として使用したのもであると確認できなかった。今回、凝灰岩粗粒が出土した周辺を注意して平面を確認したところその直下から遺体層が出土したため墓坑であると確認できた。この凝灰岩粗粒から土器片も出土しているが直接、墓坑に伴うものであるとは考えづらい。周辺の包含層を壊して墓坑を構築しているために凝灰岩粗粒に混入した可能性が高いと思われる。

3)副葬品の種類を列挙すると漆製品（頭部に巻かれた布状製品・腕輪・腰布）、サメの歯、翡翠及び蛇紋岩製の勾玉、凝灰岩製・蛇紋岩製・琥珀製の白玉が出土している。副葬品の種類は限定されなかつ、全ての墓坑にあるわけではない。

玉類においては玉が1点で出土するのは少なく、出土する墓坑においては連なって出土しているものが多い。玉類の多くは遺体の首と思われる部分から出土していることから首飾りと推測される。また、遺体の腕と思われる部分から連なって出土している。これ等は腕輪の可能性が高いと思われる。

サメの歯においては遺体の頭部付近に固まって出土している。形態としてはアイヌ民族の礼冠（サバンベ）と似た使用方法と思われる。

漆製品においては今回は4基の墓坑で確認された。そのうち1基（P-93）は腕輪・頭部に巻かれた布状製品・腰布がセットで出土した。その墓坑においては翡翠製の勾玉も出土し、木柵の痕跡も確認できた。

近世・近代の墓坑は2基確認された。ひとつの墓坑（P-2）においては掘り込みは確認でき

ず、塚状遺構（MO-27）の最深部が埋まった所の窪みに遺体を安置したものである可能性が高い。そのため遺体周辺においては副葬品は見られなかった。更に遺体上面に関して貝塚（SM-2）が形成されていた。もう一つの墓坑（P-14）において遺体の頭部しか出土していない。掘り込みは確認できたが副葬品及び遺体胴部・手足においては出土していない。

（2）住居跡

住居跡においては今年度の調査において1軒出土した。しかし、道路工事及び以前の道路のため全体の形態は確認できず、そのため住居の炉・竈及び柱穴は確認できなかった。住居上面において貝塚（SM-7）が形成されていたが、住居に伴う遺物は確認できなかった。周辺状況から判断して縄文晩期後半と思われるが判然としない。

（3）焼土

焼土においては大半がⅡ層の黒色土から出土している。Ⅱ層出土の焼土については近世・近代の焼土と考えられる。Ⅱ層上面において近世・近代の遺物が出土、そのためⅡ層上面の生活面は近世・近代と思われる。Ⅲ層出土の焼土においては縄文晩期前半であると考えられる。Ⅲ層包含層においては縄文晩期前半の遺物が出土している。そのため生活面としては縄文晩期前半と思われる。

（4）石器集中

石器集中においては構成する石器の種類においてCS・CFに分けた。CSでは黒曜石の原石を打ち欠いたものが集中し出土した。CFにおいては石器を製作する際に発生した剥片などがまとまって出土したものをさす。

- ・CS-2においては先にも述べたが黒曜石の原石に比較的に近いものが集中して出土している。これら出土した原石においては石器の製作を行ったものであると言いにくい。
- ・CF-2においては同一の原石から石器を製作するために作業を行った場所であると思われる。接合関係にある破片が出土したが定型的な石器は出土していないことが上げられる。
- ・CF-3においては縄文晩期の特徴的な棒状原石が出土、その他にも原石面を残す破片が出土している。

今回出土したCS・CFの特徴としては石器を製作していた痕跡が確認された。これらCFが出土した場所は調査区内において南東側に位置し縄文晩期の墓坑群からやや離れた場所に位置する。このことから推測すると調査区の南東側は生活の場所であったと考えられる。大川遺跡全体から推測すると今回の調査区の南東側に縄文晩期の住居跡があると思われる。

（5）土器集中

今回の調査において整理の都合上まとまって出土した土器に関しては土器集中として取り上げた。その中で遺構の可能性のあるものをここに記載した。

- ・CP-1・CP-2・CP-3において、CP-1の下層にCP-2・CP-3が広がる。この3ヶ所の土器集中は同一の土器集中であると考えられる。破片は破片しており復元可能な個体は含まれておらず、口縁部の特徴で時期を判断した。土器分類のⅡ群b類と思われる。

- ・CP-22において土器破片数は少ないが掘り込みを作り土器片や礫を廃棄している。掘り込みの大きさから考えて墓坑の可能性はないと思われる。土器片は図示していないが土器分類のⅡ群b類と思われる。
- ・CP-23においては同一個体がまとまって出土した。今回の調査において同一個体がまとまって出土した例は少ない。その点から考慮すると掘り込みは無いが意図的に土器を廃棄した場所であると思われる。土器分類のⅡ群a類と思われる。
- ・CP-29においては特徴的な土器がほぼ一一体で出土した。その他に石器を製作した際に発生したと思われる剥片を伴う。

(6) 貝塚

今回出土した貝塚の特徴としては塚状遺構(MO-27)及び住居跡(H-1)の上に構築されているものが多い。塚状遺構並びに住居跡が埋まった後の窪みを利用して作られたものであると推測される。時代としては近世・近代のものであると思われる。SM-7は出土遺物から他の貝塚に比べて古い物と思われる。

(7) 石組炉

石組炉に関しては過去の大川遺跡で出土した石組炉に比べて小型である。その事からニシン漁及び漁業に使用したのものであるとは考えにくい。家庭用の炊事用のためのものであると思われる。構築時期としては近世・近代であると思われるが判然としない。

(8) 塚状遺構

塚状遺構は以前の大川遺跡の調査で出土し、余市川右岸一帯に広がっている。今回出土した塚状遺構においては2003年度までに出土した塚状遺構から距離があるが、出土状況が類似しているための過去の調査で使用した(MO-)とし新番号を与えた。

- ・MO-27においては弓状に延びており深さは最深部で約1.7mに達する。断面からみた形状は二段掘りをしており底部に向かって細くなっている。土の堆積状況においては底部においてはⅢ層となる砂層が堆積したものであると思われる。上部覆土は近世・近代のMO-27の埋没した窪みに貝殻などを投棄したものが堆積したと思われる。この様な状況からP-2の遺体は窪みに安置したものであると考えられる。
- ・MO-28においてはMO-27に比べ上面が削平されており全体は把握出来なかった。MO-27に比べて底部は広がりを持つ。土の堆積状況は基盤となるⅢ層が堆積したと思われる。

この二つの塚状遺構において共通点として時期を決定する遺物を伴わなかった。以前の調査から鎌倉時代以降に作られたと思われるが判然としない。この塚状遺構を構築した意図は不明である。

墓坑掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	傾斜方向	掲載縮尺	備 考
第37図	P-1	m52a	Ⅲ	0.92	0.91	0.18		1/20	完形土器(外面赤色塗り)
第38図	P-2	l53c・m53d	Ⅱ	2.65	1.03	0.20	E S E	1/20	人骨出土
第26図	P-3	m51b	Ⅲ	0.75	0.79	0.20		1/40	
第26図	P-4	m51ad	Ⅲ	1.12	1.06	0.32		1/40	黒曜石集中あり
第25図	P-5	l54b・m54a	Ⅲ	(1.49)	(1.38)	0.23		1/40	
第25図	P-6	l52b	Ⅲ	0.70	0.37	0.21		1/40	
第17図	P-7	l53c・l54b	Ⅲ	(1.15)	(1.10)	0.15		1/40	坑底から白玉8点・黒玉1点
第25図	P-8	m53d	Ⅲ	0.62	0.58	0.29		1/40	
第26図	P-9	l53c・m53d	Ⅲ	0.79	0.65	0.35		1/40	
第26図	P-10	m53a	Ⅲ	1.47	1.20	0.49		1/40	
	P-11	欠 番							
第26図	P-12	l52cd・k52c・k53b・l52d・l53a	Ⅲ	(0.90)	(0.68)	0.05		1/40	
第26図	P-13	l53cd	Ⅲ	(0.80)	(0.84)	0.29		1/40	
第38図	P-14	l53c	Ⅲ	1.34	0.81	0.21	S	1/20	頸蓋骨のみ
第27図	P-15	m46c・m47b・n46d・n47a	Ⅲ	1.70	0.94	0.21	NW	1/40	
第27図	P-16	l47ad	Ⅲ	(0.65)	(0.92)	0.03		1/40	
第27図	P-17	l46cd	Ⅲ	(0.94)	(0.93)	0.10		1/40	土器
第28図	P-18	l46b・m46a	Ⅲ	1.56	0.68	0.10	WNW	1/40	土器・ベンガラ
第27図	P-19	l47c	Ⅲ	(0.98)	(0.70)	0.10		1/40	
第18図	P-20	m47c・n47d	Ⅲ	1.86	1.16	0.39	WNW	1/20	※1
第27図	P-21	n48ad	Ⅲ	(0.72)	(0.99)	0.58		1/40	
第17図	P-22	m48b	Ⅲ	(1.37)	1.37	0.72	NW	1/40	遺体層から白玉2点
第28図	P-23	m46b	Ⅲ	(1.53)	(0.83)	0.11		1/40	
第17図	P-24	m46b・n46a	Ⅲ	1.62	0.50	0.18		1/20	※2
第28図	P-25	m47d	Ⅲ	1.56	(0.90)	0.13	WNW	1/40	
	P-26	欠 番							欠番 (FP-161に変更)
第28図	P-27	l48d	Ⅲ	(1.05)	(0.91)	0.07		1/40	
第28図	P-28	m48ad	Ⅲ	1.10	0.81	0.38		1/40	
第28図	P-29	m48c	Ⅲ	1.21	0.72	0.45		1/40	
第28図	P-30	l46a	Ⅲ	(0.80)	(1.06)	(0.34)	S E	1/40	
第19図	P-31	l45d	Ⅲ	(0.61)	(0.32)	0.09		1/20	遺体層から白玉97点
第29図	P-32	n37c・o37d	Ⅲ	1.33	1.21	0.41	SW	1/40	
第29図	P-33	n37cd	Ⅲ	(0.71)	(0.60)	0.18		1/40	
第29図	P-34	n37cd	Ⅲ	(1.43)	(0.70)	0.24	W	1/40	
第29図	P-35	n38b	Ⅲ	(0.60)	(0.68)	0.21		1/40	
第29図	P-36	n37c・n38b・o37d・o38a	Ⅲ	(1.15)	(1.38)	0.40		1/40	
第30図	P-37	n38cd	Ⅲ	(0.80)	(0.77)	0.21		1/40	
第29図	P-38	n38c・o38d	Ⅲ	1.61	0.96	0.69	WNW	1/40	
第19図	P-39	n38b・o38a	Ⅲ	(0.84)	(0.91)	0.36		1/40	※3

図No	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位方向	掘削総尺	備 考
第30図	P-40	n39b	Ⅲ	(0.80)	(0.48)	0.09	WNW	1/40	
第30図	P-41	n39c・o39d	Ⅲ	(0.29)	(0.83)	0.28		1/40	
第31図	P-42	n39acd	Ⅲ	1.10	0.92	0.70	WNW	1/20	
第19図	P-43	n38c・o38d・o39a	Ⅲ	(0.52)	(0.97)	0.84	WNW	1/20	※4
第30図	P-44	m39c・n39d	Ⅲ	1.20	0.79	0.65		1/40	
第30図	P-45	m39bc・n39ad	Ⅲ	1.41	1.01	0.94	NW	1/40	
第30図	P-46	n39a	Ⅲ	(0.15)	(0.63)	0.18		1/40	
第30図	P-47	m39c・m40b・n39d・n40a	Ⅲ	(1.40)	(0.98)	0.95	NW	1/40	
第31図	P-48	n44d	Ⅲ	(0.57)	(0.55)	0.11		1/40	
第31図	P-49	n45cd	Ⅲ	(1.12)	(0.80)	0.21		1/40	
第20図	P-50	m44d	Ⅲ	(1.63)	0.88	0.24	WNW	1/20	遺体層から白玉138点
第31図	P-51	n44c・n45b	Ⅲ	(0.64)	(0.78)	0.24	NW	1/40	
第31図	P-52	n45ab	Ⅲ	1.77	1.48	0.60	NW	1/20	遺体層から白玉147点
第16図	P-53	n44cd	Ⅲ	1.57	1.55	0.79		1/40	
第31図	P-54	n44c	Ⅲ	(1.32)	(0.75)	0.07		1/40	
第19図	P-55	m44bc	Ⅲ	1.28	1.09	0.23		1/20	遺体層からサメの歯218点
第31図	P-56	n44d	Ⅲ	(0.91)	(0.83)	0.12		1/40	
第19図	P-57	m44c・n44d	Ⅲ	1.57	1.20	0.22	WNW	1/40	遺体層から白玉4点
第31図	P-58	m45b・n45a	Ⅲ	0.99	0.86	0.21		1/40	
第32図	P-59	m45c・n45d	Ⅲ	1.21	0.96	0.31	NW	1/40	
第32図	P-60	m44bc・n44ad	Ⅲ	1.22	(0.97)	0.17		1/40	
第8図	P-61	m45abcd	Ⅲ	1.34	0.96	0.23	WNW	1/40	遺体層から漆製腕輪
第21図	P-62	m45b・n45a	Ⅲ	(1.14)	(0.80)	0.30	WNW	1/40	遺体層から白玉24点
第21図	P-63	m45ad	Ⅲ	(1.36)	(1.00)	0.35	WNW	1/40	遺体層から白玉136点
第32図	P-64	l44b	Ⅲ	(0.45)	(0.39)	0.11		1/40	
第14図	P-65	l38ad	Ⅲ	(1.05)	(1.16)	0.87		1/20	※5
第27図	P-66	k40c	Ⅲ	0.91	(0.88)	0.30		1/40	
第32図	P-67	l37cd	Ⅲ	(1.10)	(1.53)	0.39		1/40	
第10図	P-68	k41cd・k42ab	Ⅲ	(1.70)	1.29	0.83	W	1/20	木椀
第32図	P-69	l40c・m40d	Ⅲ	0.78	(0.61)	0.17		1/40	
第10図	P-70	k41bc	Ⅲ	1.73	1.15	0.49	W	1/20	木椀
第32図	P-71	k40c・k41b	Ⅲ	(1.04)	(0.97)	0.27		1/40	
第27図	P-72	k40c	Ⅲ	(1.14)	(0.93)	0.85		1/40	
第32図	P-73	k39c・l39d	Ⅲ	1.25	(0.90)	0.45		1/40	
第22図	P-74	k39c・k40b・l39d・k40a	Ⅲ	0.95	0.87	0.29	S E	1/40	※6
第33図	P-75	l38d	Ⅲ	(0.65)	(1.08)	0.54		1/40	
第33図	P-76	l45d	Ⅲ	(0.38)	(0.38)	0.11		1/40	
第22図	P-77	k44d	Ⅲ	(0.68)	(0.68)	0.33	S S E	1/40	遺体層から白玉82点
第22図	P-78	k44ad	Ⅲ	(0.68)	(0.53)	0.44		1/20	遺体層から白玉1点
第33図	P-79	k45a	Ⅲ	(0.48)	(0.93)	0.33		1/40	

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	方位方向	掲載縮尺	備 考
第33図	P-80	k45b・l45a	Ⅲ	1.48	(1.02)	0.30	N	1/40	
第33図	P-81	l45b・l44c	Ⅲ	(0.50)	(0.50)	0.19	WNW	1/40	
第33図	P-82	k44c・k45b	Ⅲ	(0.41)	(0.22)	0.18		1/40	
第23図	P-83	k45b	Ⅲ	0.79	0.56	0.12	WNW	1/20	遺体層から勾玉1点・白玉24点
第23図	P-84	k45cd	Ⅲ	1.05	0.76	0.18	W	1/20	遺体層から白玉251点
第24図	P-85	k46b	Ⅲ	1.10	(0.96)	0.29	W	1/20	
第33図	P-86	k46c	Ⅲ	(0.97)	(1.18)	0.41	NW	1/40	※7
第34図	P-87	k47b	Ⅲ	(0.25)	(0.49)	0.10		1/40	
第34図	P-88	j49c	Ⅲ	0.89	0.84	0.31		1/40	
第34図	P-89	j50c	Ⅲ	(0.55)	(0.64)	0.15		1/40	
第34図	P-90	k51d・k52a	Ⅲ	(0.96)	1.05	0.27		1/40	
第34図	P-91	k52d	Ⅲ	(0.84)	(0.87)	0.41		1/40	
第34図	P-92	l39c	Ⅲ	(0.45)	(0.85)	0.34		1/40	
第9図	P-93	l38c・l39b	Ⅲ	1.73	1.28	0.71	W	1/20	※8
	P-94	欠 番							
第24図	P-95	l40ab	Ⅲ	1.24	1.01	0.17	SE	1/20	ベンガラ層から白玉1点
第11図	P-96	l37b・m37a	Ⅲ	(1.32)	(1.22)	0.85	WNW	1/20	木部・上面配石
第34図	P-97	l40d・l41a	Ⅲ	(1.29)	1.03	0.20	W	1/40	
第19図	P-98	l37c・l38b	Ⅲ	1.14	0.88	0.35	WNW	1/40	遺体層から勾玉1点・磁玉1点
第34図	P-99	m37d	Ⅲ	(1.10)	(0.75)	0.14	WNW	1/40	
第35図	P-100	l41ab	Ⅲ	0.95	0.96	0.31		1/40	
第36図	P-101	k41b・l41a	Ⅲ	(1.33)	0.67	0.19	WNW	1/40	
第36図	P-102	l40b	Ⅲ	(0.50)	(0.43)	0.29		1/40	
第36図	P-103	l37b・m37a	Ⅲ	(1.63)	(0.90)	0.24	NW	1/40	
第36図	P-104	m36c・m37b	Ⅲ	1.19	0.89	0.22	NW	1/40	
第12図	P-105	l41b	Ⅲ	(1.28)	(1.11)	0.74	NW	1/20	木部
第13図	P-106	m37d・m38a	Ⅲ	1.63	1.04	1.01	WNW	1/20	木部
第8図	P-107	m37cd	Ⅲ	1.44	1.08	0.30	WNW	1/20	木部・漆製腕輪
第14図	P-108	m38abcd	Ⅲ	1.84	1.57	0.74		1/20	※9
第36図	P-109	l42b	Ⅲ	(1.08)	(0.70)	0.23	WNW	1/40	
第36図	P-110	l39c・l40b・m39d・m40a	Ⅲ	1.17	0.87	0.30	WNW	1/40	
第8図	P-111	m39a	Ⅲ	1.18	1.00	0.28		1/20	※10
第12図	P-112	n38a	Ⅲ	1.05	0.73	0.17		1/20	木部・遺体層から勾玉1点
第36図	P-113	m38b・n38a	Ⅲ	(0.53)	(0.43)	0.20		1/40	

- ※1 P-20 遺体層から白玉204点・勾玉1点 ※2 P-24 遺体層から白玉17点 ベンガラ層から白玉18点
 ※3 P-39 遺体層から白玉2点 ベンガラ層から白玉1点
 ※4 P-43 遺体層から勾玉1点・磁玉1点・白玉3点 ※5 P-65 木部・遺体層からサメの歯222点
 ※6 P-74 覆土から白玉6点 遺体層から白玉1点 ※7 P-86 遺体層から勾玉1点・白玉118点
 ※8 P-93 木部・凝灰岩粗粒層から勾玉1点 遺体層から勾玉1点・漆製品(頭部布・腕輪・履布)
 ※9 P-108 木部・遺体層からサメの歯119点
 ※10 P-111 木部・遺体層から勾玉1点 白玉1点・漆製腕輪

住居掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
第39図	H-1	k41c・k42b・l42cd・l42ab	Ⅲ	(5.05)	(4.43)	(0.39)	1/40	

焼土掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
第40図	FP-1	l54d	Ⅱ	0.49	(0.18)	0.04	1/40	
第40図	FP-2	l53d	Ⅱ	0.61	0.34	0.05	1/40	
第40図	FP-3	m51d・m52a	Ⅱ	(0.38)	0.21		1/40	
第40図	FP-4	l53d	Ⅲ	0.41	0.18	0.04	1/40	
第40図	FP-5	l52b	Ⅲ	1.63	1.27	0.15	1/40	
第40図	FP-6	k52c	Ⅲ	0.31	0.17		1/40	
第40図	FP-7	k54bc	Ⅲ	0.51	0.21	0.06	1/40	
第40図	FP-8	k53c・k54b	Ⅲ	0.86	0.21	0.11	1/40	
第40図	FP-9	m54abc	Ⅱ	0.67	0.21	0.04	1/40	下層0.74×(0.24)×0.23
第40図	FP-10	m54b	Ⅱ	0.52	0.21	0.09	1/40	
第40図	FP-11	l53c・l54b	Ⅲ	0.52	0.21	0.22	1/40	
第40図	FP-12	l54bc	Ⅲ	0.48	0.21	0.16	1/40	
第40図	FP-13	k54b	Ⅲ	0.56	0.21	0.10	1/40	
第40図	FP-14	k54ab	Ⅲ	0.58	0.21	0.08	1/40	
第40図	FP-15	l53d	Ⅲ	0.44	0.21	0.21	1/40	
第40図	FP-16	m47c・n47d	Ⅲ	0.77	0.21	0.08	1/40	
第40図	FP-17	m48c	Ⅲ	0.71	0.21	0.14	1/40	
第41図	FP-18	n37cd	Ⅲ	1.55	0.21	0.25	1/40	
第41図	FP-19	k50bc	Ⅱ	(1.36)	0.21	0.13	1/40	
第41図	FP-20	k45bc	Ⅲ	0.98	0.21	0.12	1/40	
第41図	FP-21	k50d	Ⅱ	(1.30)	0.21	0.14	1/40	
第41図	FP-22	j50b	Ⅱ	(0.74)	0.21	0.14	1/40	
第41図	FP-23	k52ab	Ⅲ	(1.02)	0.21	0.18	1/40	
第41図	FP-24	k52ad	Ⅲ	(0.88)	0.21	0.18	1/40	
第41図	FP-25	l38c	Ⅱ	0.38	0.21	0.12	1/40	
第41図	FP-26	l40cd	Ⅱ	0.58	0.21	0.08	1/40	
第41図	FP-27	m37c	Ⅱ	0.52	0.21	0.06	1/40	

石器集中掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
	CS-1	欠 番						
第42図	CS-2	m53d・m54a	Ⅲ	0.29	0.27		1/40	(際集中-1) 黒曜石
第42図	CF-1	l53a	Ⅲ	0.84	0.26		1/40	(No1~No4)(CS-1)
	CF-2	欠 番						
第42図	CF-3	j49b	Ⅱ	0.44	0.41		1/40	

土器集中掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
第43図	CP-1-1	I51cd・I52ab	Ⅲ	1.68	0.98	0.14	1/40	有孔土製円盤あり
第43図	CP-1-2	I51cd	Ⅲ	0.34	0.23		1/40	
第43図	CP-1-3	I51cd	Ⅲ	0.23	0.12		1/40	
第43図	CP-2	I51d・I52a	Ⅲ	0.92	0.75		1/40	CP-1の下
第43図	CP-3	I51cd・I52a	Ⅲ	0.74	0.57		1/40	CP-1の下
第43図	CP-22	m49ab	Ⅲ	0.87	0.84	0.26	1/40	
第43図	CP-23	I50a	Ⅱ	1.14	1.02		1/40	
第43図	CP-29	k41cd・k42b	Ⅲ	(0.96)	(0.48)		1/40	石器集中あり(0.41)×(0.25)

石組炉掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
第45図	石組炉-1	k54bc	Ⅱ	2.95	1.11	0.18	1/40	
第45図	SP-1		Ⅱ	0.54	0.52	0.28	1/40	石組炉-1の付属Pit
第45図	SP-2		Ⅱ	0.41	0.35	0.41	1/40	石組炉-1の付属Pit

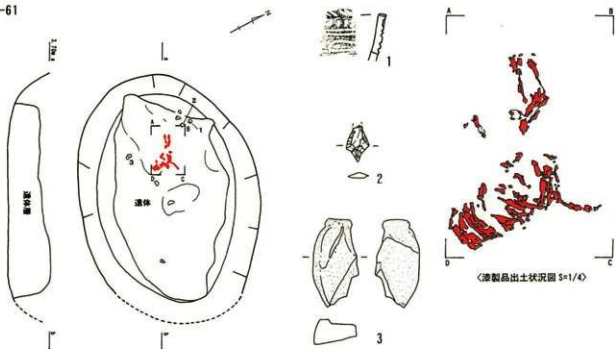
貝塚掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
第45図	SM-1	I54bc・m54ad	Ⅱ	3.08	(2.36)	0.14	1/40	
第46図	SM-2	I53c・I54b・m53d	Ⅱ	4.82	2.08	0.24	1/40	MO-27の上に位置する
第47図	SM-3	I54ab	Ⅱ	0.13	0.71	0.08	1/40	
第48図	SM-4	k53bc・I53ad	Ⅱ	(3.62)	(2.42)	0.28	1/40	MO-27の上に位置する
第47図	SM-5	I38c・I39b・m38d・m39a	Ⅱ	(2.66)	0.72	0.06	1/40	
第47図	SM-6	k52d・k53a・J53b・J52c	Ⅱ	(2.16)	1.48	0.34	1/40	MO-27の上に位置する
第49図	SM-7	k41c・k42b・I41cd・I42abcd	Ⅱ	(4.59)	(4.54)	0.42	1/40	H-1の上に位置する

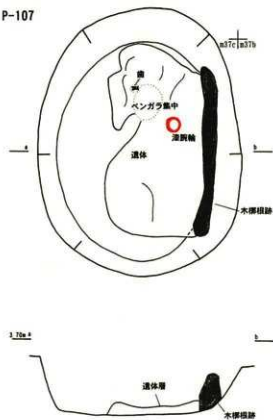
壕状遺構掲載表

図No.	遺構名	グリット	層位	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	掲載縮尺	備 考
第52図	MO-27	J53b・k53abc・I53acd・m53cd	Ⅱ	(15.75)	0.98	1.02	1/80	
第52図	MO-28	k46cd	Ⅲ	(2.97)	0.32	0.28	1/40	

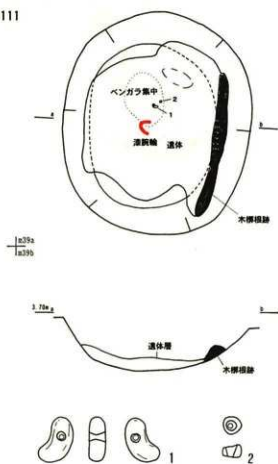
P-61



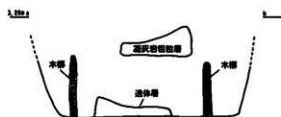
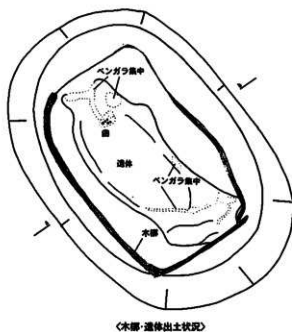
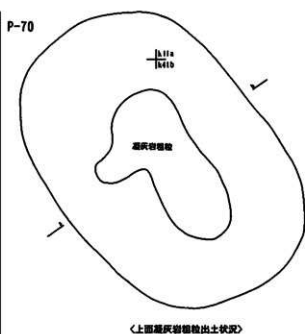
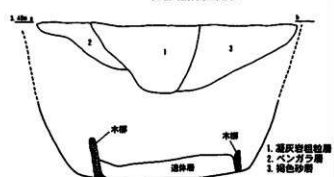
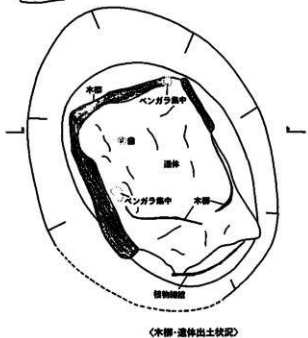
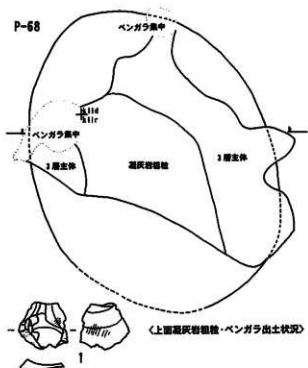
P-107



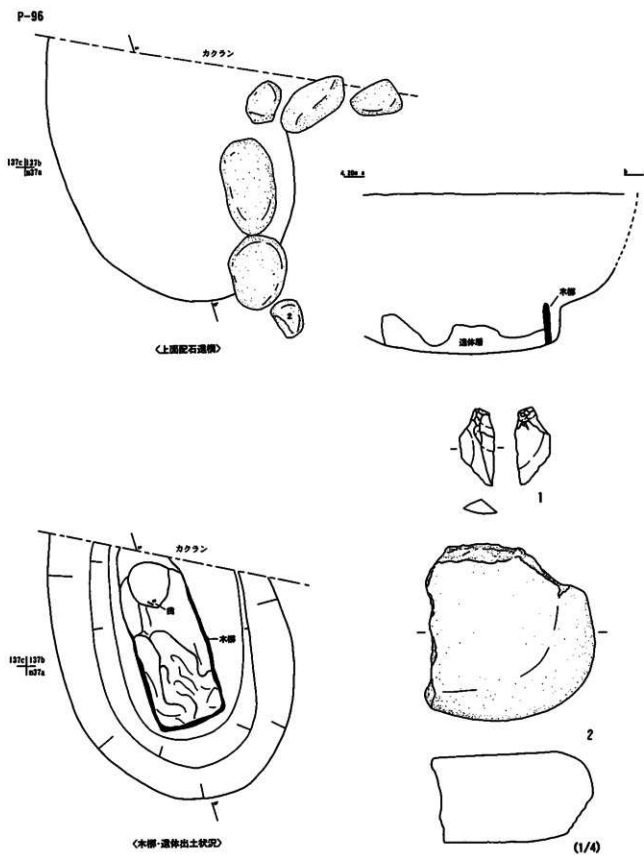
P-111



第8図 漆製品・木椀出土の墓坑 1

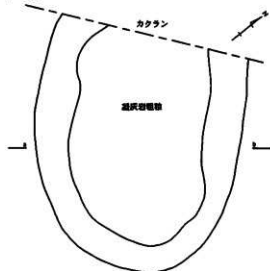


第10図 木柵出土の墓坑 3

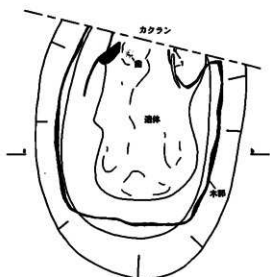


第11図 木柩出土の墓坑 4

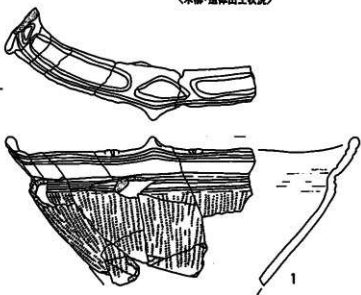
P-105



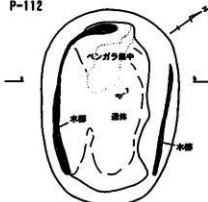
〈上面凝灰岩層出土状況〉



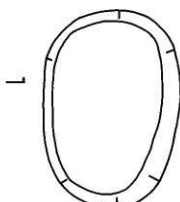
〈木柩・遺体出土状況〉



P-112



〈木柩・遺体出土状況〉

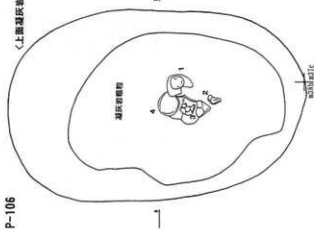


〈完備状況〉

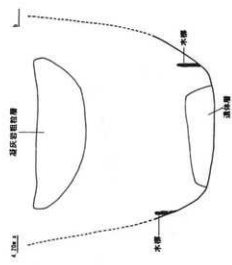
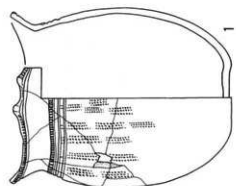
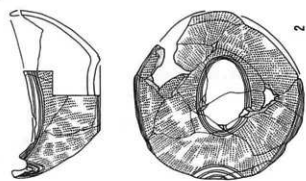
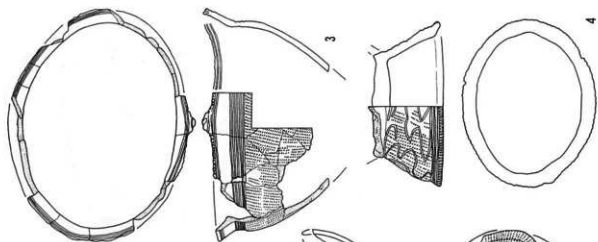
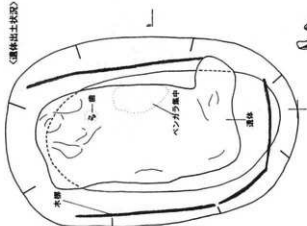


第12図 木柩出土の墓坑 5

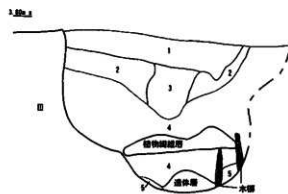
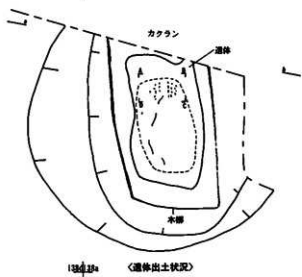
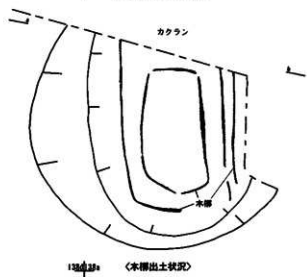
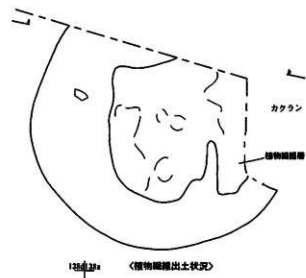
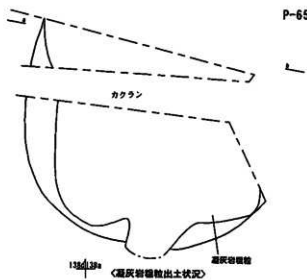
〈上層漆灰層出土状況〉



〈遺体出土状況〉



第13図 木槨出土の墓坑 6



1. 暗色砂層
2. 暗褐色砂層
3. 凝灰岩破片層
4. 白色砂層
5. 黒褐色砂層

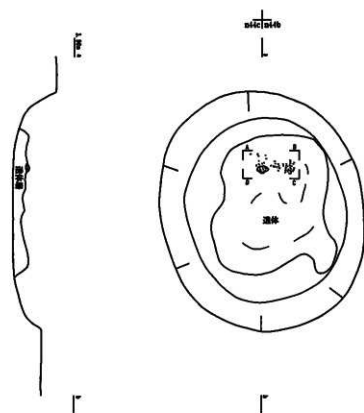


13号土坑 <木柩の位置>

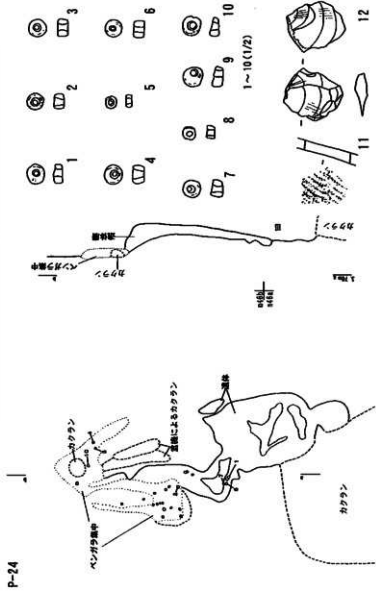
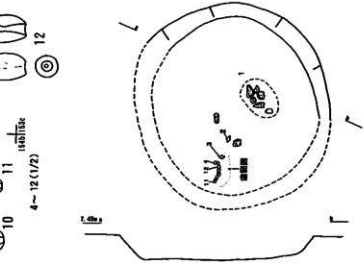
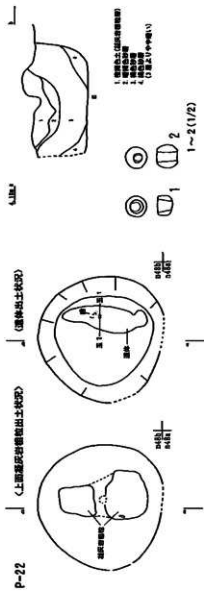
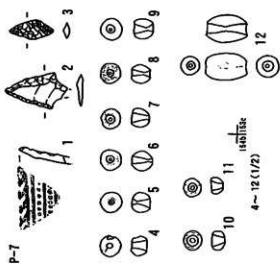


第15図 木柩出土の墓坑 8

P-55

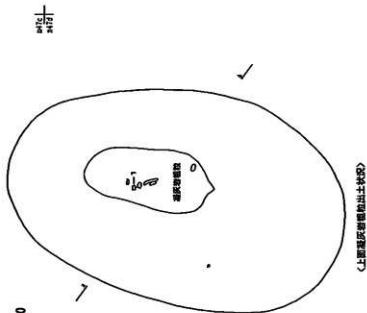


第16図 サメの歯出土の基坑

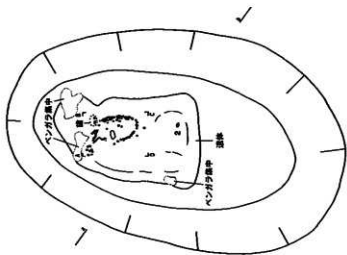


第17図 玉製品出土の墓坑 1

P-20

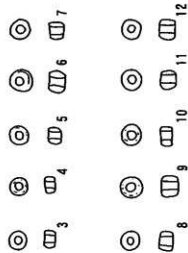


〈上層灰土層出土状況〉

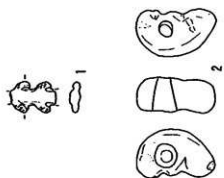
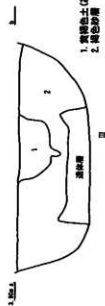


〈遺体出土状況〉

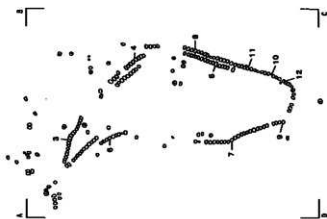
2-12 (1/1)



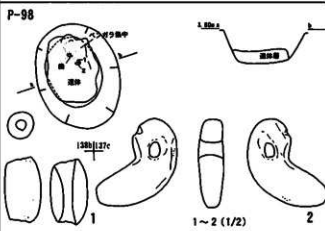
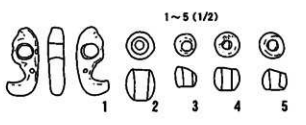
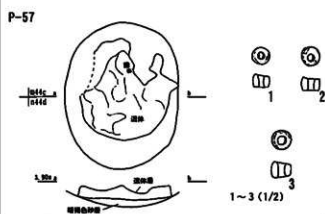
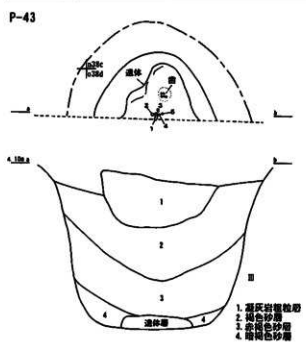
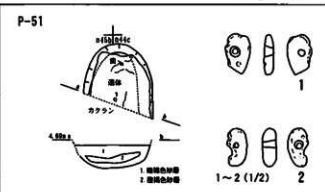
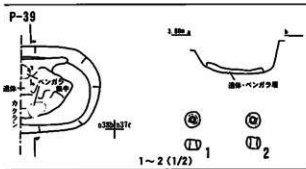
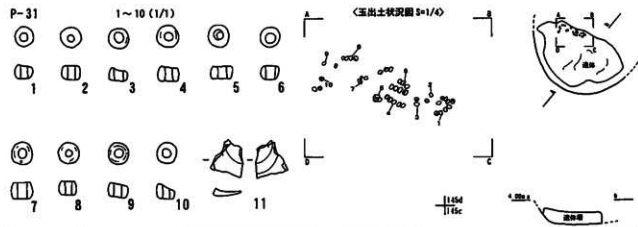
1. 黄褐色土(埋灰層出土物)
2. 青色砂層



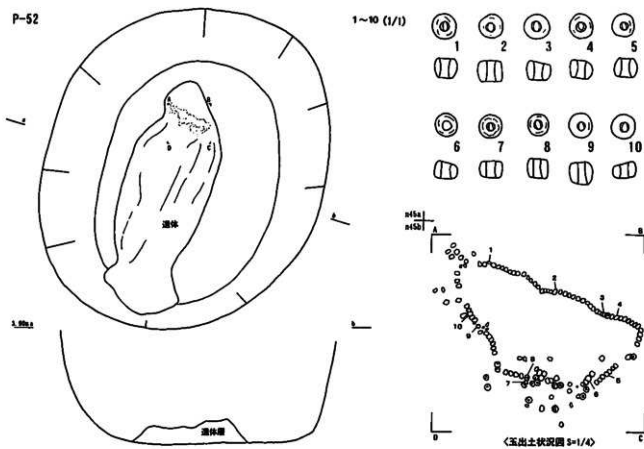
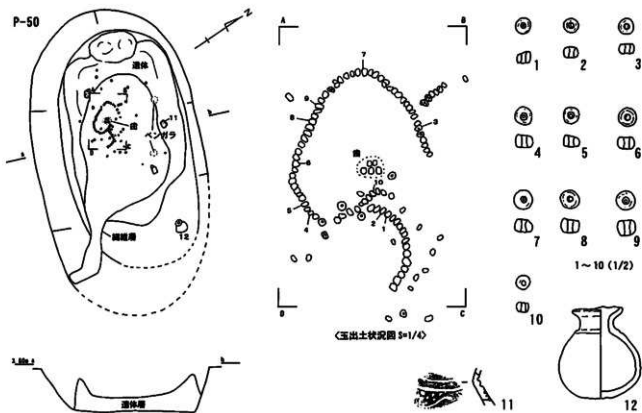
〈玉部土状灰層 3=1/4〉



第18図 玉製品出土の墓坑 2

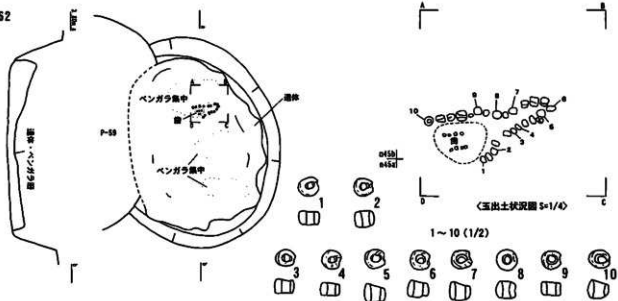


第19図 玉製品出土の墓坑 3

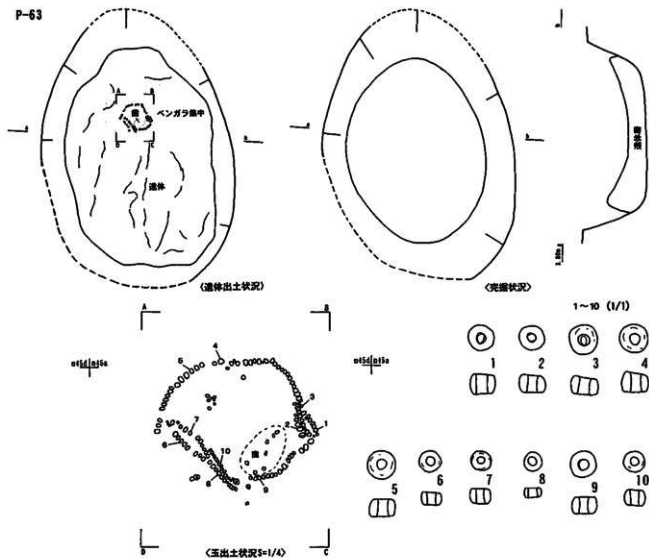


第20図 玉製品出土の墓坑 4

P-62

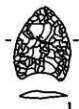
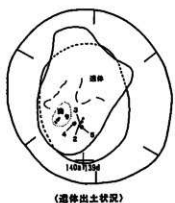
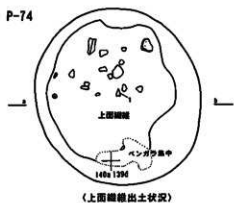


P-63

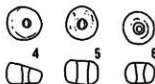


第21図 玉製品出土の墓坑 5

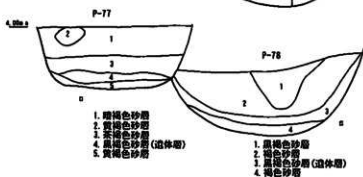
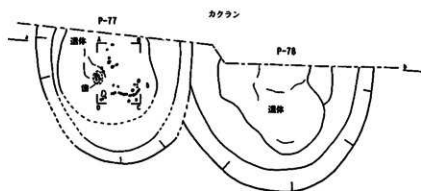
P-74



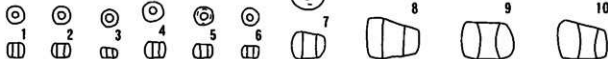
2~6 (1/1)



P-77 P-78

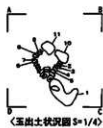
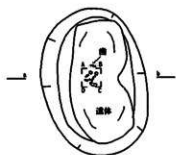


1~10 (1/1)

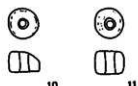
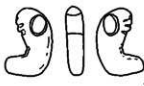
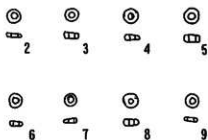


第22図 玉製品出土の墓坑 6

P-83



〈玉出土状況図 S=1/4〉



1~11 (1/2)

P-84



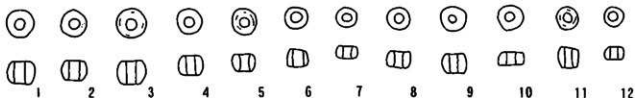
遺体



〈玉出土状況図 S=1/4〉

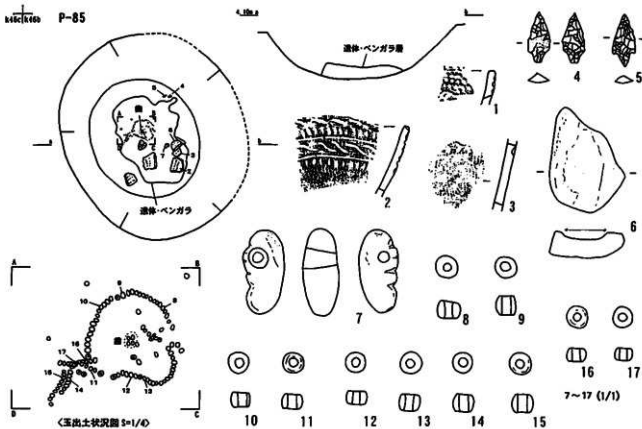


1~12 (1/1)

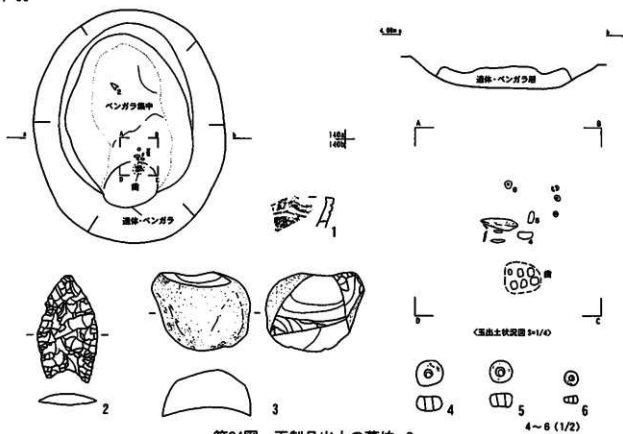


第23図 玉製品出土の墓坑 7

P-85

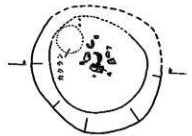
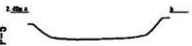


P-95

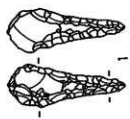


第24図 玉製品出土の墓坑 8

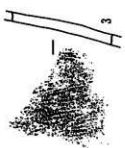
P-5



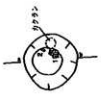
P-6



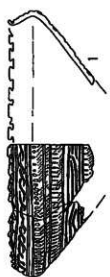
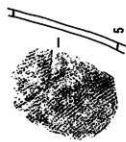
1:100



P-8

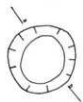


1:100



第25图 墓坑 1

P-3

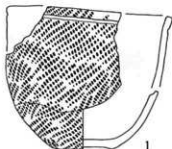


153b
153a



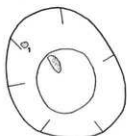
1. 暗褐色砂層
2. 褐色砂層

P-9

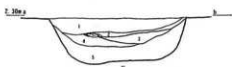


1

P-10



153b
153a

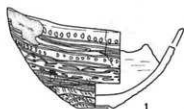
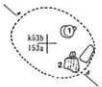


1. 褐色土層
2. 暗褐色土層
3. 赤褐色土層 (埋物の塊?)
4. 赤褐色土層
5. 黄褐色土層



1 (1/3)

P-12

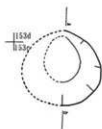


1



2

P-13



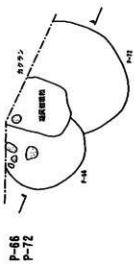
P-4

153b
153a

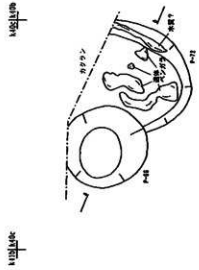


1. 赤褐色土層(遺体・ベンガラ)

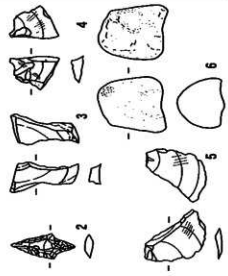
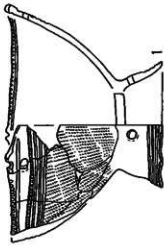
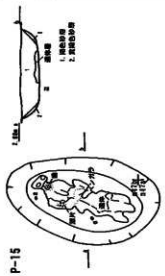
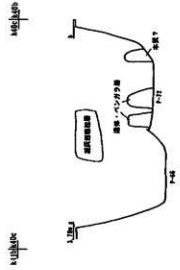
第26図 墓坑 2



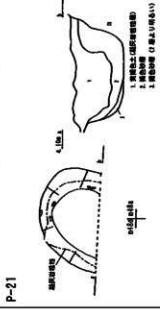
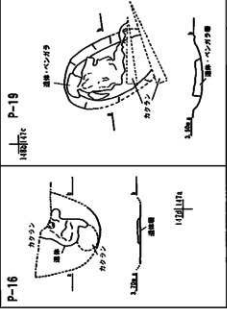
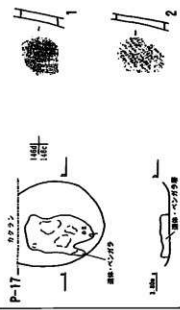
〈上野原・温床型横穴土葬〉



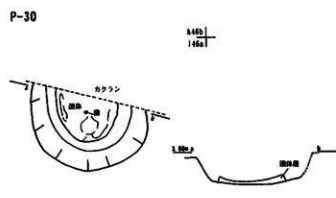
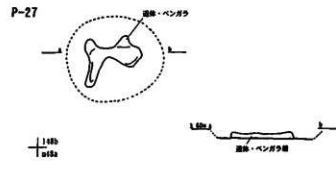
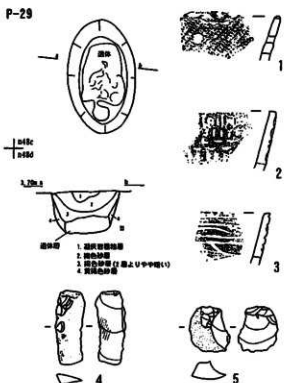
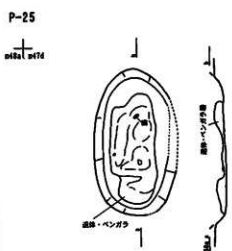
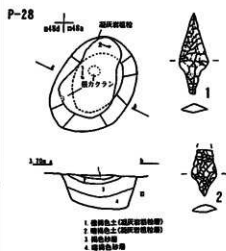
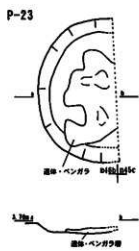
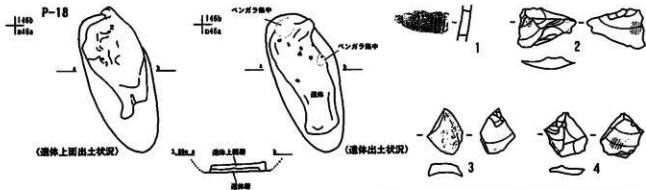
〈温床型土葬〉



第27図 墓坑 3

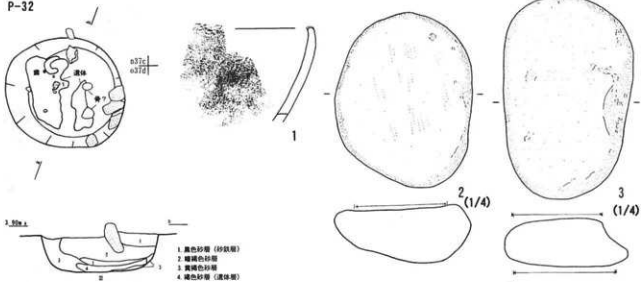


1. 副葬品 (土師器土師器類)
2. 横穴 chamber
3. 横穴 chamber (土師器土師器類)

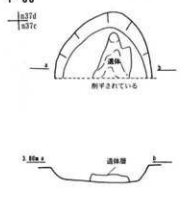


第28図 墓坑 4

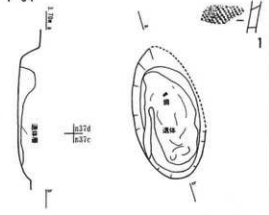
P-32



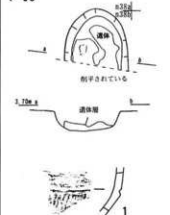
P-33



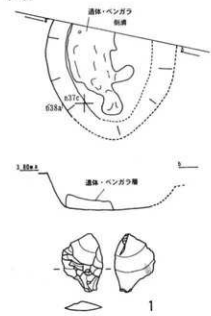
P-34



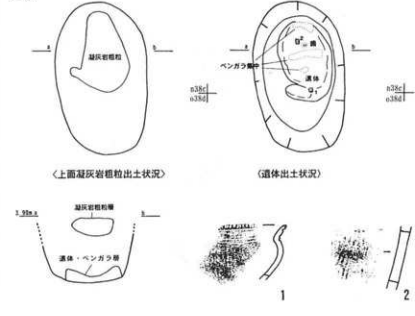
P-35



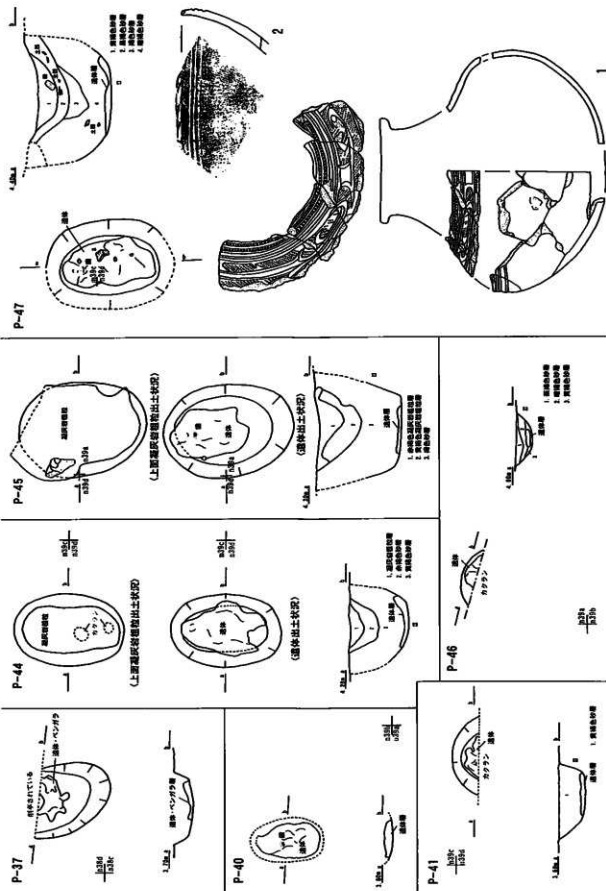
P-36

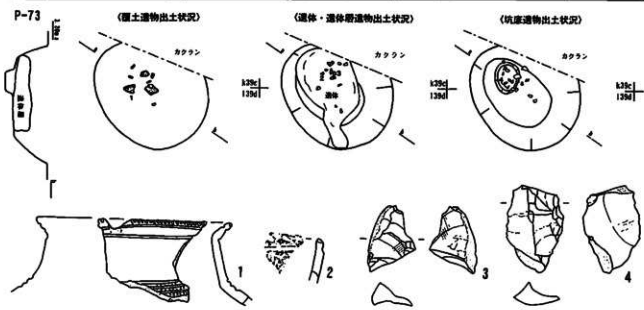
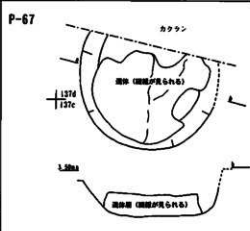
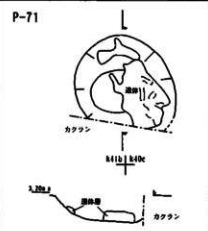
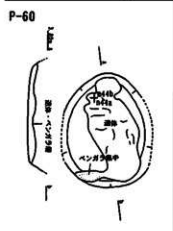
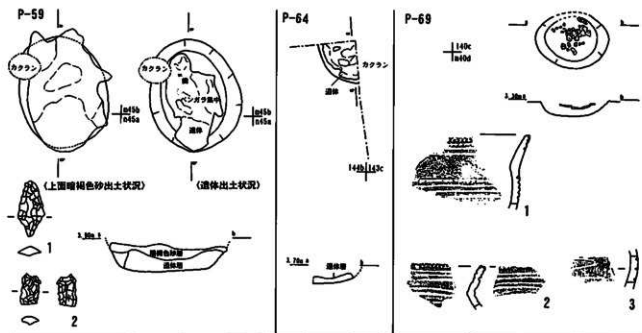


P-38



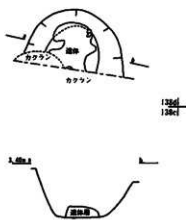
第29図 墓坑 5



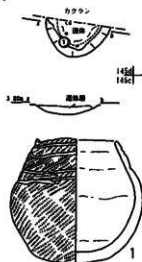


第32図 墓坑 8

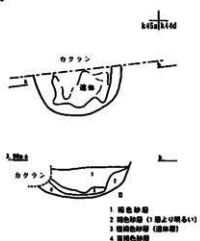
P-75



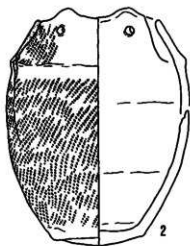
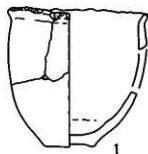
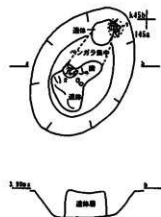
P-76



P-79



P-80



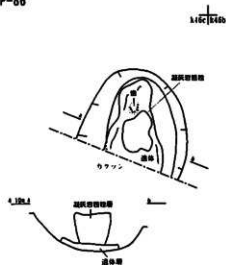
P-81



P-82

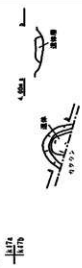


P-86

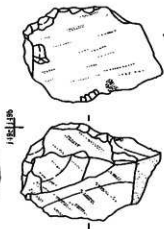


第33図 墓坑 9

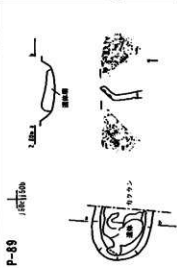
P-87



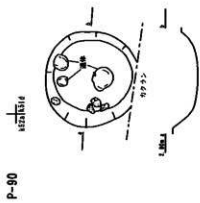
P-88



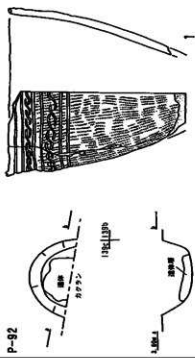
P-89



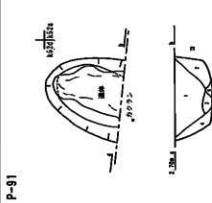
P-90



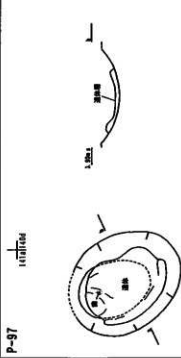
P-92



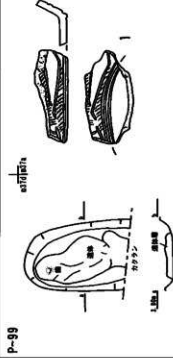
P-91



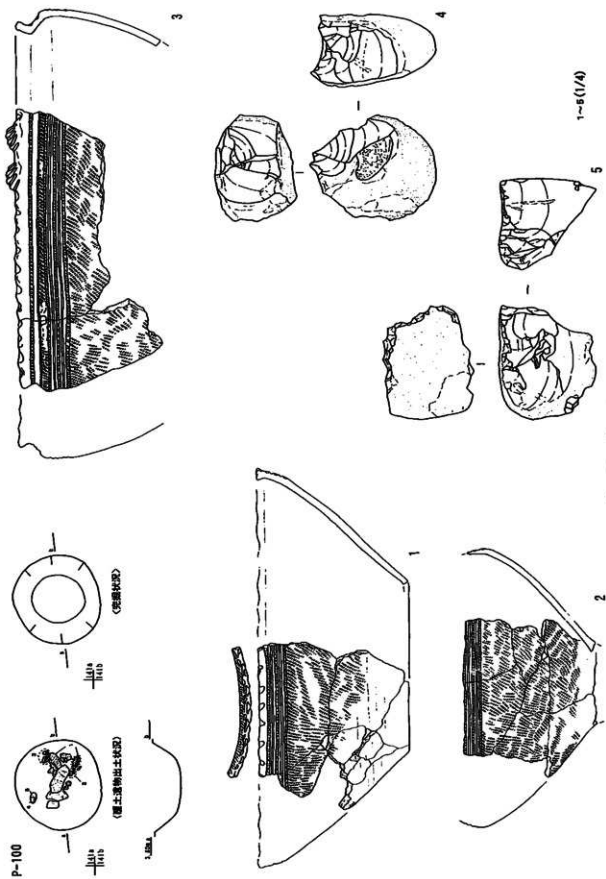
P-97



P-99

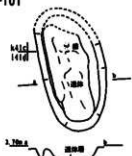


第34圖 墓坑 10

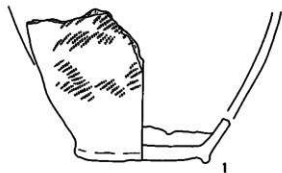


第35图 墓坑 11

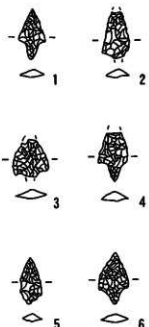
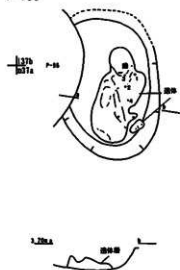
P-101



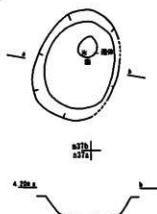
P-102



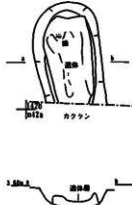
P-103



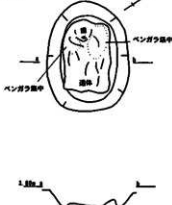
P-104



P-109



P-110

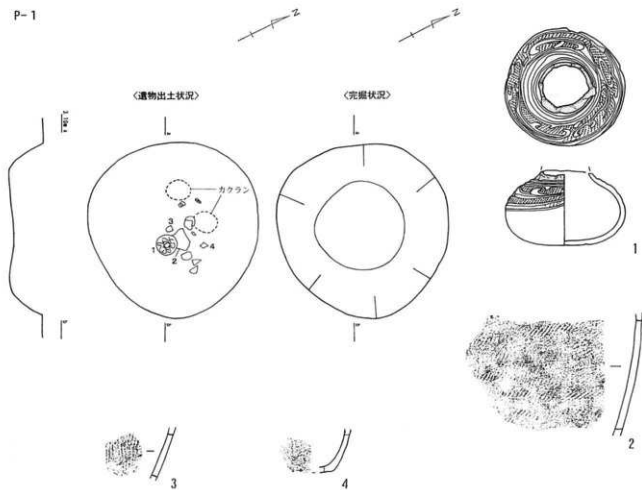


P-113

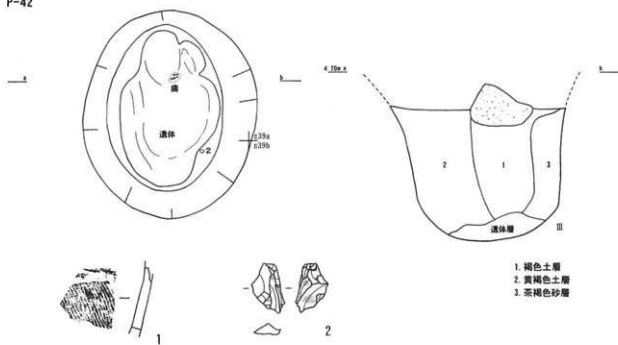


第36圖 墓坑 12

P-1

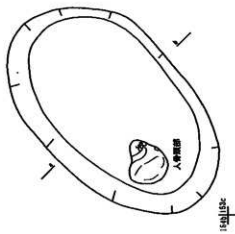


P-42

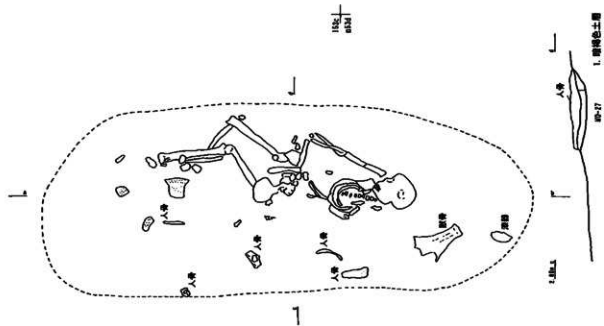
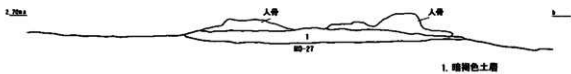


第37図 墓坑 13

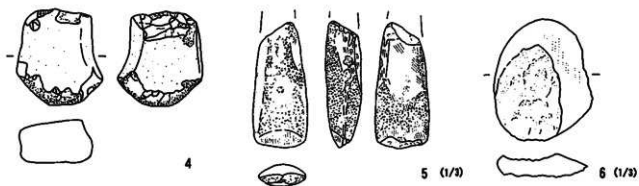
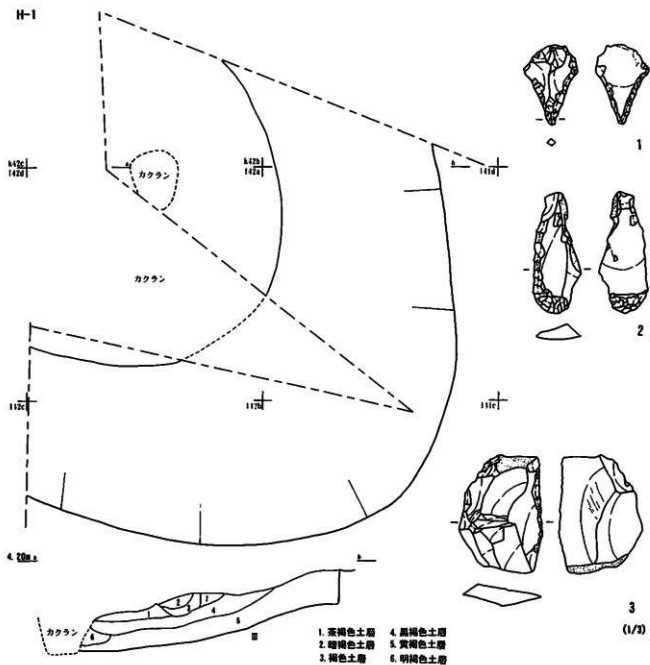
P-14



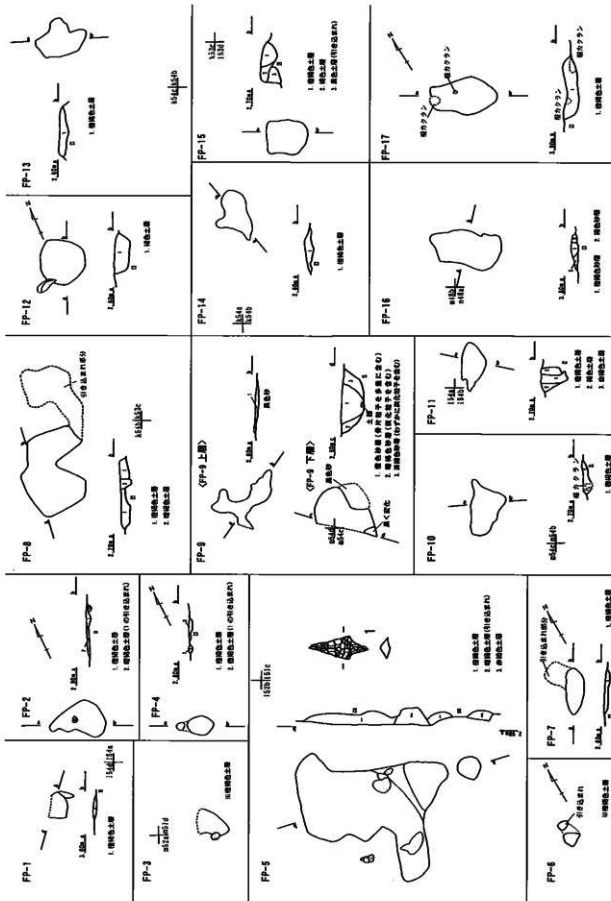
P-2



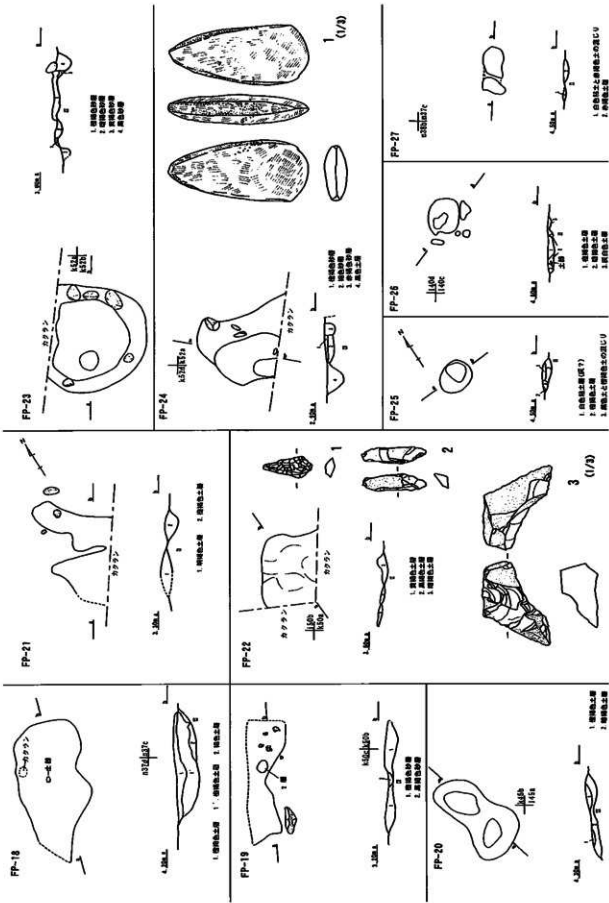
第38図 近世・近代の墓坑



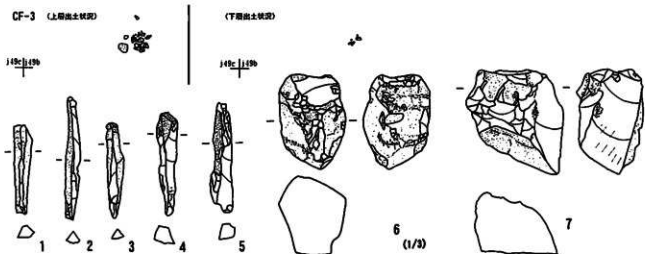
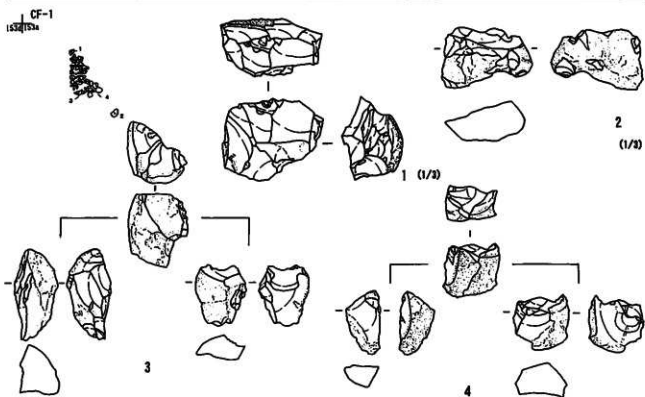
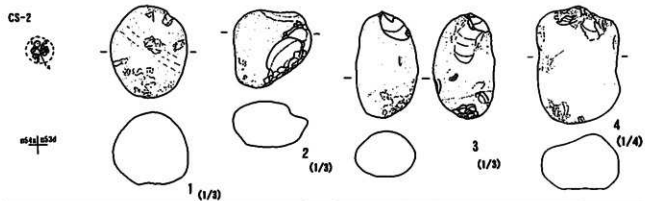
第39図 住居跡



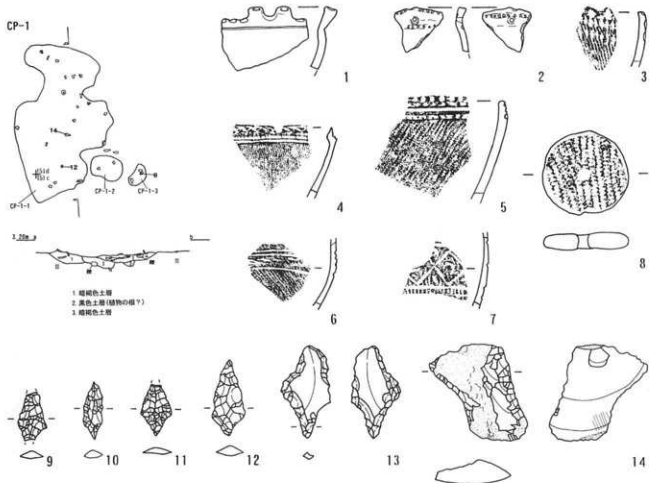
第40図 焼土 1



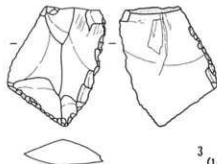
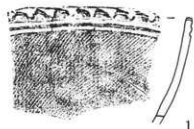
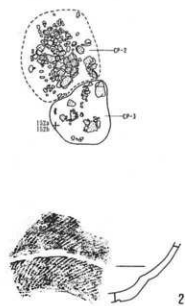
第41図 燧土 2



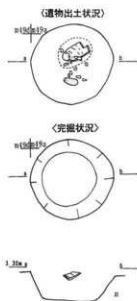
第42図 石器集中・剥片集中



CP-2 CP-3

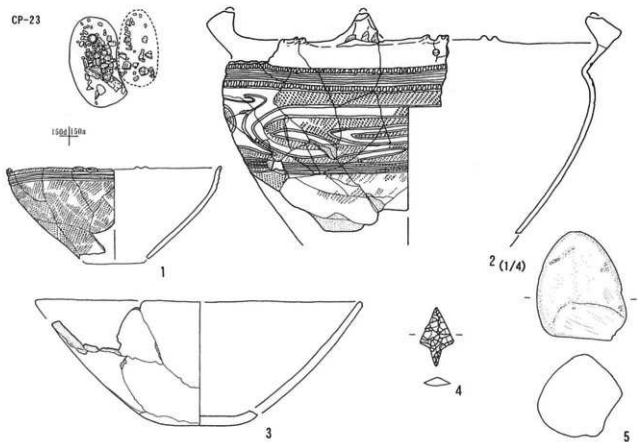


CP-22

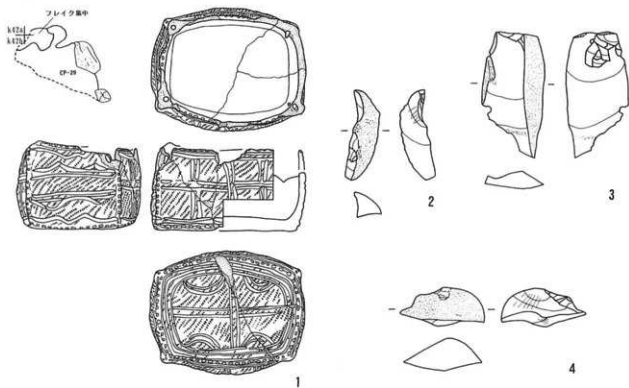


第43図 土器集中 1

CP-23

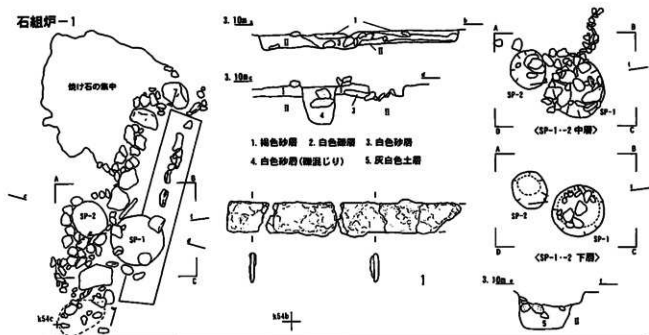


CP-29

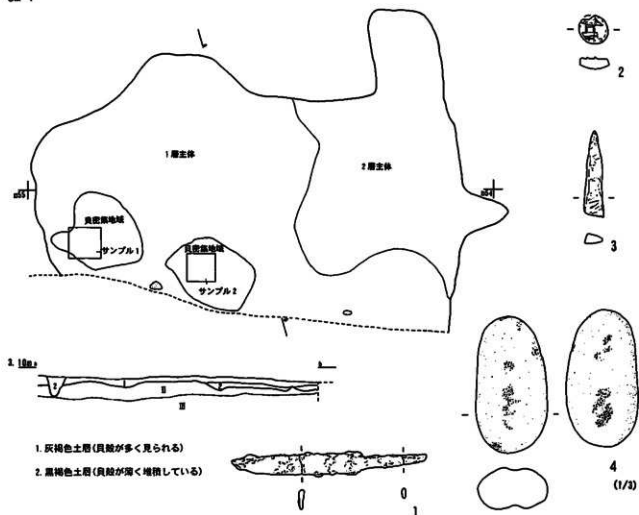


第44図 土器集中 2

石組炉-1



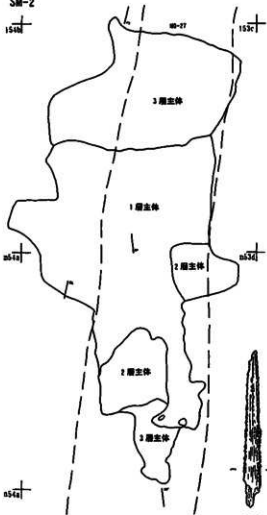
SM-1



第45図 石組炉・貝塚 1

SM-2

1546



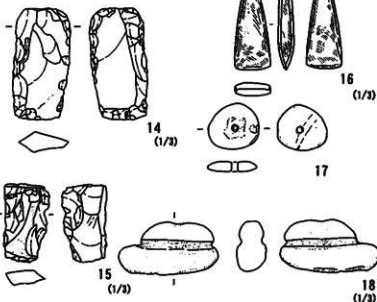
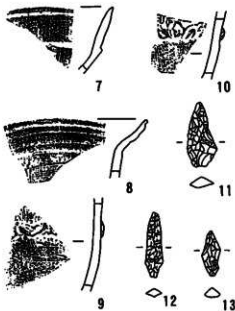
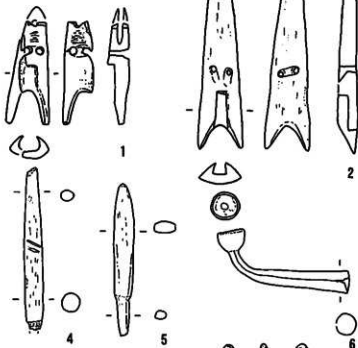
2. 1546



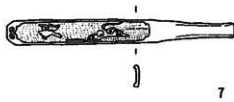
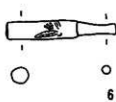
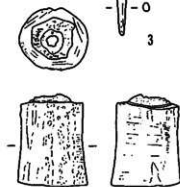
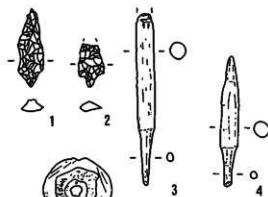
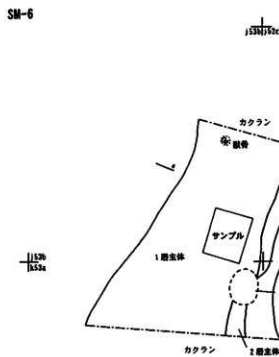
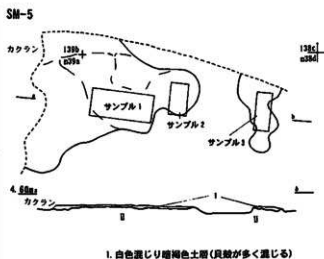
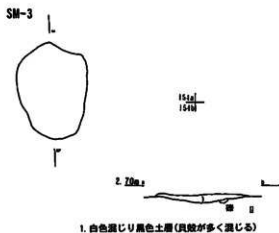
2. 1547



- 1. 赤褐色土層 (貝類砂少量含む・塊土)
- 2. 褐色土層 (貝類少量含む・塊*)
- 3. 白色土層 (貝殻層)
- 4. 貝骨層



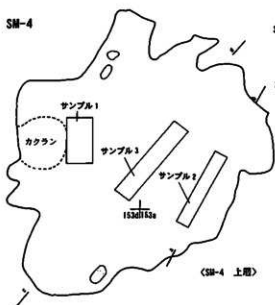
第46図 貝塚2



1. 暗褐色土層(魚骨・貝殻が多量に混じる)
 2. 黄褐色土層(魚骨・貝殻が少量混じる)
 3. 褐色土層(魚骨・貝殻が多量に混じる)
 4. 赤褐色土層
 5. 褐色土層
 6. 黄褐色土層

第47図 貝塚3

SM-4



1. 150a

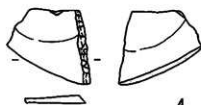
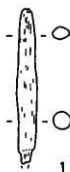
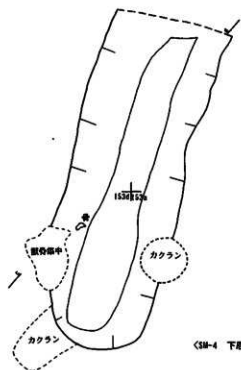


2. 150b

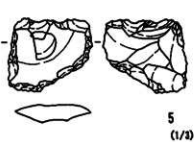


1. 黒色土層(貝殻がまばらに見られる)
2. 白色土層(貝殻・魚骨が全帯に見られる)
3. 褐色土層(貝殻・魚骨が少量混じる)

(SM-4 上層)



(SM-4 下層)



(1/3)



(1/3)



(1/3)

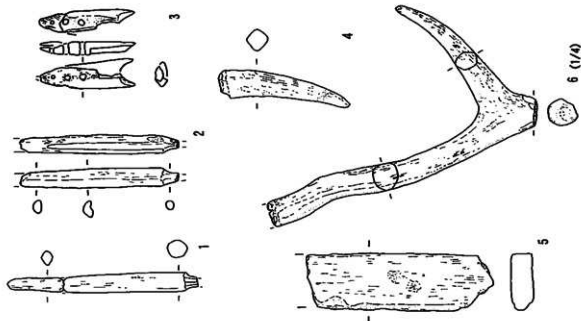
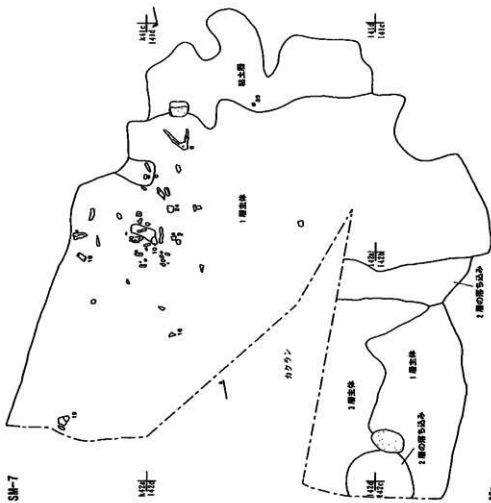


(1/3)

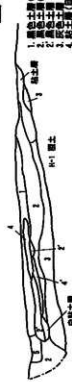


第48図 貝塚4

SM-7

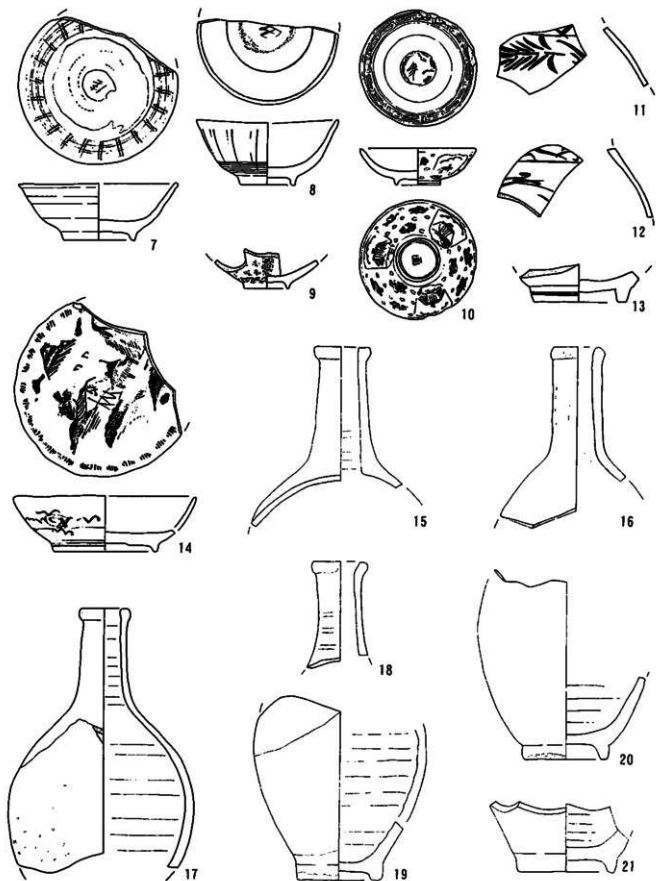


4. Ura.

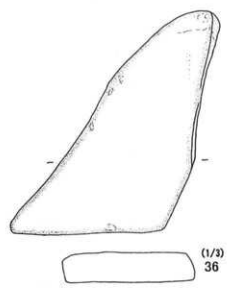
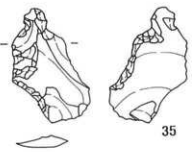
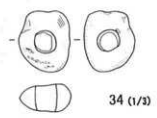
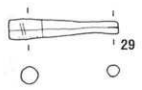
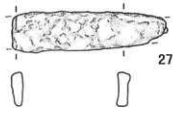
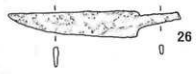
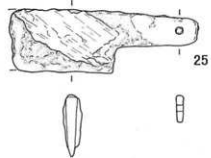
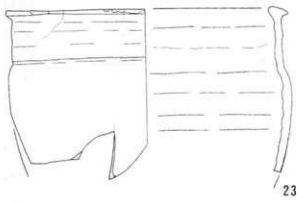
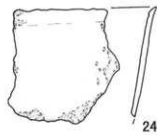
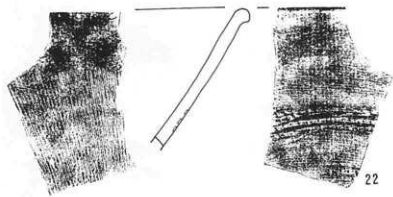


- 1 褐色土層 (貝殻が多量に含まれる)
- 2 褐色土層 (貝殻が少量含まれる)
- 3 褐色土層
- 4 灰土層 (貝殻が多量に含まれる)
- 5 灰土層 (貝殻が少量含まれる)
- 6 灰褐色土層

第49図 貝塚 5

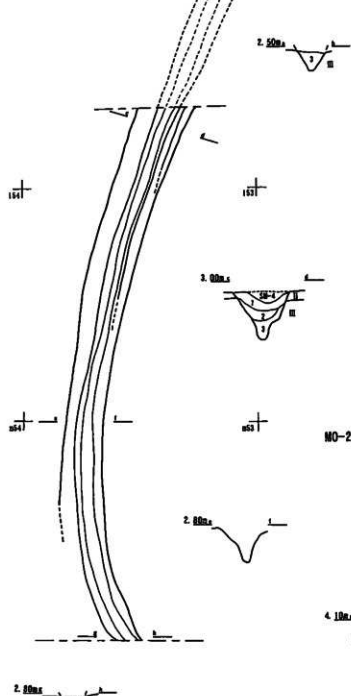


第50圖 貝塚6

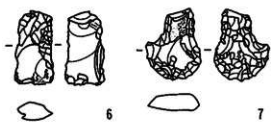
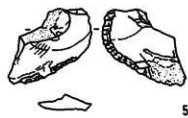
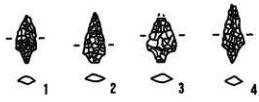


第51図 貝塚7

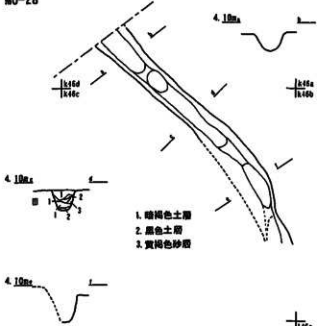
MO-27



- 1. 暗褐色土層
- 2. 褐色土層
- 3. 褐色土と黄褐色砂が層状に堆積している



MO-28



- 1. 暗褐色土層
- 2. 黒色土層
- 3. 黄褐色砂層

第52図 壕状遺構



遺構掲載遺物一覧表

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径 長さ (cm)	胴径 幅 (cm)	底径 長さ (cm)	器高 重さ (g)			
第8図1	P-61	6	遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部	
	2	P-61	5	遺体層	石鏝	(2.0)	(1.3)	0.3	(0.5)g		黒曜石
	3	P-61	4	遺体層	自然原石	4.7	2.4	1.4	14.4 g		黒曜石
第8図1	P-111	11	遺体層	勾玉	2.4	1.9	0.9	5.9 g	ヒスイ	わずかに打欠有り	
	2	P-111	2	遺体層	白玉	径 1.0	孔径 0.6	0.7	1.0 g		ヒスイ
第9図1	P-93	1	凝灰岩層	勾玉	3.2	1.5	0.9	4.8 g	蛇紋岩系	ウニ型 内面ベンガラ付着	
	2	P-93	3	遺体層	勾玉	3.8	2.9	1.1	12.6 g		蛇紋岩系
	3	P-93	1	凝灰岩層	Ⅱ c		3.6	1.0	(4.2)		土器
	4	P-93		上面	Ⅱ c	6.6	9.6	4.0	11.9		土器
	5	P-93		上面	Ⅱ c	(7.0)	10.1	6.0	14.0		土器
	6	P-93	2	凝灰岩層	石鏝	5.8	1.5	1.0	7.7 g		黒曜石
第10図1	P-68		遺体層	剥片	2.5	2.7	0.6	3.0 g	黒曜石		
第11図1	P-96		遺体層	剥片	4.15	1.9	0.8	5.1 g	頁岩		
	2	P-96	1	上面	台石	(19.0)	(18.0)	9.7	(6,000)g		安山岩
第12図1	P-105	1	遺体層	Ⅱ b	(29.0)			(12.0)	土器		
第12図1	P-112		遺体層	勾玉	3.1	2.0	1.2	10.6 g	ヒスイ		
第13図1	P-106	1	凝灰岩層	Ⅱ b	(14.5)	(15.2)	(6.2)	18.6	土器	浅鉢 (底は楕円形) 舟型 高台土器 台部	
	2	P-106	3	凝灰岩層	Ⅱ b	口径長さ (14.0)	底径 (3.5)	(6.0)	7.4		土器
	3	P-106	3	凝灰岩層	Ⅱ b	口径長さ (15.5)	口径幅 (19.5)		(10.6)		土器
	4	P-106	2	凝灰岩層	Ⅱ b	口径長さ (15.5)	口径幅 (11.2)	底径 (4.0)	(6.3)		土器
第14図1	P-108		凝灰岩層	石楯	5.4	2.5	0.9	8.3 g	黒曜石		
	2	P-108		凝灰岩層	スクレイパー	10.6	7.0	1.5	110.0 g		玄武岩
	3	P-108		凝灰岩層	スクレイパー	9.0	5.6	1.2	57.5 g		玄武岩
	4	P-108		凝灰岩層	打製石斧	8.5	4.3	1.3	48.8 g		玄武岩
	5	P-108		凝灰岩層	石核	4.3	4.5	3.0	63.5 g		チャート
第15図1	P-65		遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部	
	2	P-65		凝灰岩層	石核	2.6	3.2	2.0	19.2 g		黒曜石
第16図1	P-55		遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部	
第17図1	P-7	12	坑底	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部	
	2	P-7	10	坑底	石鏝	3.5	2.0	0.4	2.1 g		玄武岩
	3	P-7	11	坑底	石鏝	2.5	1.1	0.3	0.6 g		黒曜石
	4	P-7	1	坑底	白玉	径 1.2	孔径 0.25	0.9	1.8 g		ヒスイ
	5	P-7	2	坑底	白玉	径 1.1	孔径 0.3	1.0	2.3 g		ヒスイ
	6	P-7	4	坑底	白玉	径 1.1	孔径 0.4	1.1	2.4 g		ヒスイ
	7	P-7	5	坑底	白玉	径 1.1	孔径 0.5	1.0	2.4 g		ヒスイ
	8	P-7	6	坑底	白玉	径 1.1	孔径 0.4	1.0	2.1 g		ヒスイ
	9	P-7	7	坑底	白玉	径 1.2	孔径 0.5	1.1	2.2 g		ヒスイ
	10	P-7	8	坑底	白玉	径 1.1	孔径 0.6	1.2	1.0 g		ヒスイ
	11	P-7	9	坑底	白玉	径 1.0	孔径 0.5	0.6	1.0 g		ヒスイ
	12	P-7	3	坑底	碧玉	2.3	孔径 0.5	1.5	9.9 g		ヒスイ
第17図1	P-22	1	遺体層	白玉	径 1.2	孔径 0.8	0.8	1.3 g	ヒスイ		
	2	P-22	2	遺体層	白玉	径 1.2	孔径 0.5	1.1	2.2 g		ヒスイ
第17図1	P-24	1	遺体層	白玉	径 1.1	孔径 0.4	(0.5)	(0.5)g	蛇紋岩系		
	2	P-24	4	ベンガラ層	白玉	径 0.9	0.5	0.6	0.4 g		蛇紋岩系
	3	P-24	15	ベンガラ層	白玉	径 1.1	孔径 0.4	0.6	0.8 g		蛇紋岩系
	4	P-24	16	ベンガラ層	白玉	径 1.0	孔径 0.5	0.7	0.8 g		蛇紋岩系
	5	P-24	29	ベンガラ層	白玉	径 0.6	孔径 0.3	0.3	0.2 g		蛇紋岩系

図版No	出土地点	取り上げNo	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径長さ(cm)	胴径(cm)	底径厚さ(cm)	器高(cm)重さ(g)		
第17図	6	P-24	24	遺体層	白玉	径 0.9 孔径 0.3	0.6	0.7 g	蛇紋岩系	拓本 胴部
	7	P-24	25	遺体層	白玉	径 1.0 孔径 0.45	0.7	0.7 g	蛇紋岩系	
	8	P-24		ベンガラ層	白玉	径 0.7 孔径 0.3	0.5	0.3 g	蛇紋岩系	
	9	P-24	27	遺体層	白玉	径 1.1 孔径 0.4	0.6	0.7 g	蛇紋岩系	
	10	P-24	18	ベンガラ層	白玉	径 1.0 孔径 0.6	0.5	0.7 g	蛇紋岩系	
	12	P-24		遺体層	II b 剥片	径 3.2	2.9	0.7	3.9 g 黒曜石	
第18図	1	P-20	5	墓穴層	(II b)	(3.9)	(2.6)	0.8		土器
	2	P-20	7	遺体層	勾玉	(2.2)	孔径 (0.7)	1.0	(4.3)g	ヒスイ
	3	P-20	5	遺体層	白玉	径 0.5 孔径 0.2	0.3	0.1 g	蛇紋岩系	
	4	P-20	12	遺体層	白玉	径 0.5 孔径 0.2	0.3	0.1 g	蛇紋岩系	
	5	P-20	36	遺体層	白玉	径 0.5 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	6	P-20	25	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.45	0.2 g	蛇紋岩系	
	7	P-20	31	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系	
	8	P-20	37	遺体層	白玉	径 0.5 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	9	P-20	32	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系	
	10	P-20	38	遺体層	白玉	径 0.55 孔径 0.2	0.35	0.1 g	蛇紋岩系	
	11	P-20	38	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系	
	12	P-20	39	遺体層	白玉	径 0.55 孔径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系	
第19図	1	P-31	1	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	2	P-31	4	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	3	P-31	5	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.3	0.35	0.1 g	蛇紋岩系	
	4	P-31	7	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系	
	5	P-31	8	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系	
	6	P-31	9	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.3	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	7	P-31	12	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.25	0.4	0.2 g	蛇紋岩系	
	8	P-31	13	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	9	P-31	15	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	10	P-31	16	遺体層	白玉	径 0.6 孔径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系	
	11	P-31		遺体層	剥片	径 2.0	1.8	0.45	1.1 g 黒曜石	
第19図	1	P-39	2	ベンガラ層	白玉	径 0.8 孔径 0.3	0.6	0.5 g	蛇紋岩系	
	2	P-39		遺体層	白玉	径 0.8 孔径 0.4	0.65	0.4 g	蛇紋岩系	
第19図	1	P-43	1	遺体層	勾玉	径 3.6	1.7	0.8	6.0 g	ヒスイ
	2	P-43	2	遺体層	碧玉	径 1.5 孔径 0.9	1.6	5.7 g	蛇紋岩系	
	3	P-43	3	遺体層	白玉	径 1.2 孔径 0.6	1.1	1.5 g	蛇紋岩系	
	4	P-43	4	遺体層	白玉	径 1.4 孔径 0.5	1.2	3.5 g	蛇紋岩系	
	5	P-43	5	遺体層	白玉	径 1.4 孔径 0.6	1.1	2.9 g	蛇紋岩系	
第19図	1	P-51	3	遺体層	勾玉	径 2.2	1.4	0.5	2.3 g	ヒスイ
	2	P-51		遺体層	勾玉	径 2.0	1.1	0.8	2.8 g	ヒスイ
第19図	1	P-57		遺体層	白玉	径 0.9 孔径 0.4	0.7	0.8 g	蛇紋岩系	
	2	P-57		遺体層	白玉	径 1.0 孔径 0.4	0.75	0.8 g	蛇紋岩系	
	3	P-57		遺体層	白玉	径 1.1 孔径 0.5	0.9	1.2 g	蛇紋岩系	
第19図	1	P-98	2	遺体層	碧玉	径 3.5 孔径 0.6	2.0	18.4 g	蛇紋岩系	
	2	P-98	1	遺体層	勾玉	径 4.7	4.3	1.4	29.8 g	蛇紋岩系
第20図	1	P-50	49	遺体層	白玉	径 0.9 孔径 0.3	0.6	0.8 g	蛇紋岩系	
	2	P-50	49	遺体層	白玉	径 0.8 孔径 0.3	0.6	0.4 g	蛇紋岩系	
	3	P-50	50	遺体層	白玉	径 0.85 孔径 0.3	0.6	0.6 g	蛇紋岩系	

図版No.	出土地点	取上 f No.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口徑 φ (mm)	胴径 φ (mm)	底径 φ (mm)	高さ (mm) 重さ (g)			
第20図	4	P-50	51	遺体層	白玉	径 1.0 孔徑 0.4	0.7	0.7 g	蛇紋岩系	拓本 朋部 全体ペングラフ用者 わずか上底	
	5	P-50	51	遺体層	白玉	径 0.9 孔徑 0.35	0.6	0.6 g	蛇紋岩系		
	6	P-50	53	遺体層	白玉	径 1.0 孔徑 0.3	0.6	0.8 g	蛇紋岩系		
	7	P-50	57	遺体層	白玉	径 1.0 孔徑 0.3	0.7	0.7 g	蛇紋岩系		
	8	P-50	53	遺体層	白玉	径 1.0 孔徑 0.3	0.7	0.8 g	蛇紋岩系		
	9	P-50	53	遺体層	白玉	径 1.0 孔徑 0.4	0.85	0.8 g	蛇紋岩系		
	10	P-50	59	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.2	0.5	0.4 g	蛇紋岩系		
	11	P-50	13	遺体層	II b				土器		
	12	P-50		覆土	II b	4.0	6.6	2.0	7.4 g		土器
	第20図	1	P-52	2	遺体層	白玉	径 0.65 孔徑 0.3	0.5	0.3 g		蛇紋岩系
		2	P-52	3	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.25	0.6	0.3 g		蛇紋岩系
		3	P-52	3	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.25	0.6	0.3 g		蛇紋岩系
4		P-52	4	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.25	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
5		P-52	6	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.2	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
6		P-52	7	遺体層	白玉	径 0.65 孔徑 0.25	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
7		P-52	12	遺体層	白玉	径 0.65 孔徑 0.2	0.4	0.3 g	蛇紋岩系		
8		P-52	12	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.2	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
9		P-52	14	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.2	0.6	0.3 g	蛇紋岩系		
10		P-52	14	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.25	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
第21図		1	P-62	1	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.3	0.6	0.3 g	蛇紋岩系	
		2	P-62	2	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.2	0.5	0.3 g	蛇紋岩系	
	3	P-62	6	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.3	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
	4	P-62	7	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.3	0.6	0.3 g	蛇紋岩系		
	5	P-62	8	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.3	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
	6	P-62	9	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.25	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
	7	P-62	10	遺体層	白玉	径 0.55 孔徑 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
	8	P-62	10	遺体層	白玉	径 0.55 孔徑 0.2	0.25	測定不能	蛇紋岩系		
	9	P-62	11	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.3	0.45	0.3 g	蛇紋岩系		
	10	P-62	12	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系		
	第21図	1	P-63	1	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.3	0.6	0.3 g	蛇紋岩系	
		2	P-63	2	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.2	0.5	0.3 g	蛇紋岩系	
3		P-63	6	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.3	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
4		P-63	7	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.3	0.6	0.3 g	蛇紋岩系		
5		P-63	8	遺体層	白玉	径 0.8 孔徑 0.3	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
6		P-63	9	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.25	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
7		P-63	10	遺体層	白玉	径 0.55 孔徑 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
8		P-63	10	遺体層	白玉	径 0.55 孔徑 0.1	0.25	測定不能	蛇紋岩系		
9		P-63	11	遺体層	白玉	径 0.7 孔徑 0.3	0.45	0.3 g	蛇紋岩系		
10		P-63	12	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系		
第22図		1	P-74	21	上面	石礫	4.0	3.0	0.4	4.7 g	黒曜石
		2	P-74	17	遺体層	白玉	径 0.6 孔徑 0.2	0.4	0.1 g	コハク	
	3	P-74	8	遺体層	白玉	径 0.5 孔徑 0.2	0.5	0.1 g	コハク		
	4	P-74	22	遺体層	白玉	径 0.9 孔徑 0.2	0.6	0.3 g	コハク		
	5	P-74	23	遺体層	白玉	径 0.9 孔徑 0.25	0.7	0.4 g	コハク		
	6	P-74		遺体層	白玉	径 0.9 孔徑 0.3	0.6	0.3 g	コハク		
第22図	1	P-77	6	遺体層	白玉	径 0.5 孔徑 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
	2	P-77	9	遺体層	白玉	径 0.5 孔徑 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		

図版No	出土地点	取上げNo	層位	分類	計測値				材質	備考		
					口縁長さ(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	器高(mm) 重量(g)				
第22図	3	P-77	9	遺体層	白玉	径 0.5	径 0.2	0.3	測定不能	蛇紋岩系		
	4	P-77	13	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		
	5	P-77	13	遺体層	白玉	径 0.5	径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
	6	P-77	13	遺体層	白玉	径 0.5	径 0.2	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
	7	P-77	25	遺体層	白玉	径 1.0	径 0.4	0.75	0.8 g	ヒスイ		
	8	P-77	3	遺体層	白玉	径 1.4	径 0.5	1.1	2.5 g	蛇紋岩系		
	9	P-77	15	遺体層	白玉	径 1.3	径 0.6	1.0	2.3 g	蛇紋岩系		
	10	P-77	15	遺体層	白玉	径 1.3	径 0.55	1.0	2.4 g	蛇紋岩系		
	第22図	1	P-78		遺体層	白玉	径 0.4	径 0.2	0.3	0.1 g	蛇紋岩系	
	第23図	1	P-83	1	遺体層	勾玉	径 3.6	径 2.6	1.0	9.1 g	蛇紋岩系	
2		P-83	8	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.2	0.2 g	蛇紋岩系		
3		P-83	5	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.3	0.3	0.2 g	蛇紋岩系		
4		P-83	6	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.3	0.3 g	蛇紋岩系		
5		P-83	7	遺体層	白玉	径 0.9	径 0.4	0.4	0.3 g	蛇紋岩系		
6		P-83	19	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.3	0.2 g	蛇紋岩系		
7		P-83	20	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.4	0.3	0.2 g	蛇紋岩系		
8		P-83	23	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.35	0.3 g	蛇紋岩系		
9		P-83	22	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.2	0.2 g	蛇紋岩系		
10		P-83	2	遺体層	白玉	径 1.7	径 0.5	1.1	4.4 g	蛇紋岩系		
11		P-83	25	遺体層	白玉	径 1.6	径 0.6	1.3	5.2 g	蛇紋岩系		
第23図	1	P-84	4	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.6	0.3 g	蛇紋岩系		
	2	P-84	5	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.25	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
	3	P-84	5	遺体層	白玉	径 0.8	径 0.3	0.65	0.4 g	蛇紋岩系		
	4	P-84	6	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.3	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
	5	P-84	9	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.25	0.45	0.2 g	蛇紋岩系		
	6	P-84	10	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.3	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		
	7	P-84	11	遺体層	白玉	径 0.5	径 0.2	0.3	0.1 g	蛇紋岩系		
	8	P-84	12	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系		
	9	P-84	14	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.2	0.5	0.3 g	蛇紋岩系		
	10	P-84	15	遺体層	白玉	径 0.7	径 0.2	0.35	0.2 g	蛇紋岩系		
	11	P-84	16	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.6	0.3 g	蛇紋岩系		
	12	P-84	19	遺体層	白玉	径 0.55	径 0.3	0.4	0.1 g	蛇紋岩系		
第24図	1	P-85		覆土	(II a)					土器	拓本 口縁部	
	2	P-85	4	遺体層	II a					土器	拓本 口縁部	
	3	P-85	5	遺体層	II a					土器	拓本 胴部	
	4	P-85	9	覆土	石礫	2.7	1.3	0.5	1.2 g	黒曜石		
	5	P-85	10	覆土	石礫	2.9	1.2	0.4	0.8 g	黒曜石		
	6	P-85	3	覆土	権石	5.7	4.1	1.4	29.4 g	砂岩		
	7	P-85	1	遺体層	勾玉	2.25	1.1	1.0	4.1 g	ヒスイ		
	8	P-85	11	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		
	9	P-85	11	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		
	10	P-85	12	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.3	0.4	0.2 g	蛇紋岩系		
	11	P-85	13	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系		
	12	P-85	14	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.4	0.2 g	蛇紋岩系		
	13	P-85	14	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		
	14	P-85	15	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		
	15	P-85	16	遺体層	白玉	径 0.6	径 0.2	0.5	0.2 g	蛇紋岩系		

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考		
					口縁長さ(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	重量(g)				
第24図16	P-85	29	遺体層	白玉	径 0.6	孔径 0.2	0.35	0.1 g	蛇紋岩系			
	P-85	29	遺体層	白玉	径 0.6	孔径 0.2	0.3	0.1 g	蛇紋岩系			
第24図1	P-95		遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部		
	2	P-95	12	ペンガラ層	石楯	5.8	3.2	0.6	9.3 g		黒曜石	
	3	P-95		覆土	石核	4.2	5.3	2.5	68.5 g		黒曜石	
	4	P-95	3	遺体層	白玉	径 1.4	孔径 0.5	0.8	1.0 g		コハク	
	5	P-95	2	遺体層	白玉	径 1.2	孔径 0.5	0.7	0.7 g		コハク	
	6	P-95	9	遺体層	白玉	径 0.75	孔径 0.3	0.4	0.1 g		コハク	
第25図1	P-5	9	覆土	石鏝	2.8	0.3	0.4	1.0 g	玄武岩	異形土器 口縁部 拓本 胴部		
	2	P-5	11	覆土	石鏝	3.15	1.4	0.5	1.4 g		玄武岩	
	3	P-5	10	覆土	石鏝	3.3	1.4	0.45	1.4 g		玄武岩	
	4	P-5	2	覆土	Ⅱ b				(6.9)		土器	
	5	P-5	4	覆土	Ⅱ a						土器	
	6	P-5	3	覆土	Ⅱ a				7.7		(6.3)	土器
	7	P-5	1	覆土	Ⅱ b				10.3		(5.0)	土器
第25図1	P-6	6	覆土	石鏝	6.5	2.4	0.9	9.8 g	チャート	拓本 胴部		
	2	P-6	1, 2	覆土	Ⅱ b	(13.0)		4.5	5.3		土器	
	3	P-6	2	覆土	Ⅱ b						土器	
第25図1	P-8	1	覆土	Ⅱ a	(20.4)	(22.2)		(7.1)		土器	拓本 胴部	
	2	P-8		覆土	Ⅱ a					土器		
第26図1	P-9		覆土	Ⅱ b	13.3		4.4	11.6		土器	内面一部ペンガラ付着	
第26図1	P-10	1	覆土	石核	7.0	7.8	6.45	615.0 g	チャート			
第26図1	P-12	1	覆土	Ⅱ b	(14.2)		3.0	8.0		土器	拓本 胴部	
	2	P-12	4	覆土	Ⅱ a					土器		
第27図1	P-15	1	覆土	Ⅱ b	(19.2)		(10.4)	13.0		土器	内面に炭化物付着	
	2	P-15	1	覆土	石鏝	3.5	1.4	0.5	1.6 g	黒曜石		
	3	P-15		遺体下	剥片	3.8	1.7	0.7	3.6 g	チャート		
	4	P-15		遺体下	剥片	2.7	1.8	0.7	2.2 g	黒曜石		
	5	P-15		遺体下	剥片	3.3	2.9	0.4	2.5 g	黒曜石		
	6	P-15	2	覆土	自然礫	3.8	3.1	2.6	41.4 g	チャート		
第27図1	P-17	1	遺体層	Ⅱ b						土器	拓本 胴部	
	2	P-17	2	遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 胴部	
第28図1	P-18	1	上面	Ⅱ b						土器	拓本 胴部	
	2	P-18	2	上面	剥片	2.2	3.1	0.65	2.4 g	黒曜石		
	3	P-18		遺体層	剥片	2.5	1.9	0.7	2.7 g	黒曜石		
	4	P-18	5	遺体層	剥片	2.4	3.3	0.5	2.2 g	黒曜石		
第28図1	P-28	1	覆土	石鏝	4.3	1.6	0.5	1.9 g	チャート	アスファルト付着		
	2	P-28	2	覆土	石鏝	(2.5)	1.35	0.4	(1.0)g		黒曜石	
第28図1	P-29		遺体層	Ⅱ b						土器	拓本 口縁部	
	2	P-29		遺体層	Ⅱ a					土器	拓本 口縁部	
	3	P-29		遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部	
	4	P-29		遺体層	剥片	4.0	1.6	0.6	3.2 g	黒曜石		
	5	P-29		遺体層	剥片	2.4	2.2	1.0	3.9 g	黒曜石		
第29図1	P-32		遺体層	Ⅱ b						土器	拓本 口縁部	
	2	P-32	7	覆土	石皿	18.6	14.6	6.2	2,315 g	砂岩	両面使用	
	3	P-32		坑底	石皿	21.7	13.9	5.2	2,620 g	安山岩		
第29図1	P-34		遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 胴部		

図版No.	出土地点	取上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口縁長さ(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器底面積(cm ²)		
第29図 1	P-35		遺体層	II b					土器	拓本 胴部
第29図 1	P-36		遺体層	剥片	3.1	2.2	0.5	2.0 g	黒曜石	
第29図 1	P-38	1	遺体層	II b					土器	拓本 口縁部
	P-38	2	遺体層	II b					土器	拓本 胴部
第30図 1	P-47		覆土	II b		(20.0)			土器	表面ウルシ塗り
	P-47	1	遺体層	II b					土器	拓本 口縁部
第31図 1	P-49	2	遺体層	石鏝	2.9	1.5	0.6	1.3 g	黒曜石	
第31図 1	P-53		竊取器残片	II b					土器	拓本 口縁部
	P-53	7	竊取器残片	II b					土器	拓本 胴部
	P-53	5	竊取器残片	II b					土器	拓本 口縁部
	P-53	2	竊取器残片	打製石斧	9.8	3.5	1.6	69.0 g	玄武岩	刃部磨製
第31図 1	P-56	1	遺体層	大型剥片	14.6	13.3	2.5	408.0 g	玄武岩	
第31図 1	P-58		遺体層	II b					土器	拓本 口縁部
第32図 1	P-59		遺体層	石鏝	3.0	1.5	0.5	1.3 g	黒曜石	
	P-59		遺体層	石鏝	1.7	1.1	0.45	0.8 g	黒曜石	未製品
第32図 1	P-69		土器集中	II b					土器	拓本 口縁部
	P-69		土器集中	II b					土器	拓本 口縁部
	P-69		土器集中	II c					土器	拓本 胴部
第32図 1	P-73		覆土	II b	(16.0)			(6.5)	土器	口縁部
	P-73		遺体層	II b					土器	拓本 口縁部
	P-73		遺体層	剥片	3.6	2.6	1.2	7.5 g	黒曜石	
	P-73		坑底	剥片	4.7	3.2	1.3	10.4 g	頁岩	
第33図 1	P-76		遺体層	II b	(6.7)	(10.7)	6.2	10.1	土器	
第33図 1	P-80		遺体層	II b	(11.2)		4.0	11.2	土器	わずか上底
	P-80		遺体層	II b	(10.0)	(14.8)	7.5	19.1	土器	
第34図 1	P-88		遺体層	剥片	7.5	5.2	1.6	53.0 g	黒曜石	
第34図 1	P-89		覆土	II b					土器	拓本 口縁部
第34図 1	P-91		遺体層	II b					土器	拓本 口縁部
	P-91		遺体層	剥片	1.4	3.0	0.9	3.7 g	チャート	
第34図 1	P-92		竊取器残片	II a	(14.0)			(14.5)	土器	
第34図 1	P-99		覆土	II c			(15.4)		土器	
第35図 1	P-100	2,5,7,10	覆土	II b	(42.0)		(18.0)	15.9	土器	接合
	P-100	3,5,9	覆土	II b		(29.3)		(14.0)	土器	接合
	P-100	2	覆土	II b	(45.0)	(47.4)			土器	
	P-100	1	覆土	石核	13.3	11.25	7.7	1.140 g	頁岩	
	P-100	1	覆土	石核	10.5	12.1	10.4	1.145 g	頁岩	
第36図 1	P-102	3	覆土	II b			10.8	(12.3)	土器	縮型土器? 上底
第36図 1	P-103	1	遺体層	石鏝	2.7	1.5	0.4	1.0 g	黒曜石	
	P-103	2	遺体層	石鏝	(2.5)	1.5	0.5	(1.2)g	黒曜石	
	P-103	3	遺体層	石鏝	(2.0)	1.9	0.5	1.4 g	黒曜石	
	P-103	5	遺体層	石鏝	(2.6)	1.6	0.6	(1.3)g	黒曜石	
	P-103	6	遺体層	石鏝	2.5	1.2	0.45	0.9 g	黒曜石	
	P-103	7	遺体層	石鏝	2.8	1.6	0.5	1.4 g	黒曜石	
第36図 1	P-104	1	覆土	石鏝	(3.7)	2.0	0.5	(2.3)g	黒曜石	
	P-104	3	坑底	R・F	2.6	2.55	0.4	2.4 g	黒曜石	未製品
第37図 1	P-1		覆土	II b		9.7	3.3	(6.1)	土器	外面赤彩色
	P-1	1	覆土	II b					土器	拓本 胴部

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口縁長さ (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)		
第37図 3	P-1	2	覆土	Ⅱ b					土器	拓本 胴部
	P-1	6	覆土	Ⅱ b					土器	拓本 底部
第37図 1	P-42		遺体層	Ⅱ b					土器	拓本 胴部
	P-42	1	遺体層	剥片	2.7	1.8	0.6	1.8 g	黒曜石	
第38図 1	P-2	13	覆土	石鏃	3.4	1.4	0.4	1.4 g	黒曜石	未製品
第39図 1	H-1		覆土	石鏃	4.3	2.9	1.0	8.4 g	チャート	
	H-1		覆土	スクレイパー	6.4	2.6	0.8	15.2 g	頁岩	
	H-1		覆土	スクレイパー	9.5	6.7	1.7	108.0 g	玄武岩	
	H-1		覆土	燧石	5.2	4.6	2.3	78.0 g	石英	
	H-1		覆土	石斧	11.5	4.5	2.9	193.0 g	泥岩	
	H-1		覆土	擦石	(9.8)	(8.0)	1.9	(165.0) g	安山岩	焼石
第40図 1	FP-5		1	石鏃	3.3	1.3	0.6	1.3 g	黒曜石	
第41図 1	FP-22		焼土中	石鏃	2.7	1.2	0.6	1.3 g	黒曜石	
	FP-22		焼土中	燧石	5.3	1.5	1.2	6.5 g	黒曜石	
	FP-22		焼土中	石核	5.7	7.0	3.1	77.0 g	黒曜石	
第41図 1	FP-24	1	1	磨製石斧	11.5	5.0	1.9	207.0 g	泥岩	
第42図 1	CS-2	1	Ⅲ	原石	7.5	6.2	6.0	325.0 g	黒曜石	
	CS-2	4	Ⅲ	原石	6.3	6.3	3.8	171.0 g	黒曜石	
	CS-2	5	Ⅲ	石核	8.7	5.0	3.8	196.0 g	黒曜石	
	CS-2	3	Ⅲ	原石	12.3	8.7	5.9	835.0 g	黒曜石	
第42図 1	CF-1	1	Ⅲ	石核	6.7	8.2	4.9	203.0 g	頁岩	
	CF-1	4	Ⅲ	石核	4.8	7.4	3.2	86.0 g	黒曜石	
	CF-1	3	Ⅲ	石核	6.5	6.0	4.0	135.0 g	頁岩	接合
	CF-1	3	Ⅲ	石核	4.6	4.4	3.3	59.5 g	頁岩	接合
第42図 1	CF-3	18	Ⅱ	原石	4.9	1.0	0.7	3.1 g	黒曜石	
	CF-3	12	Ⅱ	棒状原石	6.6	0.8	0.7	2.5 g	黒曜石	
	CF-3	27	Ⅱ	棒状原石	5.2	1.0	0.6	2.4 g	黒曜石	
	CF-3	24	Ⅱ	棒状原石	5.6	1.1	1.0	4.4 g	黒曜石	
	CF-3	17	Ⅱ	棒状原石	5.9	1.2	0.9	5.8 g	黒曜石	
	CF-3		Ⅱ	石核	7.5	5.3	6.3	250.0 g	黒曜石	
	CF-3	7	Ⅱ	石核	5.6	5.2	3.3	97.0 g	黒曜石	
第43図 1	CP-1-1		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 I線突起部
	CP-1-1		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 I線部
	CP-1-1		覆土	Ⅱ a					土器	拓本 I線部
	CP-1-1		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 I線部
	CP-1-1		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 I線部
	CP-1-1		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 胴部
	CP-1-3		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 胴部
	CP-1	26	覆土	土製円盤	4.3	4.5	0.8	17.6 g	粘土	拓本
	CP-1		覆土	石鏃	(2.6)	1.6	0.5	(1.3) g	黒曜石	
	CP-1		覆土	石鏃	3.1	1.0	0.4	0.9 g	黒曜石	
	CP-1		覆土	石鏃	(2.8)	1.7	0.4	(1.1) g	黒曜石	
	CP-1	27	覆土	石鏃	4.1	1.8	0.6	2.9 g	黒曜石	
	CP-1		覆土	石鏃	5.0	2.6	0.7	6.6 g	玄武岩	
	CP-1	4	覆土	スクレイパー	5.2	5.2	1.3	25.0 g	黒曜石	
第43図 1	CP-2		覆土	Ⅱ b					土器	拓本 I線部
	CP-2		覆土	Ⅱ c					土器	拓本 胴部

図版No.	出土地点	取上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口径 長さ (cm)	胴径 (cm)	底径 長さ (cm)	器容(m) 容積 (g)		
第43図 3	CP-2		Ⅲ	スクレイパー	9.7	7.9	2.1	139.0 g	玄武岩	
第44図 1	CP-23	1	Ⅱ	Ⅱ b	(17.5)			(7.3)	土器	
	2 CP-23		Ⅱ	Ⅱ b	(44.0)			(23.5)	土器	
	3 CP-23	1	Ⅱ	Ⅱ b	(26.4)		(6.0)	10.1	土器	
	4 CP-23		Ⅱ	石鏃	3.2	1.9	0.5	1.1 g	黒曜石	
	5 CP-23		Ⅱ	擦石	8.7	7.2	6.7	430.0 g	安山岩	
第44図 1	CP-29		Ⅲ	Ⅱ b	長口径 (11.2) 胴径 (8.2)	長胴径 12.5 胴径 10.0	長底径 11.7 胴径 8.8	7.0	土器	長方形土器
	2 CP-29		Ⅲ	割片	4.8	1.9	1.4	7.9 g	黒曜石	
	3 CP-29		Ⅲ	割片	6.7	3.4	1.0	16.4 g	黒曜石	
	4 CP-29		Ⅲ	割片	2.1	4.5	1.8	12.6 g	黒曜石	
第45図 1	石籠炉-1		1	刀子	全長 19.0	刀身 10.5	刀厚 0.3		鉄製	
第45図 1	SM-1		トレンチ	刀子	全長 15.7	刀身 10.5	刀厚 0.45		鉄製	鳥居 未製品
	2 SM-1		1	泥面子	(1.6)	1.6	0.7	(1.2)g	粘土	
	3 SM-1		トレンチ	骨角器	(4.6)	1.0	0.6	(1.8)g	クジラ骨	
	4 SM-1		2	礫石	11.1	5.8	3.4	290.0 g	安山岩	
第46図 1	SM-2		覆土	筋頭(キテ)	(5.5)	(1.6)	1.2	(3.3)g	シカ骨	雁首 拓本 口縁部 拓本 口縁部 拓本 胴部 拓本 胴部
	2 SM-2		覆土	筋頭(キテ)	10.9	2.4	1.2	9.8 g	クジラ骨	
	3 SM-2		覆土	骨角器	(8.4)	1.0	0.5	(1.5)g	エイ類尾椎	
	4 SM-2		覆土	中柄	(8.7)	1.0	1.0	(5.7)g	クジラ骨	
	5 SM-2		覆土	中柄	(8.1)	1.1	0.6	(3.4)g	鹿角骨	
	6 SM-2		覆土	キセル	6.6	火皿径 1.5	火皿高 1.0	管径 1.2	金属製品	
	7 SM-2		覆土	Ⅳa					土器	
	8 SM-2		覆土	Ⅳa					土器	
	9 SM-2		覆土	Ⅳa					土器	
	10 SM-2		覆土	Ⅳa					土器	
	11 SM-2		覆土	石鏃	3.5	1.6	0.6	2.3 g	黒曜石	
	12 SM-2		覆土	石鏃	3.4	0.9	0.5	1.4 g	チャート	
	13 SM-2		覆土	石鏃	2.4	1.0	0.5	0.9 g	黒曜石	
	14 SM-2		覆土	スクレイパー	9.0	4.4	1.2	77.5 g	玄武岩	
	15 SM-2		覆土	スクレイパー	6.2	3.6	1.3	32.2 g	玄武岩	
	16 SM-2		覆土	磨製石斧	7.0	2.9	1.3	37.4 g	泥岩	
	17 SM-2		覆土	石製品	2.5	2.7	0.6	4.4 g	砂岩	
	18 SM-2		覆土	石鏃	8.1	4.4	2.4	80.5 g	安山岩	
第47図 1	SM-6		覆土	石鏃	4.2	1.4	0.6	2.3 g	黒曜石	吸口
	2 SM-6		覆土	石鏃	(2.3)	1.4	0.5	(1.3)g	黒曜石	
	3 SM-6		覆土	中柄	(9.2)	1.0	1.0	(5.2)g	クジラ骨	
	4 SM-6		覆土	中柄	(7.0)	1.0	0.9	(3.2)g	クジラ骨	
	5 SM-6		覆土	骨製品	5.0	3.7	3.1	40.8 g	鹿角	
	6 SM-6		覆土	キセル	5.8	吸口径 0.45	管径 0.9		金属製品	
	7 SM-6		覆土	裝飾品	12.1	1.3	0.3	24.8 g	金属製品	
第48図 1	SM-4	2	中柄	(8.2)	1.1	1.0	(5.0)g	クジラ骨		
	2 SM-4	2	刀子	全長 (13.0)	刀身 (8.9)	刀厚 0.2				鉄製
	3 SM-4	2	石鏃	(4.1)		1.4	0.8	(4.5)g		チャート
	4 SM-4	2	スクレイパー	4.0	4.4	0.5	9.8 g	玄武岩		
	5 SM-4	2	スクレイパー	5.9	6.4	1.5	58.5 g	玄武岩		
	6 SM-4	2	磨製石斧	7.3	3.3	1.2	50.0 g	泥岩		

図版No	出土地点	取り上げ 枚数	層位	分類	計測値				材質	備考		
					口径 長さ (cm)	胴径 長さ (cm)	底径 長さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)				
第48図7	SM-4		2	擦石	17.7	7.3	3.8	751.0 g	安山岩			
	8	SM-4	2	砥石	(12.5)	8.3	5.6	(1,000)g	花崗岩or砂岩			
第49図1	SM-7		覆土	中柄	(10.3)	1.1	1.1	(6.1)g				
	2	SM-7	覆土	中柄	(8.6)	1.1	0.7	(4.4)g	シカ角or中皮竹			
	3	SM-7	覆土	鋸頭	(5.2)	(1.2)	(0.7)	(2.4)g	シカ角			
	4	SM-7	覆土	骨角器	7.2	2.2	1.2	6.9 g	シカ角			
	5	SM-7	覆土	骨角器	(10.2)	3.2	1.3	(20.4)g	クジラ骨			
	6	SM-7	13	1	骨角器	(29.4)	(24.5)	3.0	(226.0)g	シカ角		
第50図7	SM-7		覆土	VI a	(12.9)		5.8	4.6	陶磁器	蛇目高台		
	8	SM-7	覆土	VI a	(11.4)		4.5	5.4	陶磁器			
	9	SM-7	覆土	VI b			(3.6)	(3.2)	陶磁器			
	10	SM-7	12	1	VI a	9.4		3.6	3.0	陶磁器	口縁内雷文	
	11	SM-7	覆土	VI a					磁器			
	12	SM-7	覆土	VI a					磁器			
	13	SM-7	覆土	VI a			2.8	(3.0)	陶磁器			
	14	SM-7	覆土	VI b	(14.8)		8.3	4.5	陶磁器	三平皿 宝珠文 蛇目高台		
	15	SM-7	覆土	VI b	4.4			(15.0)	陶器	焼酎徳利		
	16	SM-7	6	1	VI b	4.0			(14.7)	陶磁器	徳利	
	17	SM-7	覆土	VI b	4.0			(21.5)	陶磁器	徳利		
	18	SM-7	8	1	VI b	4.4			(8.5)	陶磁器		
	19	SM-7	11	1	VI b		(7.0)	3.4	(15.0)	陶磁器	徳利	
	20	SM-7	覆土	VI b		14.4		6.8	(15.3)	陶磁器	徳利	
	21	SM-7	覆土	VI b			(8.0)	(5.7)	陶磁器	徳利		
	第51図22	SM-7		覆土	播り鉢					陶器	拓本 口縁部	
		23	SM-7	覆土	VI b	(23.2)			(13.0)	陶器		
		24	SM-7	3	1	鉄鍋				鉄製	口縁部	
		25	SM-7	覆土	包丁	全長 (15.3)	刃長 (8.6)	刃厚 0.9			鉄製	
		26	SM-7	覆土	刀子	全長 13.8	刃長 10.3	刃厚 0.4			鉄製	
		27	SM-7	覆土	刀子?	全長 (12.5)		1.0			鉄製	
28		SM-7	覆土	和釘	9.4		1.9	1.2		鉄製		
29		SM-7	覆土	キセル	5.9	吸口径 0.6		管径 0.9		金属製品	吸口	
30		SM-7	覆土	キセル	(6.8)			管径 0.8		金属製品		
31		SM-7	1	2	玉	径 0.7	孔径 0.2	0.6	0.3 g	ガラス	桃色	
32		SM-7	覆土	石鏡	4.0	1.3	0.5	1.6 g		黒曜石		
33		SM-7	覆土	石鏡	3.5	1.6	0.6	2.0 g		黒曜石		
34		SM-7	覆土	石製品	5.0	4.1	2.4	38.8 g		安山岩	有孔(自然孔)	
35		SM-7	覆土	スクレイパー	6.2	4.1	0.7	13.8 g		頁岩		
36	SM-7	覆土	擦石	18.2	17.1	2.5	772.0 g		砂岩	自然石		
第52図1	MO-27		覆土	石鏡	2.6	1.1	0.4	0.8 g		黒曜石		
	2	MO-27	覆土	石鏡	2.7	1.2	0.4	1.0 g		黒曜石		
	3	MO-27	覆土	石鏡	(2.4)	1.6	0.5	(1.3)g		黒曜石		
	4	MO-27	覆土	石鏡	3.0	1.3	0.5	1.2 g		黒曜石		
	5	MO-27	覆土	スクレイパー	6.2	6.7	1.3	40.0 g		頁岩		
	6	MO-27	覆土	スクレイパー	4.0	2.1	1.0	7.8 g		黒曜石		
	7	MO-27	覆土	スクレイパー	(3.9)	2.9	1.0	(8.4)g		黒曜石		
	8	MO-27	覆土	スクレイパー	7.8	6.5	1.3	58.0 g		玄武岩		

第三章 遺構外出土の遺物

包含層からの出土遺物は1,404,483点（Ⅱ層133,842点、Ⅲ層からは66,062点）であり、Ⅱ・Ⅲ層の大半は縄文時代晩期後半の土器、石器類で、Ⅱ層から僅かに陶磁器、古銭、金属製品が出土している。

以下に遺物の概要について説明したい。なお、個々の遺物については一覧表を参照してもらいたい。

縄文・擦文時代の遺物

墓坑群の多くはⅡ層からの掘り込みであり、包含層では一面に土器の小破片が見られた。各群について層位的に分離することは困難であるが、Ⅱ群a類はⅢ層、Ⅱ群b類はⅡ層に多く、Ⅳ群はⅡ層に出土する傾向が看取される。形式的に分類を試みたが、Ⅱ群b類での大洞式C₁・C₂式の区分けは地域性があることから、文様などから容易に分類は難しい。

(1) 土器 (No1~117)

Ⅱ群a類は爪形文を特徴とする上の国式に相当するもので、本州の亀ヶ岡文化で知られる大洞B~BC式に並行する土器群である。上の国式に相当する土器は口唇の断面が角形を呈し、口縁がやや内傾する深鉢形が多い。体部の地文は斜行または縦走する縄文で、二段右撚り（RL）が多く施文されている。口縁部に爪形文を1~2段巡らすもの、爪形文と平行沈線、爪形文と平行沈線S字状沈線との組み合わせがある。

Ⅱ群b類は本州の亀ヶ岡文化で知られる大洞C₁~C₂式に相当する土器と並行する後志地方での浜中大曲式と称される土器群であり、器形として前者は壺形で変形の雲形文が擦り消し手法で描かれ、ベンガラによる彩色されているものがある。後者は深鉢、浅鉢、台付き鉢で、口縁部に平行沈線を2~3条配し、列点文を施すことが多い。特徴的な施文として多用される連続刺突に見えるものは、押し引き状沈線と言えるものである。この時期の浅鉢には多用な突起が見られ、注目されるのは縄文時代後期に出現するスタンプ状土製品と同様な意匠が見られる点である。

Ⅱ群c類は本州の亀ヶ岡文化で知られる大洞A式に相当する土器群で沈線による変形工字文を施文しているものである。

Ⅳ群a類は擦文土器で、壺形、台付き鉢である。

(2) 土製品 (No118~131)

いずれも縄文時代晩期に伴うものである。人物の顔面部分の破片については土偶の一部である可能性がある。垂飾具として土製勾玉、ビーナッツ状土製品、十字形土製品などがある。土製勾玉は石製勾玉の模倣品であると思われる。土製円盤はⅡ群b類土器の胸部破片の周縁を打ち欠いて円形に加工したもので、中央に穿孔しているものもある。

(3) 石器 (No186~276)

石鏃は細身で有茎のものが多く、石質は黒曜石が大半で玄武岩のものも見られる。石鏃はつまみを持つものと棒状がある。スクレイパーは剥片を加工しているもので不定形のものも多く、石質では黒曜石、チャート、玄武岩などを使用している。特に今回は玄武岩の大形剥片(241~243)

を利用しものが多く見られる。剥離面を残しており片面に刃部を作出しているもので、用途として木材の荒削り、皮なめしなどを考えている。石斧は打製と磨製があり、石材として泥岩や玄武岩を利用しており、いずれも小形のものが多く、製作過程として礫を丹念に敲打して成形し、全体を研磨して刃部を研ぎ出している。小形で細身のものはクサビとしての用途が考えられる。敲石は拳大の礫を使用し、両面または側縁部分を使用している。石皿および台石は石材として砂岩、安山岩、凝灰岩を利用しており、片面に磨痕を残すことことが多く、窪み状になっているものもある。棒状剥片は縄文晩期後半に多く見られるもので、自然面を残し、端部に僅かな剥離が見られる程度である。石製品(276)は角状に見えるもので、部分的に加工しているものである。石核はやや小さめの転石の黒曜石を選んでおり、自然面を多く残し、上下左右からの剥離を施している。

近世・近代の遺物

近世・近代の遺物はⅠ層を主体としてⅡ層上部にかけて出土している。遺構では貝塚(SM)が相当し、その周辺から近世の肥前陶磁器の碗、コンブラ瓶類が見られ、近代として印判の染付碗や皿、焼酎徳利等が出土している。金属製品としてキセルと古銭が多く見られる。古銭は寛永通宝が特に多く、明治～昭和時代にかけての銅貨も出土している。明治時代はともかく、近世において貨幣の流通がどの程度であったのか追究する必要があるが、アイヌ民族との関係から首飾りの一部、根付け等の装飾として使用していたことも考えられる。

(1) 陶磁器 (No.132～136)

幕末の肥前磁器としてJAPANSCHZOYの文字が記されている海外への輸出用であるコンブラ瓶が数点出土している。図示していないが他には貝塚で見られるような碗・酒徳利なども出土している。

(2) 泥メンコ (No.137～144)

幕末～近代の遊具の一つである。2cmほどの円盤状の素焼きの土製品で、片面に型どりによる彫、鳥居、蟬などの意匠が見られる。

(3) 骨角器 (No.145～148)

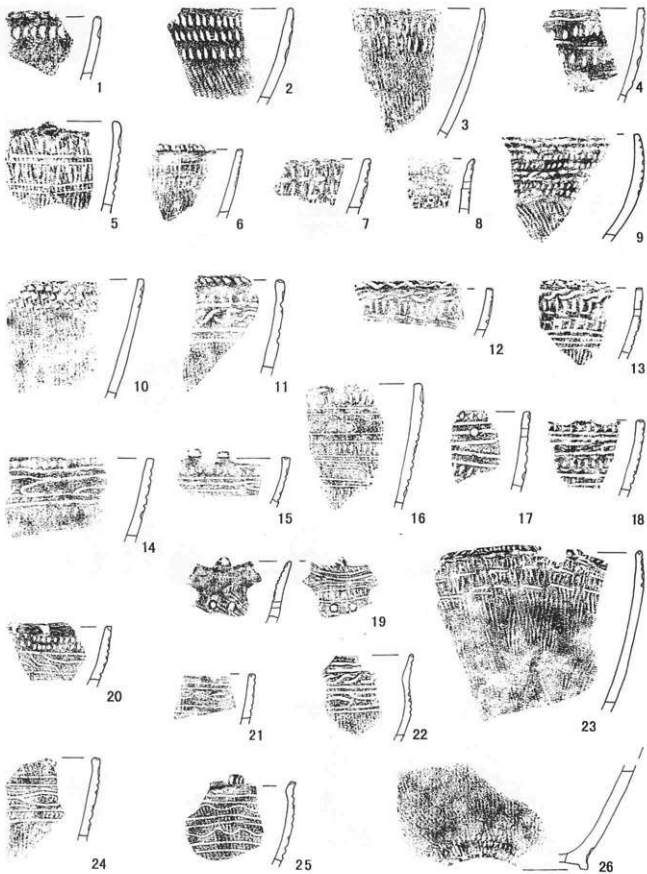
中柄、筥、用途不明の削り痕のある棒状の骨角器がある。

(4) ガラス玉 (No.153～165)

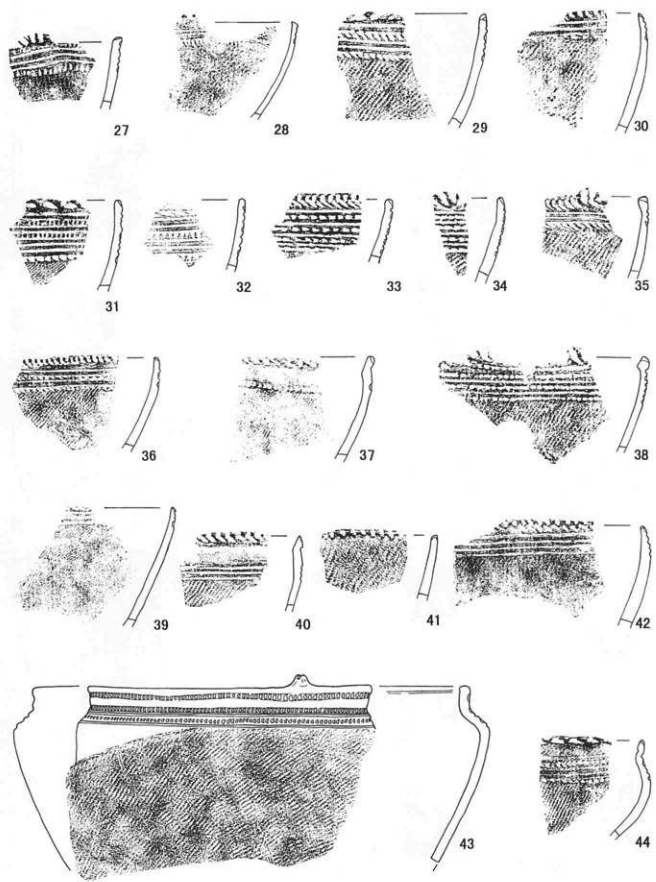
近世と思われるものは乳濁色の青玉(153～156, 158～162)で、アイヌ玉と称されるものであり、近代と思われるものとして光沢、透明度のある白、濃青色の玉が出土している。

(5) 金属器 (No.149～152, 166～185)

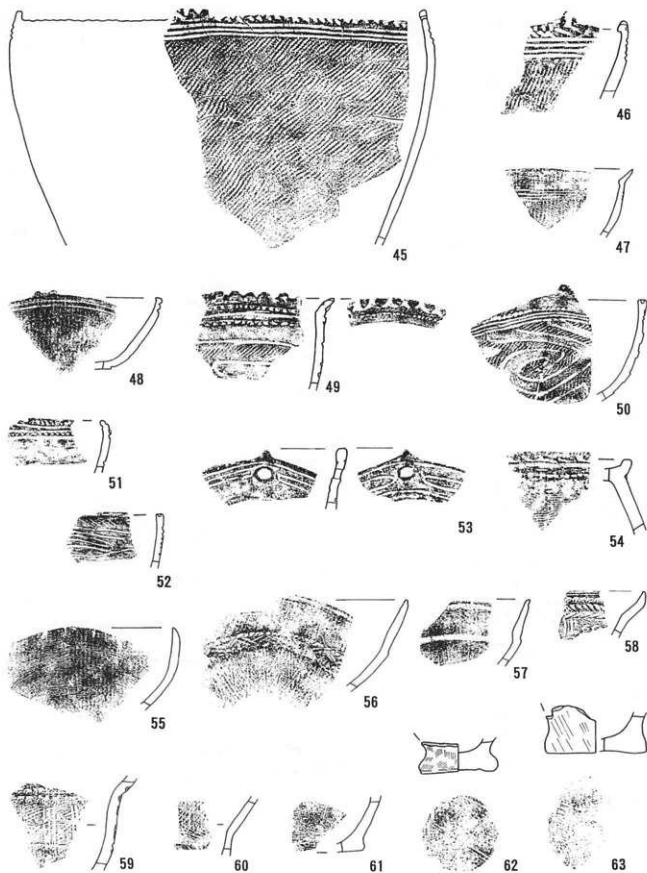
煙管(キセル)の雁首と吸口(149～152)、古銭が出土している。古銭は寛永通宝(166～185)で、古寛永と新寛永の2種類が見られる。また、掲載はしていないが明治時代以降の銅貨なども出土している。



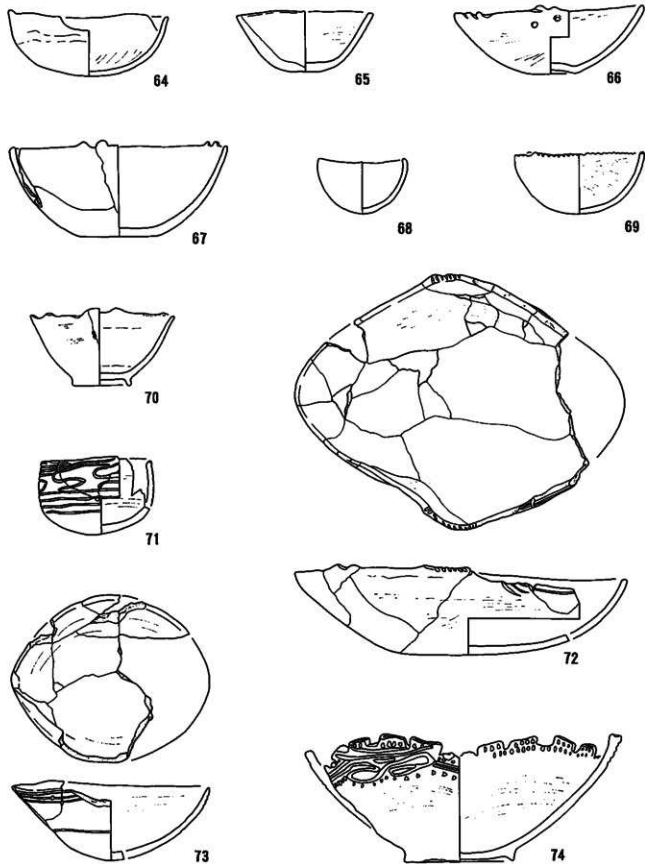
第53図 遺構外出土の遺物 1



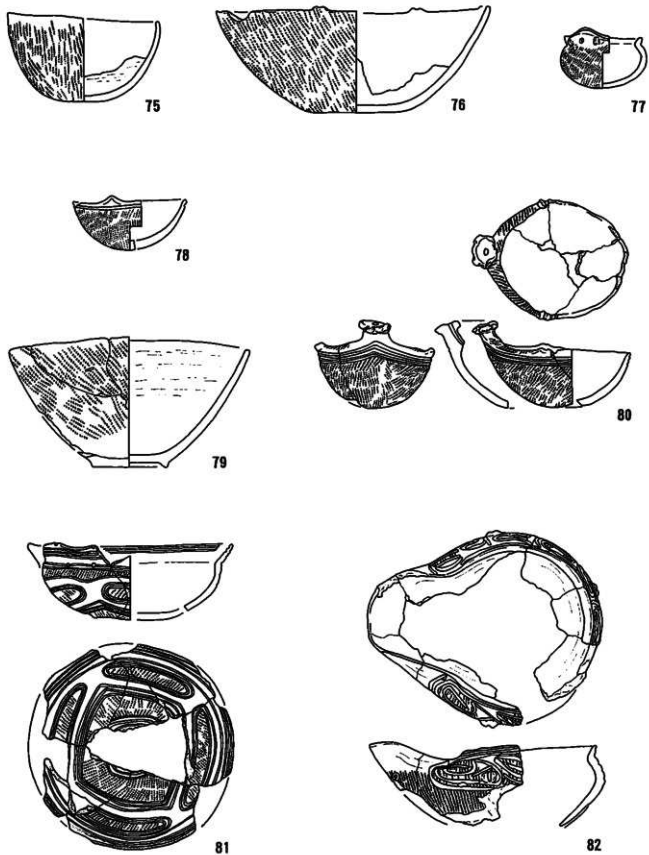
第54図 遺構外出土の遺物 2



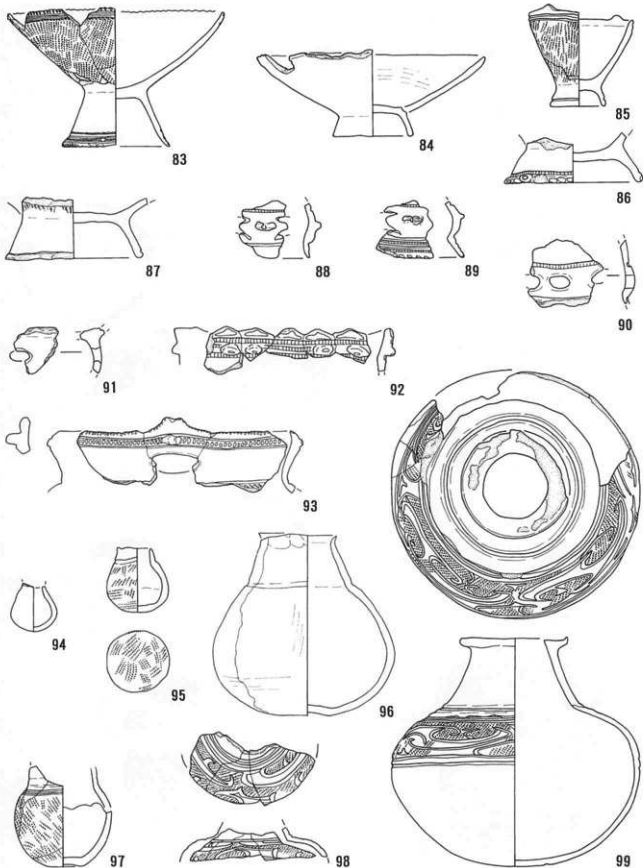
第55図 遺構外出土の遺物 3



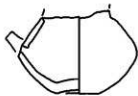
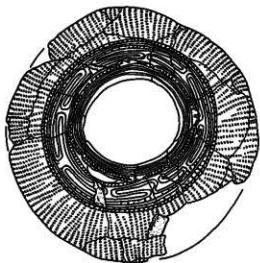
第56図 遺構外出土の遺物 4



第57図 遺構外出土の遺物 5



第58図 遺構外出土の遺物 6



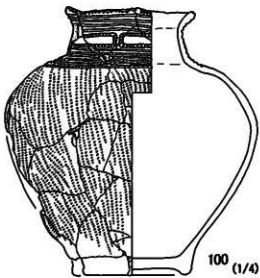
101



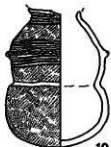
102



103



100 (1/4)



104



105



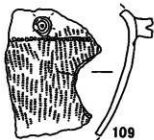
106



107



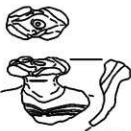
108



109



110



111

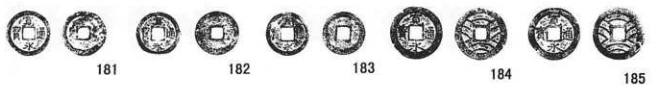
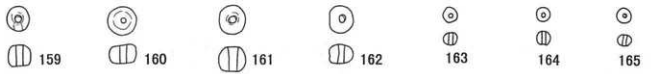
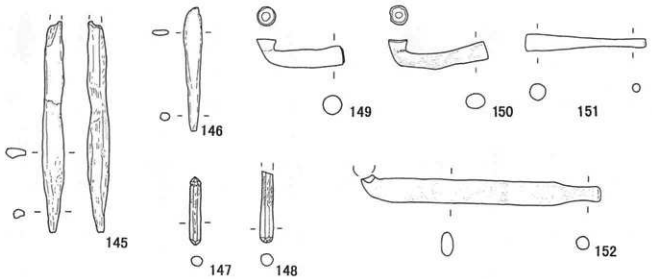


112

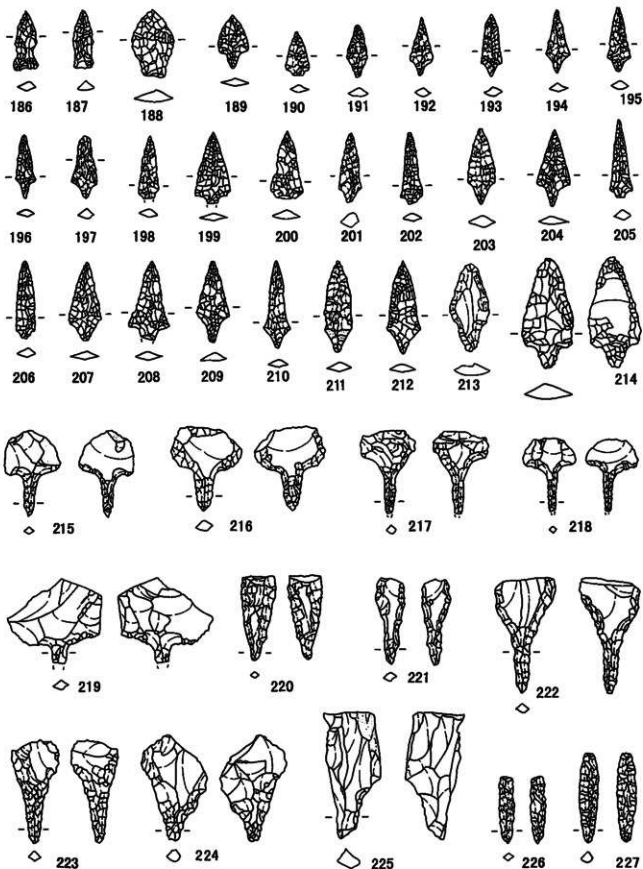


113

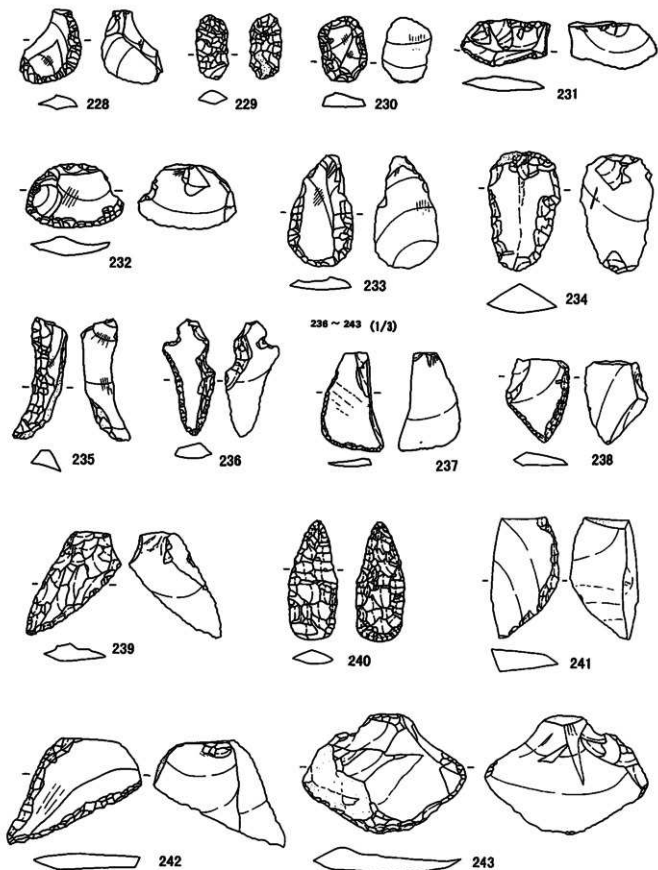
第59図 遺構外出土の遺物 7



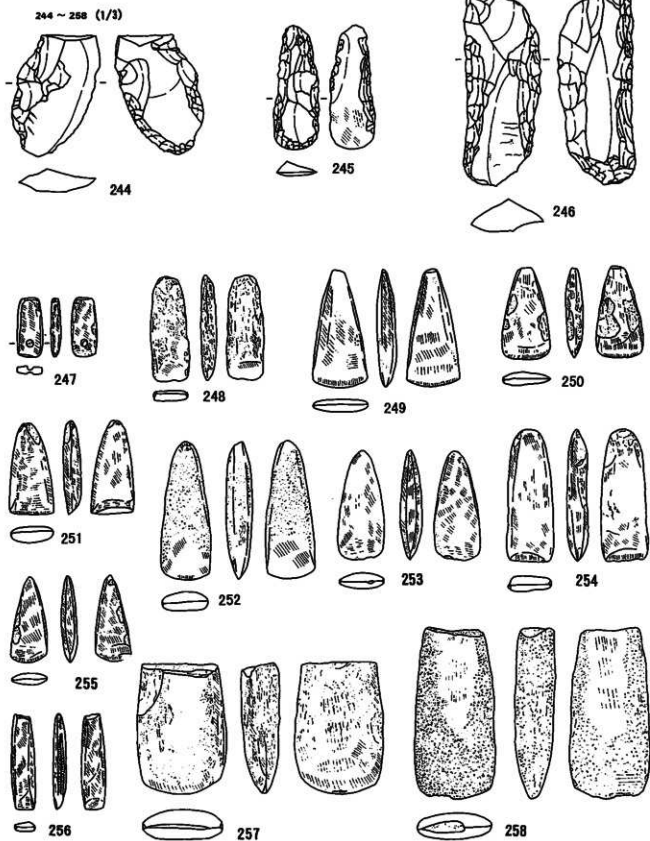
第61図 遺構外出土の遺物 9



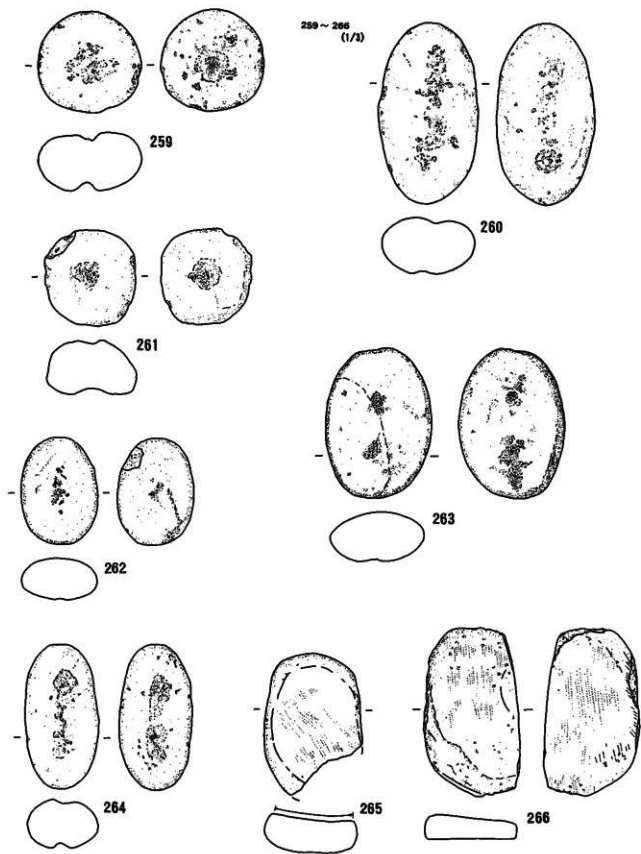
第62図 遺構外出土の遺物 10



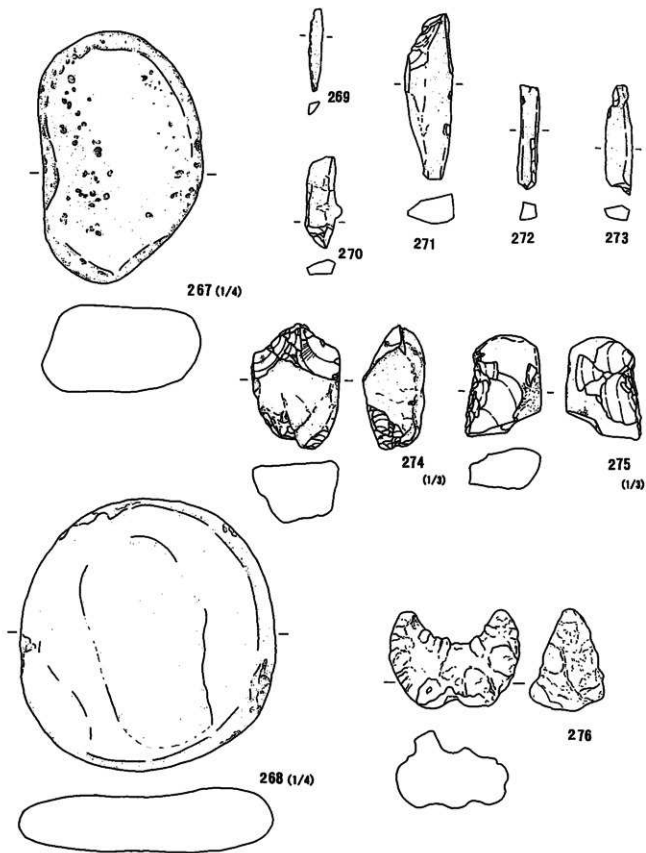
第63図 遺構外出土の遺物 11



第64図 遺構外出土の遺物 12



第65図 遺構外出土の遺物 13



第66図 遺構外出土の遺物 14

遺構外出土掲載遺物一覧表

図版No.	出土地点	取り上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口縁 長さ (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	器重 (g)		
第53図	1	m51d	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	2	m51c	Ⅱ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	3	k53b	Ⅱ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	4	m38a	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	5	k49d	Ⅱ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	6	k53b	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	7	m38a	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	8	152c	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	9	m48d	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	10	m48c	Ⅲ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	11	k51b	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	12	m52a	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	13	m52a	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	14	154b	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	15	m52a	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	16	152c	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	17	m51c	Ⅱ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	18	154b	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	19	m54c	Ⅱ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	20	154d	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	21	152c	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	22	m51d	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	23	k50a	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 口縁部
	24	k53b	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	25	m48c	Ⅲ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	26	m51d	Ⅲ	Ⅱa					土器	拓本 底部
第54図	27	m48c	Ⅲ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	28	153b	Ⅲ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	29	m54a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	30	153a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	31	m51c	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	32	m54a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	33	153a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	34	153a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	35	140b	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	36	153a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	37	153a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	38	k53b	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	39	153b	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	40	m54a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	41	m51c	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	42	153a	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	43	139d	Ⅲ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	44	153b	Ⅱ	Ⅱb					土器	拓本 口縁部
	第55図	45	139d	Ⅲ	Ⅱb					土器

図版No.	出土地点	取上 付 No.	層位	分 類	計 測 値				材 質	備 考
					口 径 径 (cm)	胴 径 径 (cm)	底 径 径 (cm)	器 重 重 (g)		
第55図46	153a		Ⅱ	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部
	47	153a	Ⅱ	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部
	48	m38a	Ⅲ	Ⅱ b					土器	拓本 口縁部
	49	154d	Ⅲ	Ⅱ c					土器	拓本 口縁部
	50	153a	Ⅱ	Ⅱ c					土器	拓本 口縁部
	51	n38a	Ⅳ	Ⅱ c					土器	拓本 口縁部
	52	k53b	Ⅳ	Ⅱ c					土器	拓本 口縁部
	53	n38a	Ⅳ	Ⅱ c					土器	拓本 口縁部
	54	153a	Ⅱ	Ⅱ c					土器	拓本 口縁部
	55	153c	Ⅱ	Ⅳ b					土器	拓本 口縁部
	56	153b	Ⅱ	Ⅳ a					土器	拓本 口縁部
	57	154b	Ⅱ	Ⅳ a					土器	拓本 口縁部
	58	154b	Ⅱ	Ⅳ a					土器	拓本 口縁部
	59	154b	Ⅱ	Ⅳ a					土器	拓本 胴部
60	m52b	Ⅱ	Ⅳ a					土器	拓本 胴部	
61	k50d	Ⅱ	Ⅳ a					土器	拓本 底部	
62	153c	Ⅱ	Ⅳ a			6.2	(2.6)	土器	拓本 底部	
63	153c	Ⅱ	Ⅳ a			(8.0)	(3.8)	土器	拓本 底部	
第56図64	151b		Ⅲ	Ⅱ b	(12.9)		2.0	5.5	土器	
	65	151d	Ⅱ	Ⅱ b	(11.0)		2.0	5.0	土器	
	66	k52c	Ⅲ	Ⅱ b	15.3		3.7	5.6	土器	
	67	m54a	Ⅱ	Ⅱ b	(17.5)		6.6	7.8	土器	
	68	154b	Ⅱ	Ⅱ b	6.9		0.7	4.2	土器	
	69	n40b	Ⅲ	Ⅱ b	10.5		1.8	5.1	土器	
	70	m53b	Ⅲ	Ⅱ b	11.7		4.7	6.2	土器	
	71	m51a	Ⅲ	Ⅱ c	(9.0)	(9.3)	0.5	6.4	土器	
	72	150b	Ⅱ	Ⅱ c	其(26.6) 其 20.8			7.3	土器	
	73	k53b	Ⅲ	Ⅱ c	其(16.0) 其(13.7)		(1.0)	6.5	土器	
74	153a	Ⅲ	Ⅱ c	(26.4)		(9.2)	10.4	土器		
第57図75	j52c	1	Ⅲ	Ⅱ b	(12.0)		3.2	7.3	土器	
	n39d		Ⅱ	Ⅱ b	(22.0)		7.0	8.8	土器	
	77	154c	Ⅱ	Ⅱ b	6.5	7.0	1.2	5.0	土器	
	78	m52d	Ⅱ	Ⅱ b	(9.0)			4.5	土器	
	79	m54b	Ⅲ	Ⅱ b	(19.4)		6.2	10.5	土器	
	80	k52b	Ⅲ	Ⅱ b	其 12.6 其 9.7		(2.5)	7.0	土器	注口
	81	k54b	Ⅱ	Ⅱ b	(16.7)			(6.2)	土器	
	82	139b	Ⅲ	Ⅱ c	其(18.3) 其(12.4)			(6.9)	土器	片口
第58図83	153a		Ⅲ	Ⅱ b	(17.6)		(8.7)	11.6	土器	台付
	84	m53c	Ⅲ	Ⅱ b	(18.4)		6.5	7.0	土器	台付
	85	n38d	Ⅲ	Ⅱ b	8.4		4.4	8.3	土器	台付
	86	m37c	Ⅲ	Ⅱ b			11.0	(4.0)	土器	台付底部
	87	m37c	Ⅲ	Ⅱ b			11.0	(5.1)	土器	台付底部
	88	n51d	Ⅱ	Ⅱ b					土器	台付底部
	89	n51d	Ⅱ	Ⅱ b					土器	台付底部
	90	n51d	Ⅱ	Ⅱ b					土器	台付台部
	91	n51d	Ⅱ	Ⅱ b					土器	台付台部
	92	n51d	Ⅱ	Ⅱ c	(18.0)			(3.9)	土器	臺

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考	
					口径高さ (cm)	胴径 (cm)	底径高さ (cm)	重量 (g)			
第60図140	139c		Ⅱ	泥面子	1.8	1.7	0.7	1.8 g	粘土	扁	
	141	m39a	Ⅱ	泥面子	1.7	1.7	0.7	1.6 g	粘土	松	
	142	n39	カクラン	泥面子	1.7	1.6	0.8	1.5 g	粘土	鳥居	
	143	153c	Ⅱ	泥面子	1.6	1.6	0.8	1.5 g	粘土	動物	
	144	表土	I	泥面子	1.5	1.6	0.5	(1.0)g	粘土	丸に梅鉢	
第61図145	n45a		カクラン	中柄	(11.3)	1.2	1.3	(8.1)g	陸獣骨		
	146	m52d	カクラン	骨角器	(6.7)	(1.0)	0.4	(1.7)g	陸獣骨	ヘラ状骨角器	
	147	m39	カクラン	骨角器	3.7	0.6	0.55	2.1 g	陸獣骨	用途不明	
	148	m39	カクラン	骨角器	(3.9)	0.7	0.7	(2.6)g	陸獣骨	用途不明	
	149	141d	Ⅱ	キセル	4.6	大口径 1.0 小口径 0.6	口径 1.0	金属製品	履首		
	150	140a	Ⅱ	キセル	5.3	大口径 1.0 小口径 0.5	口径 1.0	金属製品	履首		
	151	141d	Ⅱ	キセル	5.4	大口径 1.0 小口径 0.5	口径 0.9	金属製品	吸口		
	152	151b	Ⅱ	キセル	(12.8)	大口径 1.0 小口径 0.7	口径 1.3	金属製品	吸口		
	153	n47a	6	Ⅲ	玉	径 1.3	孔径 0.35	1.1	2.4 g	ガラス	水色
	154	k52b	Ⅱ	玉	径 1.3	孔径 0.4	1.0	1.8 g	ガラス	水色	
	155	n39	カクラン	玉	径 1.5	孔径 0.35	1.0	3.0 g	ガラス	水色	
	156	n47a	5	Ⅲ	玉	径 1.5	孔径 0.45	1.0	2.6 g	ガラス	内面緑色 外面白色
	157	m52c	カクラン	玉	径 1.3	孔径 0.2	1.15	3.0 g	ガラス	白色	
	158	m51c	Ⅱ	玉	径 1.5	孔径 0.4	1.0	3.1 g	ガラス	水色	
	159	n47a	2	Ⅲ	玉	径 1.3	孔径 0.35	1.1	2.4 g	ガラス	水色
	160	n47a	3	Ⅲ	玉	径 1.5	孔径 0.3	1.0	2.9 g	ガラス	水色
	161	n39	カクラン	玉	径 1.55	孔径 0.45	1.3	3.5 g	ガラス	水色	
	162	n47a	1	Ⅲ	玉	径 1.5	孔径 0.3	1.0	2.6 g	ガラス	水色
	163	m51d	Ⅱ	玉	径 0.75	孔径 0.2	0.65	0.5 g	ガラス	濃青色	
	164	153c	Ⅱ	玉	径 0.7	孔径 0.2	0.7	0.5 g	ガラス	濃青色	
	165	表土	I	玉	径 0.8	孔径 0.2	0.6	0.4 g	ガラス	濃青色	
	166	o40	カクラン	古銭	径 2.4		0.1	3.1 g	銅	寛永通寶 (古寛永)	
	167		I	古銭	径 2.45		0.1	2.7 g	銅	寛永通寶 (古寛永)	
	168	137	カクラン	古銭	径 2.45		0.15	3.3 g	銅	寛永通寶 (古寛永)	
	169		I	古銭	径 2.5		0.1	3.1 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
	170	140	カクラン	古銭	径 2.25		0.1	2.0 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
	171	m50	カクラン	古銭	径 2.2		0.1	2.6 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
	172		I	古銭	径 2.3		0.1	3.0 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
	173	154	I	古銭	径 2.3		0.1	2.3 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
	174	140	カクラン	古銭	径 2.45		0.15	3.5 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
	175	o40	カクラン	古銭	径 2.3		0.1	3.3 g	銅	寛永通寶 (新寛永)	
176	m51d	Ⅲ	古銭	径 2.3		0.1	2.5 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
177	154	I	古銭	径 2.3		0.1	2.8 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
178	m52a	カクラン	古銭	径 2.45		0.1	3.3 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
179	n40	カクラン	古銭	径 2.4		0.1	3.2 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
180	n40b	カクラン	古銭	径 2.3		0.1	2.1 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
181	n40	カクラン	古銭	径 2.45		0.15	3.0 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
182	n40	カクラン	古銭	径 2.3		0.1	2.6 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
183	m52a	カクラン	古銭	径 2.3		0.1	2.7 g	銅	寛永通寶 (新寛永)		
184		I	古銭	径 2.8		0.1	4.9 g	銅	寛永通寶 (四文銭11波)		
185		I	古銭	径 2.8		0.1	4.1 g	銅	寛永通寶 (四文銭11波)		
第62図186	138c		Ⅱ	石鏡	3.2	1.3	0.5	1.4 g	黒曜石		

図版No.	出土地点	取上げ No.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口徑 長さ (cm)	胴径 幅 (cm)	底径 長さ (cm)	器高 (cm) 重さ (g)		
第62図187	m52a		Ⅱ	石鍬	3.1	1.1	0.5	1.4 g	黒曜石	
188	m37b		Ⅲ	石鍬	3.7	2.3	0.7	4.2 g	黒曜石	
189	l40a		Ⅱ	石鍬	2.9	1.7	0.4	1.1 g	黒曜石	
190	j50b		Ⅲ	石鍬	2.3	1.3	0.4	0.8 g	チャート	
191	l38c		Ⅲ	石鍬	2.8	1.2	0.5	0.8 g	チャート	
192	m51d		Ⅱ	石鍬	3.2	1.3	0.5	1.1 g	頁岩	
193	m52d		Ⅲ	石鍬	3.3	1.1	0.5	1.4 g	チャート	
194	m54d		Ⅲ	石鍬	3.4	1.3	0.5	1.2 g	玄武岩	
195	m52d		Ⅱ	石鍬	3.4	1.3	0.5	1.2 g	チャート	
196	l51c		Ⅲ	石鍬	3.4	1.1	0.4	0.7 g	黒曜石	
197	m53b		Ⅲ	石鍬	3.4	1.4	0.6	1.8 g	頁岩	
198	j50b		Ⅲ	石鍬	3.4	1.1	0.5	1.2 g	チャート	
199	m37d		Ⅲ	石鍬	3.9	1.9	0.4	2.0 g	黒曜石	
200	l52c		Ⅱ	石鍬	3.7	1.8	0.5	1.8 g	黒曜石	
201	l40a		Ⅱ	石鍬	3.8	1.3	0.8	2.4 g	頁岩	
202	l52c		Ⅲ	石鍬	3.9	1.2	0.5	1.2 g	黒曜石	
203	l54c		Ⅱ	石鍬	4.1	1.5	0.6	2.5 g	メノウ	
204	k49d		Ⅱ	石鍬	4.1	1.8	0.5	1.7 g	黒曜石	
205	m54a		Ⅱ	石鍬	4.2	1.2	0.55	1.5 g	黒曜石	
206	j50b		Ⅲ	石鍬	4.2	1.1	0.5	2.0 g	黒曜石	
207	l53c		Ⅲ	石鍬	4.3	1.8	0.5	2.1 g	黒曜石	
208	l51b		Ⅲ	石鍬	4.3	2.2	0.5	2.2 g	黒曜石	
209	m53d		Ⅲ	石鍬	4.4	1.8	0.5	2.0 g	黒曜石	
210	k50d		Ⅱ	石鍬	4.7	1.5	0.4	1.8 g	玄武岩	
211	m40d		Ⅲ	石鍬	4.9	1.5	0.6	2.9 g	チャート	アスファルト付着
212	l54b		Ⅱ	石槍	5.0	1.8	0.5	2.5 g	黒曜石	
213	k54b		Ⅱ	石槍	4.7	2.1	0.7	5.2 g	玄武岩	
214	l54d		Ⅲ	石槍	5.9	2.8	0.9	8.9 g	黒曜石	
215	m54a		Ⅲ	石錐	4.6	3.0	0.7	5.6 g	チャート	
216	k54b		Ⅲ	石錐	4.6	3.8	0.9	9.4 g	頁岩	
217	l52b		Ⅲ	石錐	(4.4)	3.0	1.1	(7.1)g	チャート	
218	l53c		Ⅲ	石錐	(3.9)	2.8	0.7	(3.8)g	チャート	
219	m48b		Ⅲ	石錐	(4.6)	5.1	1.1	(17.0)g	泥岩	
220	l38d		Ⅲ	石錐	4.5	1.9	1.1	8.4 g	チャート	
221	l52a		Ⅲ	石錐	4.6	1.6	0.6	3.9 g	玄武岩	
222	m52a		Ⅲ	石錐	6.2	3.3	0.5	11.2 g	玄武岩	
223	j50b		Ⅲ	石錐	5.6	2.6	1.4	13.0 g	チャート	
224	j53b		Ⅲ	石錐	5.7	3.6	1.4	17.0 g	チャート	
225	m37d		Ⅲ	石錐	6.9	3.0	2.8	50.0 g	玄武岩	
226	m38d		Ⅲ	石錐	3.6	0.9	0.6	1.4 g	チャート	
227	l52b		Ⅲ	石錐	4.9	1.1	0.8	4.1 g	チャート	
第63図228	m52a		Ⅱ	スクレイパー	4.2	3.3	0.9	8.2 g	黒曜石	
229	k52c		Ⅱ	スクレイパー	3.6	1.7	0.8	4.0 g	黒曜石	
230	m38a		Ⅱ	スクレイパー	3.7	2.6	0.8	8.0 g	黒曜石	
231	l54b		Ⅱ	スクレイパー	2.6	4.8	0.8	9.9 g	チャート	
232	l53a		Ⅲ	スクレイパー	3.5	5.2	1.0	14.4 g	黒曜石	
233	k52c		Ⅱ	スクレイパー	5.9	3.5	0.7	16.0 g	黒曜石	

図版No.	出土地点	取り上げNo.	層位	分類	計測値				材質	備考
					口徑 長さ (mm)	胴径 (mm)	底径 長さ (mm)	重量 (g)		
第63回234	m50a		II	スクレイパー	6.4	3.9	1.6	36.6 g	頁岩	
	235	k54b	II	スクレイパー	6.5	2.8	1.1	11.0 g	黒曜石	
	236	m52a	II	スクレイパー	9.5	4.3	1.3	34.0 g	頁岩	
	237	151c	III	スクレイパー	7.9	5.0	0.7	28.2 g	玄武岩	
	238	n39a	II	スクレイパー	6.7	5.1	1.1	35.2 g	玄武岩	
	239	152c	III	スクレイパー	8.3	7.5	1.5	70.0 g	玄武岩	
	240	m37c	III	スクレイパー	9.6	4.0	1.1	44.6 g	チャート	
	241	m38d	III	スクレイパー	9.8	5.5	1.8	101.0 g	玄武岩	
	242	n39c	III	スクレイパー	8.5	10.8	1.3	102.0 g	玄武岩	
	243	n39b	III	スクレイパー	9.7	13.1	2.0	215.0 g	玄武岩	
第64回244	m39d		II	スクレイパー	9.9	7.2	2.0	130.0 g	玄武岩	
	245	153d	II	スクレイパー	10.4	3.7	1.3	46.0 g	玄武岩	
	246	148d	III	スクレイパー	16.4	6.2	2.5	245.0 g	玄武岩	
	247	138c	II	磨製石斧	4.8	2.1	0.8	15.8 g	泥岩	
	248	k48d	II	磨製石斧	8.5	3.1	1.3	56.5 g	ハンレイ岩	
	249	m54d	II	磨製石斧	9.5	4.4	1.6	92.0 g	泥岩	
	250	154b	II	磨製石斧	7.4	3.9	1.4	50.5 g	泥岩	
	251	m52a	II	磨製石斧	7.5	3.6	1.4	60.0 g	泥岩	
	252	153a	II	磨製石斧	11.1	4.0	2.2	162.0 g	泥岩	
	253	152d	III	磨製石斧	8.8	3.8	1.8	78.5 g	泥岩	
	254	154b	III	磨製石斧	10.1	3.9	1.7	110.0 g	泥岩	ベンガラ付着
	255	m54a	III	磨製石斧	7.0	3.0	1.0	33.0 g	泥岩	
	256	k53b	II	磨製石斧	(7.9)	1.9	1.1	(29.4)g	泥岩	
	257	m54d	II	磨製石斧	(10.5)	7.2	3.1	(418.0)g	泥岩	
	258	k49c	II	磨製石斧	(13.8)	6.6	3.2	(560.0)g	泥岩	
第65回259	151c		II	敲石	8.5	8.4	4.9	295.0 g	安山岩	
	260	153b	III	敲石	14.9	8.0	4.6	414.0 g	安山岩	
	261	153b	II	敲石	7.7	7.3	4.4	207.0 g	輝石	
	262	k52c	III	敲石	8.6	6.2	3.3	223.0 g	安山岩	
	263	148c	III	敲石	12.0	8.6	4.0	578.0 g	安山岩	
	264	m49d	II	敲石	11.7	6.0	4.0	300.0 g	安山岩	
	265	m39a	II	敲石	11.5	7.9	3.1	389.0 g	凝灰岩	
	266	m51	I	敲石	13.5	7.8	2.0	327.0 g	凝灰岩	
第66回267	m52d		II	台石	26.9	17.5	9.4	6,200 g	安山岩	
	268	153a	II	台石	29.0	27.2	7.0	8,500 g	安山岩	ベンガラ付着
	269	k52a	II	棒状礫石	4.5	0.7	0.8	2.0 g	黒曜石	
	270	k52a	II	棒状礫石	4.9	2.0	0.8	6.7 g	黒曜石	
	271	j49b	II	棒状礫石	8.9	2.6	1.6	40.0 g	黒曜石	
	272	j49b	II	棒状礫石	5.6	1.0	1.0	6.4 g	黒曜石	
	273	k52a	II	棒状礫石	5.9	1.5	0.8	8.0 g	黒曜石	
	274	k50b	II	石核	10.0	7.0	5.0	380.0 g	黒曜石	
	275	k39c	III	石核	8.2	6.0	3.3	267.0 g	泥岩	
	276	j50c	II	石製品	5.3	7.0	4.15	120.0 g	石英	

第Ⅳ章 ま と め

(1) 成果と問題点

「大川遺跡」の特徴として時代幅が広く遺構が確認されることが挙げられる。その中で今年度の調査において主たる時代は縄文晩期（墓坑・住居跡・土器集中・石器集中）、近世・近代（貝塚・塚状遺構）である。

調査の成果の一つとして縄文晩期の墓坑の群集地に相当する。墓坑を含む113基のPitが集中して出土したことがあげられる。

調査以前において道路工事などにより墓坑の一部まで破壊されているものが多く、墓坑の全体が確認できるものは少なかった。一部、覆土上面まで残っている墓坑においては上面に凝灰岩粗粒による封土を行ったものが出土した。この凝灰岩粗粒が出土した墓坑を半裁し断面を確認したところ墓坑のほぼ中央にあり埋封的な役目であると考えられる。この凝灰岩粗粒は1998年の調査においても出土しており、他の地域にはあまり見られない。

また、墓坑上面に石を配した墓坑（P-96）が1基出土した。攪乱等の影響により配石の全体は確認できなかったが墓坑の中央に配していたと考えられる。

縄文晩期の墓坑群は確認できたが住居跡に関して数が少なかったことがあげられる。今回の調査においては1軒の住居跡が出土し、1998年の調査からは3軒出土した。これらのことを踏まえて推測すると縄文晩期の集落は現在までの調査を行った大川遺跡の範囲から南東に位置すると推測されるが判然としない。

この住居跡の出土数が少ない事に関連して土器集中・石器集中・焼土が少ないことを考えなければならぬ。土器集中において掘り込みなどを作り人為的に土器を廃棄した場所は少なかった。

石器集中に関しては、石器製作の際に生じる剥片及び原石がまとまって出土した。また、焼土に関してはⅡ層およびⅢ層上面で出土。Ⅱ層の多くの焼土は近世・近代と考えられる。

貝塚に関しては近世・近代のもので、SM-2・SM-4・SM-6は塚状遺構（MO-27）、SM-7は住居跡（H-1）が埋没した部分に作られた。全体の貝塚の特徴として陶磁器・骨角器並びに鉄製品の数が少ない印象を受ける。

また、過去の大川遺跡の調査で出土した塚状遺構が出土したことが上げられる。以前（1998年）の調査においては出土してはいなかったため、今回の調査においては出土しないと予想していたが出土した。この事を踏まえて考えると塚状遺構の広がり当初予想していたものとは違う広がり方をしていると思われる。この塚状遺構の全容がつかめなかったことが心残りの点である。

今回の発掘調査作業においての反省すべき点として、町道工事の期間等が限られていたため、墓坑及び遺構の調査においても迅速を帰さなければならなかった。そのため遺構の全体を確認するのが最優先となり、その周辺状況においてやや配慮を行えなかったのが心残りである。

(原)

(2) 総括

今回の発掘調査区は1998年度の発掘区に直行しており、縄文時代晩期の墓坑群の広がりや再確認することになった。

注目すべきことは墓坑群の一部に木柵の痕跡が確認されたことである。この点について1998年度の調査においても木柵の痕跡は検出されているが、今回の墓坑では遺体の検出、副葬品の伴出もあり、その埋葬方法がより具体的になったことである。本文において「木柵」の用語を使用したのが古墳の内部構造に適用されるものであるため誤解のないように説明を加えるならば、墓坑での板材の木柵は、土留め・木棺的でもあり、蓋の存在も考慮されるもので、床板の有無については判然としなない。従って本来の木柵そのものではなく規模と構造面において相通していること理解していただきたい。

埋葬過程であるが、隅丸長方形または楕円形の墓穴に木柵を入れ、遺体の頭を西に向けた仰臥屈葬として、かなり窮屈に押し込めている感がある。副葬品として玉類、漆製品を入れ、ベンガラを厚く散布している。板材または樹皮などで蓋をした後に土を被せ、凝灰岩粗粒を最後に封土とし、場合によっては封土に土器などの副葬品を添える場合もある。この凝灰岩粗粒は余市周辺では崖面に黒色土の下部に風化してローム状になっているもので容易に入手できるものである。かつて筆者はこの封土に着目し「大川葬法」と呼称したがこの地域の縄文時代晩期後半では普遍的に行われた埋葬方法であったと考えている。しかし、この葬法も統縄文時代になると継承されず、墓坑形態、遺体の頭位方法、副葬品の種類などに大きな転換が看取される。このたびの木柵例は単に大川遺跡だけにとどまらず、他地域の縄文晩期の墓坑群においても同様の埋葬方法である可能性もあり、注意すべき事項である。副葬品として玉類、漆製品、サメの歯がある。玉類について勾玉は単独、白玉は首飾り、腕輪などに連として使用している場合が多い。勾玉についてはヒスイの産地同定をしていないが、道内に良質のヒスイ産地が確認されていないことから本州産のヒスイである可能性が高く搬入品として、白玉は蛇紋岩製であることから地元で製作されている可能性がある。漆製品は赤色漆の腕輪や腰布であり、腕輪については町内の沢町遺跡から両腕に着装したように2点の出土、腰布については1998年度の大川遺跡P-14からも出土しており、日常生活において漆製品は多用されていたと推測される。サメの歯については頭部付近からままとまって出土していることから被りものの装飾として装着したと推測される。

上述のように墓坑群を主体に記述してきたが、1989年度から2005年度までの大川遺跡の発掘調査により約1200基にも及ぶ縄文時代晩期から統縄文時代にかけての墓坑が発見されている。しかし、緊急発掘ゆえに年度ごとに調査区域が断片的となり、その都度、発掘調査報告書を刊行しているが、遺跡全体として把握することは関係者以外には困難な現状である。こうした状況は筆者自身の苦悩でもあり、今後の課題として縄文時代から近世・近代にかけての墓坑群の平面分布や副葬品の変化などについても、数年をかけて整理し、多くの研究者の協力を得ながら順次公表していきたい。

(乾)

【引用・参考文献：50音順】

- 青森県教育委員会 2002「朝日山（2）遺跡Ⅴ」
- 乾 芳宏 2002「縄文時代晩期から統縄文時代への墓坑変遷」『地域考古学の展開』
- 恵庭市教育委員会 2004「カリンバ3遺跡（3）」
- 加藤邦雄 1980「縄文文化後期・晩期」『北海道考古学講座』
- 河野広道 1959「北海道の土器」『郷土の科学』
- （財）北海道埋蔵文化財センター 2004「遺跡が語る北海道の歴史」
北海道埋蔵文化財センター25周年記念誌
- （財）北海道埋蔵文化財センター 2005「北檜山町 生沢2遺跡」
- 瀬川拓郎 1983「縄文後期～統縄文期墓制論ノート」『北海道考古学』19
- 竹田輝雄 1969「北海道」『新版考古学講座』3
- 名取武光他 1961「大川遺跡」余市町教育委員会
- 日本玉文化研究会 2005「日本玉文化研究会第三回北海道大会研究発表会要旨・資料集」
- 野村 崇 1976「札幌～北海道上磯郡木古内町における縄文時代晩期土壌墓の調査」
北海道開拓記念館
- 野村 崇 1985「北海道縄文時代終末期の研究」
- 野村崇・宇田川洋 2001「新北海道の古代1～旧石器・縄文文化」
- 野村 崇 1988「日本の古代遺跡40～北海道Ⅰ」
- 野村 崇 1998「日本の古代遺跡41～北海道Ⅱ」
- 藤田富士夫 1989「玉」考古学ライブラリー52
- 松下 亘 1978「焼酎徳利について」『北海道開拓記念館研究年報』6
- 松下 亘 1978「北海道に現存する異色徳利について」『物質文化』30
- 南北北海道考古学情報交換会 1999「北日本における縄文時代の墓制資料集」
- 余市町教育委員会 1971「天内山」
- 余市町教育委員会 2000「大川遺跡（1998年度）」
- 余市町教育委員会 2000「大川遺跡における考古学的調査」Ⅰ・Ⅱ
- 余市町教育委員会 2001「大川遺跡における考古学的調査」Ⅲ・Ⅳ
- 余市町教育委員会 2001「大川遺跡（1999年度）」
- 余市町教育委員会 2002「大川遺跡（2000・2001年度）」
- 余市町教育委員会 2004「大川遺跡（2003年度）」
- 余市水産博物館 2000「大川遺跡・本多地区発掘調査報告」『余市水産博物館研究報告』第5号
- 吉崎昌一 1965「縄文文化の発展と地域性～北海道」『日本の考古学』Ⅱ

第V章 付 編

大川遺跡2005年度調査出土の人骨

名古屋大学博物館 新 美 倫 子

大川遺跡の2005年度調査では縄文時代晩期と近世末～近代の人骨資料が検出されている。近世末～近代の人骨については表1に出土量を示し、すべての資料について以下にその内容を述べている。なお、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生には分析に関して御教示をいただき、余市町教育委員会の乾芳宏氏にはこの資料を分類する機会を与えていただいた。ここに感謝いたします。

1. 縄文時代の資料

縄文時代晩期の墓坑であるピット15・17・22・43・49・50・62・74・80・83・95・101・105・109から、それぞれヒトの歯の歯冠部破片が検出された。すべての資料において歯の象牙質は溶けてなくなりエナメル質しか残存していないため、埋葬されていた人骨の年齢等は不明である。

2. 近世末～近代の資料

<ピット2出土資料>

ピット2からは1個体のほぼ全身の資料が仰向けの状態で出土しているが、墓坑は確認できなかったとのことである。頭蓋骨はほぼ全体が残存していたが、顔面の眼窩から下の部分は細かく割れていて復元できなかった。眼窩上隆起は弱く女性的である。左右の上顎骨で第2後臼歯は萌出完了しており、第3後臼歯が萌出を開始している。左上顎骨では第2乳臼歯が残り第2前臼歯が萌出途中であるが、これ以外の上顎切歯・犬歯・前臼歯はすべて萌出完了しており、切歯・犬歯はかなり摩滅している。下顎骨でも左右の第2後臼歯は萌出完了し、左第3後臼歯が萌出を開始しており、右第3後臼歯は萌出開始直前である。すべての下顎切歯・犬歯・前臼歯は萌出完了しており、切歯はかなり摩滅している。下顎骨の筋粗面の発達は弱い。

四肢骨の発育状況を見ると、肩甲骨では関節部がまだ完全に骨化していない。上腕骨では近位骨端部ははずれており、遠位骨端部は癒着している。橈骨の遠位骨端部ははずれている。大腿骨の近位骨端部は癒着し、遠位骨端部ははずれている。脛骨は近位部・遠位部共に骨端が癒着している。上述の歯の萌出状態とこれらの四肢骨の状況から総合的に判断すると、この個体の年齢は15～16歳程度と思われる。また、寛骨は左右共に腸骨部分と坐骨部分が残存しており、大坐骨切痕の角度が大きいためこの個体は女性である。

なお、ピット2からは108点の資料が出土し、そのうち105点は上述の個体に属する資料であったが、上顎左第1切歯1点と左右の上顎第2切歯1点ずつの計3点が別個体のものであった。

<ピット14出土資料>

ピット14は墓坑と考えられ、頭蓋骨の右半分と左上顎歯と下顎骨が出土した。これらの資料はすべて同一個体のものである。頭蓋骨は眼窩上隆起が弱く女性的である。右上顎骨はすべての歯が萌出完了しており、第1前臼歯～第2後臼歯部分の歯槽骨が萎縮している。それに伴って第1後臼歯は抜けかかり、第2後臼歯は生前に抜け落ちて歯槽が埋まっており、歯周症が顕著である。左右のすべての上顎骨はかなり摩滅しており、第3後臼歯は歯根部分が膨張している。

下顎骨は全体に歯槽骨が萎縮しており、第3後臼歯は生前に抜け落ちて歯槽が埋まり、歯周病が顕著である。すべての下顎歯がかなり摩滅しており、下顎骨の筋粗面の発達は弱い。歯の磨滅や歯周病の状況から見て、この個体の年齢は老年であろう。

<SM-7出土資料>

貝ブロックSM-7から1個体の頭蓋骨ほぼ全体と下顎右第2切歯1点・下顎左犬歯1点が出土している。頭蓋骨と下顎歯が同一個体であるかどうかはよくわからない。頭蓋骨は細かく割れており、上顎骨では左右共に第1後臼歯は萌出が完了し、第2後臼歯は萌出途中であり、第3後臼歯は未出であった。また左右共に第2乳臼歯が残っている。歯の萌出状況から見て、この個体の年齢は10～11歳程度であろうと思われる。性別は不明である。

<その他の出土資料>

その他の遺構内出土資料としては、貝ブロックSM-2から胸骨が1点、SM-6から左下顎関節突起のみが1点、溝MO-27から肋骨破片が2点出土した。SM-6出土資料は若齢個体のものである。包含層出土資料としては、I層から左大腿骨の中間部破片1点、Ⅲ層から頭蓋骨破片11点が出土した。Ⅲ層出土資料は同一個体のもので眼窩上隆起部分が含まれており、隆起は非常に強い。いずれの破片も厚く、成人男性のものと思われる。

表1 近世末～近代人骨出土内容

遺構・層位	出土部位・量	計
ビット2	頭蓋骨ほぼ全体あり 上顎骨左 (I12CP12M123) P2萌出途中, m2あり, M3萌出はじめ 上顎骨右 (X×CP12M123) M3萌出はじめ 下顎骨左 (I12C×P2M123) M3萌出はじめ, 関節突起あり 下顎骨右 (I12C×P2M123) M3萌出直前, 関節突起あり 環椎1, 軸椎1, 肩甲骨左1, 右1, 上腕骨左上～中間1, 右1 橈骨左中間1, 右(下関節部のみなし)1, 尺骨左下1, 右1 寛骨(腸骨+坐骨部分)左1, 右1, 大腿骨左1, 右1 脛骨左1, 右1, 腓骨左中間1, 右中間～下1 膝蓋骨左1, 距骨右1, 踵骨左1, 右1 中手骨3, 中足骨5, 基節骨4, 中節骨3, 末節骨1, 足根骨3 鎖骨左1, 右1, 仙骨1, 椎骨17, 肋骨破片41, 胸骨1 上I1左1, I2左1, 右1	108
ビット14	頭蓋骨右半分 上顎骨右 (I12CP12M1X) M3 上I1左1, C左1, P2左1, M1左1, M3左1 下顎骨左 (X12CP12M12X) 下顎骨右 (I12CP12M12X) 関節突起あり	7
SM-2	胸骨1	1
SM-6	下顎関節突起左1	1
SM-7	頭蓋骨ほぼ全体あり 上顎骨左 (X×CP1m2M123) M2萌出途中, M3未出 上顎骨右 (X×XP1m2M123) M2萌出途中, M3未出 下I2右1, C左1	3
MO-27	肋骨破片2	2
I層	大腿骨左中間1	1
II層	頭蓋骨破片11	1
計		124

註 I: 切歯, C: 犬歯, P: 前臼歯, M: 後臼歯, m: 乳臼歯, I・P・M・mに伴う数字は歯の順番を示す。

()は顎骨があることを示し, Xは歯が脱落していることを示す。

上: 近位部, 下: 遠位部, 中間: 中間部。上・下・中間のないものは完存。

大川遺跡2005年度調査出土の動物遺体

名古屋大学博物館 新 美 倫 子

大川遺跡の2005年度調査では近世末～近代の動物遺体が出土した。これらの動物遺体には貝ブロックの一部を土ごと取り上げてふるいで水洗選別・抽出したものと、発掘時に目に付いた資料を取り上げたものがある。貝ブロックはSM-1～7の7つが検出されており、そのうちSM-1では2カ所、SM-4では3カ所、SM-5では3カ所で範囲を決めて資料が土ごと採集された(第45図・第47図・第48図参照)。また、SM-2・SM-3・SM-6・SM-7では貝ブロック全体が土ごと採集された。そして、採集された貝ブロックサンプルはそれぞれ2mm目のふるいを用いて動物遺体が水洗選別・抽出された。この動物遺体の抽出は余市町で行われたため、小さな資料については若干抽出もれがあるかもしれない。これら以外には発掘時に目に付いた資料が取り上げられている。

ここで扱う資料のうち貝類・フジツボ類・ウニ類・魚類はふるいで選別されたものである。なお、複数のサンプルが採集された貝ブロックでは、最も動物遺体の多く含まれるサンプルを選んで内容を報告することとし、SM-1ではサンプル1、SM-4ではサンプル3、SM-5ではサンプル1の資料を分類した。両生類・鳥類・哺乳類資料はほとんど発掘時に取り上げられたものであるが、ふるいで選別されたものも少量含まれている。すべての動物遺体について表1に出土種名を示し、貝類の出土量を表2に、魚類の出土量を表3・4に、哺乳類の出土量と計測値を表5・6・7に示して、以下にその内容について述べることにする。なお、国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生には種同定に関して御教示をいただき、余市町教育委員会の乾芳宏氏にはこの資料を分類する機会を与えていただいた。ここに感謝いたします。

1. 貝類・フジツボ類・ウニ類(表2)

貝類は514点が出土した。表2では二枚貝については殻頂部の残存する左殻・右殻の出土数を示し、巻貝は芯の残る個体の出土数を示した。最小個体数で見るとイガイ類が146個体と最も多く、次に多いのがコタマガイで93個体であり、他にアワビ類13個体、エゾチヂミボラ11個体、タマキビ類6個体、クボガイ類3個体、ウバガイ2個体、カサガイ類2個体、エゾバカガイ1個体、ツメタガイ類1個体が出土した。サンプルには含まれていなかったが、エゾタマキガイも発掘時に採集されている。

イガイ類はすべての資料が壊れており、殻頂部のみとなった資料も多かった。小型のものから大型のものまでいろいろな大きさの個体が含まれているが、大型の個体が多いと思われる。コタマガイは殻長3cmから7.5cm程度までの個体が見られたが、6～7cmの個体が多い。アワビ類のうち10個体は幼貝であり、残りの3個体は破損して殻頂部のみとなっていた。エゾチヂミボラはいずれも殻高3～4cm程度の個体である。タマキビ類の大部分はタマキビであると思われる、カサガイ類・ツメタガイ類はいずれも幼貝であった。

フジツボ類はチシマフジツボと思われる破片がすべてのサンプルで見られた。また、ウニ類についてはSM-5以外の全サンプルでキタムラサキウニ・エゾバフンウニの棘が見られ、SM-4では特に大量に出土している。

2. 魚類(表3・4)

魚類は2249点の資料が出土し、このうち種を同定できた資料は2121点である。椎骨資料1840点

の内容を表3に、椎骨以外の資料409点の内容を表4に示した。椎骨は種を同定できた1712点のうちニシンが679点と最も多く出土し、次いでホッケが632点であり、コイ科の1種206点、カサゴ類90点、カレイ類69点、アイナメ類25点、ヒラメ7点、サメ類1点、イトウ1点、カジカ類1点、フグ類1点とサケ類椎骨破片8.3gが出土している。椎骨は出土していないがタラ類も前上顎骨2点が見られた。

ニシンは椎骨以外の資料も245点と多数見られた。椎骨もその他の部位も多くの資料がその大きさから見て体長30cm以上の成熟個体のものであり、春の産卵期に接岸したものを捕獲したのであろう。ホッケは椎骨以外の部位は49点見られた。椎骨・その他の部位共にほとんどが体長35cm以上の個体のものであり、40cmをこえるものが多い。これらは秋に接岸するいわゆるネボッケと思われる。コイ科の1種とした椎骨にはウグイ類と思われるものが多いが、ウグイよりも側面のしわが枝分かれしてやや数の多いタイプの資料も含まれる。体長40cm以上の大きな個体のものが多いが、20cm程度の小さな個体も見られた。これらの椎骨に対応すると思われる上顎骨・歯骨・関節骨・方骨・鰓蓋骨・咽頭歯は31点出土しており、全てウグイ類のものであった。

カサゴ類はほとんどの資料がSM-2とSM-4で出土した。体長30cm台の資料も少数見られたが、10数cmのエゾメバルと思われるものが多い。カレイ類は体長10数cmから40cm前後までのさまざまな大きさの個体が見られた。マガレイに類似する椎骨やマガレイに類似する椎骨など、いくつかのタイプが含まれている。アイナメ類は体長20cm台の資料が多いが、40cmをこえる大きなものも見られた。ヒラメは体長60cm程度の個体が多い。サケ類の椎骨破片は大部分が大型のシロザケタイプのものであったが、小型のマスタタイプも少量見られた。

3. 両生類・鳥類

両生類はSM-3でカエル類の左上腕骨1点と椎骨2点出土した。これらは現生エゾアカガエル標本と同じ大きさであった。

鳥類は5点出土した。このうち種が判明したのは3点で、SM-4出土のカラス類尺骨左近位部1点、SM-5出土のカラス類中手骨左近位部1点、SM-6出土のコウミスズメ上腕骨左近位部1点である。種不明の資料はSM-2で四肢骨破片1点と津のMO-27で破片1点が見られた。

4. 哺乳類 (表5・6・7)

哺乳類は108点出土しており、陸獣の出土内容を表5に、海獣の出土内容を表6に示した。陸獣は77点出土し、その内訳はイヌ48点、クマ19点、シカ2点、ネズミ類1点、陸獣破片7点である。イヌは埋葬された状態で検出されたものはなく、すべて散乱状態で出土した。全身の部位が見られ、幼獣・若獣・成獣の各年齢群の資料が含まれていた。SM-4・SM-6・Ⅲ層から出土した下顎骨3点については表7に計測値を示した。SM-4出土下顎骨は筆書所蔵の現生柴犬標本と比較して骨体がひとまわり大きく、下顎底がやや丸い。SM-6・Ⅲ層出土下顎骨は骨体が現生柴犬より少し大きく、下顎底は比較的平らである。いずれの資料も骨体の高さは平行に近く、歯列の湾曲は少ない。四肢骨には現生柴犬と同程度の大きさの資料と現生柴犬よりひとまわり大きな資料が見られ、SM-4出土の右上腕骨と右脛骨には解体痕が見られた。

クマは犬歯と四肢骨が出土しており、犬歯では雄の資料と雌の資料が確認できた。四肢骨では幼獣・若獣・成獣の各年齢群の資料が見られた。シカは足根骨と角破片が見られ、ネズミ類はド

ブネズミ現生標本と同じ大きさであった。

海獣類は31点出土し、その内訳はアシカ雄成獣2点、トド雄成獣1点、トド雌成獣1点、アザラシ類1点、海獣類11点、クジラ類15点である。アザラシ類環椎は形態がゴマフアザラシに類似するが少し異なっていた。クジラ類はSM-2出土の2点が小型クジラの肋骨破片であり、それ以外の資料は大型クジラのものであろう。加工痕のある資料が多い。

<引用文献>

斎藤弘吉 1963『犬科動物骨格計測法』

表1 出土動物種名

I. 貝類

- 1 アワビ類
- 2 カサガイ類
- 3 クボガイ類
- 4 タマキビ類
- 5 ツメタガイ類
- 6 エゾチヂミボラ
- 7 エゾタマキガイ
- 8 イガイ類
- 9 コタマガイ
- 10 エゾバカガイ
- 11 ウバガイ

II. フジツボ類

- 1 チジマフジツボ

III. ウニ類

- 1 エゾバフンウニ
- 2 キタムラサキウニ

IV. 魚類

- 1 サメ類
- 2 ニシン
- 3 イトウ
- 4 サケ類
- 5 ウグイ類
- 6 コイ科の一種
- 7 タラ類
- 8 カサゴ類
- 9 アイナメ類
- 10 ホッケ
- 11 カジカ類
- 12 ヒラメ
- 13 カレイ類
- 14 フグ類

V. 両生類

- 1 カエル類

VI. 鳥類

- 1 コウミスズメ
- 2 カラス類

VII. 哺乳類

- 1 ネズミ類
- 2 エゾヒグマ
- 3 エゾシカ
- 4 ニホンアシカ
- 5 トド
- 6 アザラシ類
- 7 クジラ類
- 8 イヌ

表2 貝類出土内容

遺構	種		コタマガイ		アワビ類	エシチミガウ	タマキビ類	その他	計
	左殻	右殻	左殻	右殻					
SM-1	17	13			幼3		幼1	ウバガイ右殻1	35
SM-2	27	23	8	4	幼3	1		ウバガイ右殻1, エソバカガイ右殻1 種不明二枚貝右殻1, 種不明巻貝幼7	76
SM-3	14	19	1	2				種不明巻貝幼1	37
SM-4	15	15	71	59	幼4	1	1	クボガイ類3, カサガイ類幼1	170
SM-5	9	14	6	1					30
SM-6	10	3	3	13	3		4		36
SM-7	54	55	4	4		9		ウバガイ左殻1, カサガイ類幼1 ツメタガイ類幼1, 種不明巻貝幼1	130
計	146	142	93	83	13	11	6	20	514

注 二枚貝は殻頂部を、巻貝は芯を数えた。幼：幼貝。

表3 魚類出土内容(椎骨)

遺構	ニシン	ホッケ	コイ科の 一種	カサゴ類	カレイ類	アイナメ類	ヒラメ	サケ類 (g)	その他	種不明	計	同定不可 椎骨破片
SM-1	47, 焼5	148, 焼6	26, 焼7		2	2	2	0.6, 焼0.2			245	13
SM-2	64, 焼5	16	40, 焼3	62	4	14, 焼1	1	0.3		6	216	8
SM-3	16, 焼1	2	14, 焼2		2			+	サメ類1, イトウ1		39	5
SM-4	318, 焼9	217, 焼16	69, 焼11	27, 焼1	33	8	4	6.1, 焼0.1	カジカ類焼1	8, 焼1	723	42
SM-5	71	207, 焼2	15, 焼1		13			0.3			309	17
SM-6	107, 焼1	17	11		14			0.7, 焼+	フグ類1	2	153	21
SM-7	35	1	6, 焼1		1			+		2	46	3
計	679	632	206	90	69	25	7		4	19	1731	109

注 サケ類については資料の大半が破片であるため、出土量を重量で示した。焼：焼けた資料、+：重量が0.1g未満。

表4 魚類出土内容(椎骨以外)

種 遺構	ニシン	ホッケ	ウグイ類	カサゴ類	サケ類	その他	計
SM-1	上顎骨左1 歯骨右2 関節骨左1 耳石10	前上顎骨左2 上顎骨左2,右1 歯骨左3,右3 関節骨左2,右1 方骨右4,鯔蓋骨右2	上顎骨右1 関節骨右1	鯔蓋骨右1	歯4	アイナメ類上顎骨右1	42
SM-2	歯骨左5,右8 関節骨左6,右6 方骨左5,右9 鯔蓋骨左1,右2 耳石137	関節骨左1 方骨左2	歯骨右3 関節骨左1 方骨左2,右1 鯔蓋骨右1 咽頭歯右2 破片11	前上顎骨左1 上顎骨右1,歯骨右1 関節骨右1 方骨左2,右1 前鯔蓋骨左1,右1 鋤骨1	歯3	アイナメ類鋤骨1	218
SM-3			咽頭歯破片1		歯3		4
SM-4	上顎骨左1,右1 歯骨右1 方骨左1 耳石23,焼1	上顎骨左1,右1 歯骨左1,右1 関節骨左2 方骨左1,右5 前鯔蓋骨左1,鋤骨1	歯骨左2 鯔蓋骨右2 咽頭歯破片1	前上顎骨右1 上顎骨左2,右1 方骨左2,右1 鯔蓋骨左2 鋤骨1	歯22,焼4	アイナメ類前上顎骨左1 関節骨左1	91
SM-5		上顎骨左1,右1 歯骨左4,右3 方骨左1,鋤骨1	関節骨右1 鯔蓋骨右1	関節骨右1	歯3,焼1	カレイ類第一血管間棘1	19
SM-6	関節骨右1 耳石11			鯔蓋骨右1	歯10	カレイ類歯骨右1,第一血管間棘1 タラ類前上顎左1,右1	27
SM-7	歯骨左1,耳石5	方骨左1			歯1		8
計	245	49	31	24	51	9	409

表5 陸獣出土内容

遺構・層位	種・出土部位・量				計
	イ	ヌ	ク	マ	
SM-1	椎骨1				1
SM-2	上腕骨右1, 尺骨右1 寛骨右1幼, 大腿骨左下 (骨端部のみ) 1若		四肢骨破片2		6
SM-3	下M1左1				1
SM-4	下頭骨左 (C×XP34M12X) 関節突起あり □同一 下顎骨右P2 (M12X) 肩甲骨右1, 上腕骨右1, 下1, 橈骨右, 1尺骨右1 寛骨右2, 大腿骨左1, 右上1, 下1, 脛骨左1, 右1 踵骨右1, 距骨右1, 肺骨破片3, 中手・中足骨2, 上1 椎骨2, 肋骨破片3, 手根・足根骨1		上腕骨右下1幼 (骨端部なし)		29
SM-6	上顎骨右 (XXXXP4M1) 下顎骨左 (XXXXP23XXM2X) 関節突起あり 上P4右1, 下C左1			陸獣四肢骨破片1	5
SM-7	上C右1, 上腕骨左下1 大腿骨右1		上C右1雄 尺骨左1若	シカ足根骨1 ネズミ類大腿骨右上1 陸獣四肢骨破片2, 破片1	10
ヒット2	脛骨左中間部1 踵骨右1, 椎骨1		寛骨左1, 脛骨右下1	陸獣四肢骨破片3	8
MO-27	上頭骨左 (C×P234X) C萌出はじめ, P2・3未出 P4萌出はじめ, M1萌出完了直前, 幼 中手・中足骨上1		上腕骨左下1, 中間部1若 橈骨左下1 大腿骨左上1幼 (骨端部なし) 四肢骨破片5		11
II層	上C右1		下C右1雄, 上腕骨右下1 四肢骨破片1	シカ角破片1	5
III層	下頭骨左 (13X次P234XX) 関節突起なし				1
計		48	19	10	77

注 1: 切端, C: 犬歯, P: 前臼歯, M: 後臼歯, 次: 次歯, I・P・Mに伴う数字は歯の順番を示す。

() は歯骨があることを示し, Xは歯が脱落していることを示す。上: 近位部, 下: 遠位部

上・下のないものは完存。幼: 幼獣, 若: 若獣, 幼・若のないものは成獣。

表6 海獣出土内容

遺構・層位	種・出土部位・量	計
SM-1	クジラ類破片 1	1
SM-2	クジラ類肋骨破片 2	2
SM-6	クジラ類破片 1	1
SM-7	アシカ産脛骨右上1, 踵骨左1 海獣肋骨破片1, 破片8 クジラ類肋骨破片1, 破片5	17
ビット2	トド雄肩甲骨左1 クジラ類破片1	2
MO-27	トド雌上脛骨左1 海獣破片1 クジラ類破片4	6
I層	海獣頰歯1	1
II層	アザラシ類頸椎1	1
計		31

注 表5参照。

表7 イヌ下顎骨計測値

遺構 層位	資料の歯式	P2P3間 の高さ	P3中央部 での高さ	M1中央部 での高さ	M1M2間 での高さ	P3中央部 での高さ	M1中央部 での高さ	M2中央部 での高さ	M1 長さ	下顎骨 全長1	下顎骨 全長2
SM-4	左(CXXP34M12X)	19.5	21.6	25.2	24.3	12.7	14.3	12.7	22.0	—	133.1±
SM-6	左(XXXXXP23XXM2X)	16.0	18.7	23.2	22.0	9.5	9.6	8.4	—	124.3	123.8
II層	左(I3X欠P234XXX)	17.1	19.4	22.7	—	10.2	10.7	10.0	—	—	—

注 表5参照。計測点は海獣弘吉(1963)に従い、計測値の単位はmmである。土付きの数字は近似値を示す。

写 真 图 版



発掘調査前 (南西→北東)



発掘調査前 (北→南)



作業風景 (南→北)



作業風景 (北東→南西)



調査区北西側完掘状況 (南西→北東)



調査区南東側完掘状況 (北→南)

写真1 調査前・調査風景・完掘状況



P-68 全景 (東→西)



P-101 全景 (東→西)



P-98 全景 (南東→北西)



P-98 玉出土状況

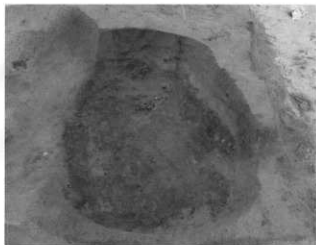


P-83 全景 (南東→北西)



P-83 玉出土状況

写真2 墓坑 1



P-62 全景 (南東→北西)



P-62 玉出土状況



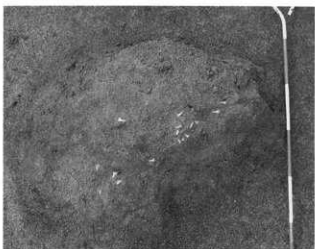
P-31 全景 (西→東)



P-73 全景 (南東→北西)



P-108 遺体頭部出土状況 (南東→北西)



P-108 鞍の歯出土状況

写真3 墓坑2



P-34 全景 (東→西)



P-15 全景 (南東→北西)



P-2 出土状況 左) 上 SM-2 中 P-2 下 MO-27が重なっている 右) P-2 遺体出土状況 (南東→北西)



P-2 遺体出土状況 (西→東)



P-14 全景 (北→南)

写真4 墓坑3



FP-7 全景 (北西→南東)



FP-11 全景 (北東→南西)



FP-17 全景 (北東→南西)



FP-19 全景 (南東→北西)



FP-23 全景 (南東→北西)



FP-26 全景 (北東→南西)



FP-27 全景 (南東→北西)



FP-27 断面

写真5 焼 土



CF-1 全景 (南西→北東)



CF-3 全景 (南→北)



CS-2 全景 (南西→北東)



包含層完形土器 (k53a II層)



CP-1 全景 (北東→南西)



CP-2・3 全景 (南東→北西)



CP-22 全景 (南西→北東)



CP-23 全景 (北東→南西)

写真6 石器集中・土器集中



SM-1 全景 (北西→南東)



SM-3 断面 (南西→北東)



SM-4 全景 (南→北)



SM-4 断面 (東→西)



SM-5 全景 (南西→北東)



SM-6 全景 (南東→北西)



石組炉-1 全景 (北西→南東)



石組炉-1 断面 (北西→南東)

写真7 貝塚・石組炉



H-1 断面 (北西→南東)



H-1 全景 (西→東)



MO-27 南東側全景 (北西→南東)



MO-27 北西側全景 (南東→北西)

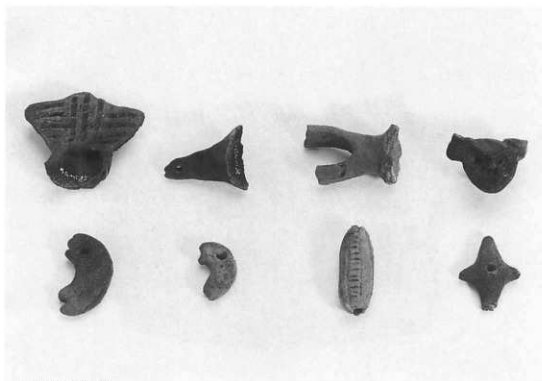


MO-27 断面 (南東→北西)



MO-28 全景 (東→西)

写真 8 住居跡・壕状遺構



包含層出土土製品



包含層出土石製品

写真9 出土遺物 1



CP-29 出土 正面



CP-29 出土 側面

写真10 出土遺物 2



CP-29 出土 底面



P-93 上面出土

包含層 (k53b II) 出土

写真11 出土遺物 3

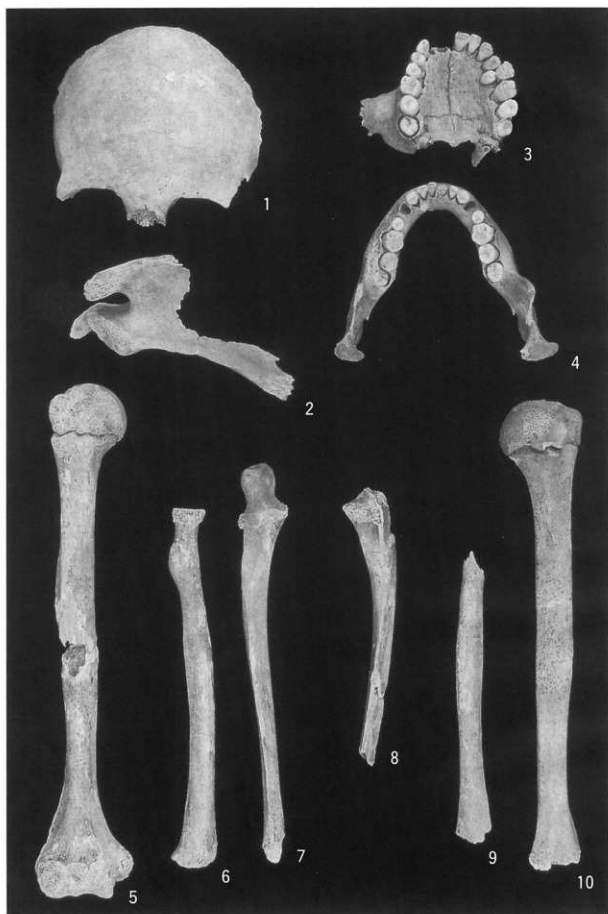


写真12 人骨1 ビット2出土人骨(1) (約1/2)

1. 頭蓋骨(前頭骨) 2. 肩甲骨 3. 上顎骨 4. 下顎骨 5・10. 上腕骨 6・9. 橈骨 7・8. 尺骨
2・8~10は左側、5~7は右側



写真13 人骨2 ビット2 出土人骨 (2) (約1/2)
1. 寛骨 2・5. 大腿骨 3・4. 脛骨 1・4・5は左側、2・3は右側



写真14 人骨3 ビット14出土人骨 (約1/2)
1. 頭蓋骨 2. 上顎骨(右側) 3. 下顎骨

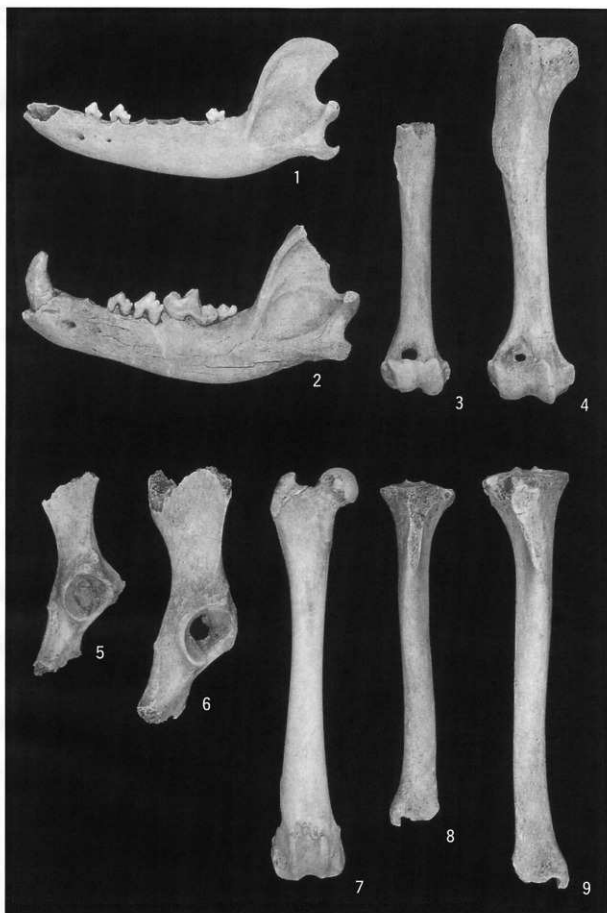


写真15 動物遺体1 イヌ (約2/3)

1・2. 下顎骨 3・4. 上腕骨 5・6. 寛骨 7. 大腿骨 8・9. 脛骨
 1・2・8は左側、3~7・9は右側



写真16 動物遺体2 その他 (約2/3)

1. クマ♀下顎犬歯 2. クマ♀上顎犬歯 3. クマ(幼獣)上腕骨 4. クマ(若獣)尺骨 5. アシカ♀踵骨
6. アシカ♀脛骨 7. クマ上腕骨 4・5は左側、1~3・6・7は右側

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおかわいせき							
書 名	大川遺跡							
副 書 名	余市都市計画道路事業(3・4・13河口港線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編 著 者 名	乾 芳宏・原 靖寿							
編 集 機 関	北海道余市郡余市町							
所 在 地	〒046-0015 北海道余市郡余市町朝日町2番地 TEL 0135-21-2111							
発行年月日	西暦2006年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
大川遺跡	北海道 余市郡 余市町 大川町	0148	D-19-6	43° 12'	140° 48'	2005.6 ～ 2005.12	1,520 m ²	道路改良工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
大川遺跡	包蔵地	縄文時代晩期 近 世	墓 坑	土 器 石 器 陶 磁 器 鉄 器 骨 角 器		縄文時代晩期の 墓坑群であり多 量の副葬品が出 土した。 近世の貝塚が出 土した。		

大川遺跡発掘調査報告書 (2005年度)
余市都市計画道路事業(3・4・13河口港線)に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

編集・発行 余 市 町
〒046-0015
北海道余市郡余市町朝日町26番地

発 行 日 平成18年 3 月25日

印 刷 株式会社 おおはし
北海道余市郡余市町大川町14丁目14番地
